明治三十七年八月二十五日第三種郵便物認可

October 20th 1904

Report of the Sericultural Association of Japan.

NO. 149.

大日本蠶絲會報

第百四拾九號要目

論叢

●聖路易博覽會と米國の蠶業　男爵　松平正直
●長野縣製絲業一斑　三谷徹
●蠶絲業要錄　松永伍作
●蠶兒の細菌接種試驗　農學博士　澤村眞
●日露戰後の經濟界　橋本重兵衛
●蠶兒飼育の關係及其飼育の經濟方法に關する研究　農學士　野村彦太郎
●變質生絲の原因調査　理學博士　中村雅次郎
●柘蠶の研究（英和兩文）　佐々木忠次郎

講演

●汽罐使用心得　工學士　芳賀惣治郎

外報

●聖路易博覽會通信　大野又次
●佛國蠶絲業の衰頽と生産奬勵金　ア、モジコナシー
●清國浙江省の蠶絲業　前島次郎
●佛國「モンペリー」農業學校蠶業部に於ける蠶兒飼育の概況　峯村喜藏

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mitoshirocho, Sotokanda, Kanda, Japan.

日本帝國(英)著名製絲家名鑑(文)

米國聖路易博覽會の開設を機とし同會へ出品したる製絲家の賛同を得本邦蠶絲業の沿革竝に各製絲家の商標(原形原色石版)及ひ其事業の梗概を編纂したる本書は既に米國に於ける當業者は素より全世界の生絲織物に關係ある方面に配付したるに其記事の有益なる印刷製本の精巧壯麗なる至る所非常の好評を博せり而して尚僅少の殘部を存するにより實價を以て要望者の需に應せんとす御希望の向は至急本會へ御申込相成度候也

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報廣告料(三十六年十二月改正)

	特等	並等
	一頁半	一頁半
	一頁	一頁
	四分ノ一頁	四分ノ一頁
	一行	一行
一個乃至二個	會員外十二圓七錢	十圓六錢
	會員十圓六錢	八圓五錢
	三圓五十錢	三圓五十錢
三個乃至六個	會員外十圓六錢	八圓五錢
	會員八圓五錢	六圓四錢
	三圓	二圓五十錢
七個以上	會員外八圓五錢	六圓四錢
	會員六圓四錢	四圓二圓五十錢
	三圓	二圓五十錢
	十八錢	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絶す
廣告料は前金に限る

●本報定價　一冊　金拾五錢
一ヶ年分前金壹圓五拾錢

明治三十七年十月二十日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區美土代町三丁目二番地　小池市松

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

發行所　東京市神田區美土代町三丁目二番地　大日本蠶絲會
(電話本局一四七三番)

勅語

開戰以降朕ノ陸海軍ハ克ク其忠勇ヲ致シ官僚衆庶其心ヲ一ニシ以テ朕カ命ヲ遵奉シ著々其歩ヲ進メ今日ニ及フ然レトモ前途尚遼遠ナリ堅忍持久益々奉公ノ誠ヲ竭シ以テ終局ノ目的ヲ達スルコトヲ努メヨ

桑及桑蠶と其繭

大日本蠶絲會報 第百四拾九號

目次

論叢

●帝國議會博覽會と米國の蠶業　男爵 松平正直

●長野縣製絲業一斑　三谷徹

●蠶兒の細菌接種試驗　松永伍作

●蠶兒の細菌接種試驗　農學博士 澤村眞

●日露戰後の經濟界　橋本重兵衛

●蠶兒飼育の關係及其飼育の經濟方法　野村彦太郎

に關する研究　農學士 中村雅次郎

●繭質生絲の原因調査　理學博士 佐々木忠次郎

●柞蠶の研究（英和兩文）

講筵

●汽罐使用心得　工學士 芳賀總治郎

問答

●蠶料の件に就き質問答●蠶沙腐肥の件に就き質問答●煙草栽培と急蔓との關係に就き質問答●繭質の與否如何及其優劣問答●蠶紙に就き質問答●柞蠶の性質及增殖に就き質問答●桑樹の件に就き質問答●蠶種製造國に就き質問答

絲況

●橫濱生絲●經糸市場●製糸市場●上海市場●歐米市場

外報

●帝國議會博覽會通信　大野又次

●帝國蠶絲業の現狀と生產費　ア、モクワナケー

●清國蠶江省の蠶絲業　鈴鳥次郎

●佛國モンペリー蠶業學校蠶業部に於ける蠶兒飼育の概況　高村吉藏

●伊太利に於ける絹工業●佛國四川省の蠶絲業●佛國綿羽（蚕種入荷）●蠶絲博覽會に於ける絹絲の價格

時報

●會務錄事　日本蠶業不製絲業者部の設置　評議員會　役員委任

●懇親員の設置　會員銀行　製茶會社會員　下野支會の臨時總會

●蠶業總會　信州蠶業會　岡本縣知事の絹製造事業　蠶業上の

●新合資會　組織の設置　新設絹糸商業組合　蠶業上の

●蠶業調査　新潟縣西蒲原郡蠶業調査　蠶業上の

●蠶業調査　新潟縣蠶業調査　蠶業上の

統計

●明治三十六年國產蠶絲總數

大日本蠶絲會報　第百四拾九號

聖路易博覽會と米國の蠶業

大日本蠶絲會顚　男爵　松平正直

有は本會松平會頭が歡迎會席上に於て談話されたる聖路易博覽會談に、食卓上にて試みられたる米國蠶業法み思出ての儘を綴り附け加へたるものなるが、本誌印刷の期逼迫し爲に校閲を經るの暇なく終に掲出するに至りしも其で、多少の誤聞誤認なきか保せず、是れ特に會員の寛容な請ひ讀者の諒察を乞ふ所以なり。

諸君、今日は大日本蠶絲會員諸君が私の称路易博覽會の職務を帶びて出張致しまして、まだ終りはしないが、マア無事に歸朝致したことを喜んで晩餐を共にすると云ふ御厚意で御案内を蒙りました、誠に諸君と倶に食卓を共にすることは正直の名譽として喜ぶ所で、又諸君の御厚意は滿足に堪へぬ次第でございます、因つて何か向ふの事情を御話するやうにと云ふ御望みもありましたから、及びますだけ御話するが當然である、又することが多少ありますが、さりながら博覽會と云ふを中心として始めから終りまで御話することは實は一席では盡し盡るほど其事柄は廣く亘ることであります、細大となく審に御話するには實は此間演說の控を拵へて置きましたからそれを朗讀すれば濟むことであります、御望みの方があらばそれを朗讀致します、今日は其中の要領を摘み、殊に生絲と云ふ方面の因緣に於て出來得るだけ御話することに致しませう、先づ以て博覽會の大體に就て御話して置きませうが、此中には博覽會の黑人の御方もありませう、又出品を出されて御覽のある方もありませう、一體博覽會の成効と云ふことに、二通りあり、其の一は實益主義である、即ち出品物は澤山賣れて素引勘定が儲つたと云ふことを以て標準を立てる、所謂商賣利加流義で買賣を取つて効ある、今日は博覽會は斯の如きものでない、パーでは効ある、今日は博覽會は國と國との間の有無相通ずる媒介の間柄である。博覽會は增城萬里を隔つる國をして一堂の中に握手せしめ、物産上親密の關係を結ばしむる國をして商機を見出す事が出來るを儲けるを其の主目的である、此寸法から云ふと賣れる賣れぬは第二であつて其目的

を達すれば即ち博覽會の成効と謂て宜しい、世人は大抵物が賣れさへすれば成効である樣に考るが、賣は賣れたばかりで成効とは言はれない、賣れたばかりで成効と云へば京都の池田某の如きは今度の博覽會では一番大成効である、是は船中で詳しく話をしたが、なんでも大抵五六萬から十萬の骨董道具の善いものを亞米利加へ持つて行つて桑港でポッと賣つて仕舞つた、賣ると云ふことに就ては頗る手際は良かつた、併し博覽會はさういかぬ、博覽會ではソンなことは出來ない夫れなら此度の博覽會はドッかと云ふと、松平は大成効と云ふ、此くらゐの成効は日本が博覽會に賛同した以來未だ曾て無い成効だと斷言して憚らぬ、然らば品物が賣れて算盤に合つたかと云ふと、チカ〳〵さういかぬ、松平がアチラに居る中には七萬弗しか賣れない、今から洗ひなさてには十五萬弗や二十萬弗は賣れませうが、それが賣れる賣れぬに拘らず成効と云ふことは斷言が出來るのである、なぜ斷言が出來るかと云ふと、御同樣に熱血を注いで居る此日露の戰爭も實に百戰百勝で、戰勝國と云ふ限なき光を博覽會上に輝して居るが、此會に於てアチラの狀況と云ふものは溢るゝ許の同情を表し歡迎して居ることは論を俟たぬ、コチラで想像したよりは尚ほ一層親しい、さりながら其輝きに依て評判を受くると云ふばかりでないことを茲に言はねばならぬ、此博覽會の實績はドッである、即ち勝敗に拘らず獨佛英米と肩を並べて稱する迄の實績と此度びは偏へました、諸君御喜び下さい、是が博覽會と云ふものに賛同した以來未だ曾て無い日本の出品の仕方である、即ち佛蘭西博覽會の時は出さぬ區が澤山あつた、運輸館又は機械館と云ふやうなものは出さなかつた、出したのは能く覺えませぬが教育などはあつた、けれどもチカ〳〵眼で見れない、只目立つたのは工業館、美術館である、是は鬼に角佛蘭西が目が着いて居つたに違ひない、所が今度の博覽會出品區別は十三區に分れて居る、此十三區に分れて居る各區に向つて日本よりは出さぬ區は無い、此度び審査を受くる區に於ては出品目録をアチラで調製しませたが、スッカリやつて見ると園藝館まで日本が大なる出品があると云ふのは意想外である、斯の如く各區とも出品が悉く揃つたと云ふは此度び亞米利加の博覽會に賛同した各國の中でもさうはなかつたでございませう。

それから其評判はドッだと云ふと、先づ證據立てをすれば緋育第一流の雑誌が特別に博覽會の號外を出した、是は厚さ一寸もある、刊雑誌であるが其中に日本の出品を批評した、倫敦タイムスの通信委員はワザ〳〵鐵路驛まで遣つて來て詳細に報告したからタイムスは此評を書いた、之を以て外國の批評は充分なりと云つて宜いと思ふ、それは非常なる賞讃の仕方である、先づ日露英佛と云つて日本を非常に善い位置に置て居る、此度の亞米利加の博覽會に於ては日露のあらずんば日露の博覽會と見に行つた甲斐がないと云ふくらゐで、實に絶頂の絶頂に登つたと云ふ批評の仕方である、如何にして斯の如き好評を博したかと云ふことを深思して考へて見ると成る程と言ふ筈である、日本出品の陳列は裝飾が淡泊で如何にも田舍風の質朴にして華麗なことがない、ピカ〳〵さして素人の目を驚かすことが無い、それだからアチラに行つた意匠家とか美術家とか云ふ連中は日本の裝飾は言語道斷だ、マルで素人の裝飾の仕方だなとゝ云て居つたが、松平は少しも顧ない、何ぜなれば裝飾は反古である十一月になればドンな華麗な裝飾でも取解して仕舞ふ、何等の効能も無い、それも贅澤が流行する時代ならばいざ知らず、今は餘り無駄な裝飾に重きを置く時代ではアトの御話にして、教育、鑛山、水産、農業、園藝、衛生、警察、電氣、斯の如きものは皆參觀者の意思外に出て居る、と云ふのは教育館に行つて見ると小學より大學に至る學校の秩序をズッと實物で顯し、實業學校の順序を專實で顯し、其他特設の實業學校、農業學校、商業學校其他各種のものを統計で顯し、日本の數學比例は百分の九十まで上つたと云ふ詳細の表がある、それだから日本に於ける教育界の現象は一目瞭然である、ソコへ來る者はどう云ふ者か、云ふと、婦人女子が重てあつて是等は大喜びで教育館を見る、そうして日本の教育程度が進んで居るのを見て手を打つて驚く、日本と云ふ國は不思議だ、ソンなに教育が厚いで居る、是は實にエライ日本軍隊の勇壯なるも全く此精神的進歩に基くである、ふ、是れでは露西亞に勝つ譯だと言つて喜んで居る、又鑛山は日本はドッであるか、鑛山に行つて見物入㊀模樣を見れば鑛山館には陳列の工合も宜く一番に金柱をズッと立並べて目に着く所に置いたから、日本の如きアンな島から斯う澤山な金が出るかと云つて驚て居る、又たそこへ持つて行つてレールがチャンと通てある、日本では鐵道のレールまでも出來るかしら少しも文明國と違はないと、何のことなく無暗に賞める、それから三池の炭坑、古河市兵衛の鑛山の模型を見て日本にはコンな大仕掛で採掘が出來るか、又石炭もあるかと言つて批評して居る、歐米の婦人、殊に亞米利加の女にはお喋舌が多い、默つて歩く者は無い、見物しつゝお喋舌しつゝ歩くと云ふ有樣である、又山林の方では竹が評判が宜い、日本の竹はソックリ貰受けたいと云ふ人があつたが、それは應することは出來ぬ、一本宛隣して貰うことゝなつた、それから水産に至つて貰れたものは魚釣針である、是は無くなると復た出す、出せば復た賣れる、釣竿、糸、釣針の景氣と言つたらスバラしいものである、其後で、チラの魚釣竿は實際で一組十弗も十五弗もするが、日本は二弗か三弗であるからビックリして買て行く、其他經木貰出などは非常に評判が宜い、それから農業館は臺灣が人目を惹いた、コチラの方の農業館中の醤油、ア、云ふものは能く賞れるとは思ひ設なかつた、アレは將來やり方次第で販路は擴るとは思ひ設なかつた、此農業館の組合出品は當てた、此組合出品他日は曾斯の如くならなければいけないと思ふ、ビール、醤油、酒、平野鎮永、菓子と云ふやうなものは其組合でやつて裝飾まで組合が有證してから賞に裝飾は華麗である、幕を張つて面白く座敷を作つて其中に婦人が茶を立て居る人形を作つてソコへ電氣を付けた、一體農業館と云ふと百姓がした仕事かと思はるゝけれども日本の農業館に遣入つて見ると〳〵さうでない、秀麗高尚であるから非常に參觀者の人目を惹いたと云ふが有樣である、それから警察、警察は日本ぐらゐ總てが揃いて居る所は

ないと觀者を感心させました、又電氣及汽機館は好評を博して居る、芝浦製作所では汽鑵の中にゼンマイみたやうなものを入れてそれに蒸氣を通すと湯の沸方が半分の時間で沸く、それは海軍などでは軍艦に用ひて居る、此裝置は日本の發明であると云ふことを私はアチラに行つて知つたのである、電氣機械も日本に存外善いものがある、園藝の如きは日本の庭園幾らず審査を受けて宜い、牡丹芍藥などを持つて行つた花卉類が能く賞れる、日本より三倍くらゐに賞れた、それは今度園藝として審査を受くると云ふことになつて居る。

以上御話したやうなものは眞に各國と對峙して少しも遜色出品のある、絲に今回出品の運輸館に至つては非常の特色を持つて居りました恐らくは各國の出品中にも觀るべからざる第一流と言つて宜い、是も矢張り共同出品で鄭舶會社は之か爲に七萬圓を費したのである、即ち鄭舶會社は此中に大きな一劃を有して其中に休憩室を設けてツコヘ京都の川島裝兵衛が綴れの錦に宮内省御寶藏の二十八幅の額面の善いものを織出したものを裝飾とした、それは非麗優美を盡したものでない、充分美術館で受くるの價値がある、けれども出品者の發みで運輸館で審査を受くることにしました、それから大阪商業會議所が管理に係る地形の模型です、[illegible]

[illegible]

[illegible]

ことが誠に悉く能く分て良いと云て大喜をして居つた。

所で今度は惡口の御話でありますが、失敗も工業工藝館にある、何が失敗であるか七寶、陶器、銅器、織物云ふものは退歩せりと云ふことは言はないが、何と云ふナサケない。一歩も進まぬと言つて噴慨する程どころである。日本人は技術的知能進歩的思想を持つて居るのに斯の如き有様であるとは松平自からも慨入が次第である、其出品者は如何なる考へを持つて居つたか、コチラで許可した數の殆ど倍以上も出して迚も勘定も面積に列べることが出來ない半分は縁の下に隠して仕舞、又己むを得ぬから仮に幕を張つてソコへ押込んだくらゐである、斯の如く無暗に澤山出したのは第一に七寶である、其次は陶器である、そこで此七寶の中には隨分意匠の斬新なものもある、御承知の名古屋の安藤の職工で用出の作とか、薩川のやつたものとか、京都の稲葉などが骨を折つて造つたものは高尚で立派で宜いが直段は高い、それから貰れない物を棚卸しをして持つて來た、趣向と云ひ、模様と云ひ、色氣と云ひ陳腐に屬して居るものがある、價格もゲート安い、そうなると嘗賞人を迷しめて、是は幾ら、三十弗、是は又馬鹿に安い、其五百弗と三十弗との差異は何處にあるか一向分らない、或は此七寶焼は毀れるのが賞んで居るではないかと疑ひ、或は何れか一方の直段は間違ひでないかと思ひ、遂賞ふことを見合する、次は陶器でありますが、私は多少陶器を厭んだことがあるから憂念千萬で汗ぶ出た、丸谷焼でも薬田焼でも薩摩焼でも今時の陶器でない、見付きはピカ〳〵として濃厚い金だの赤だのを澤山出したつてあるが、五年も十年も貰れなかつた欧米でも買はない、日本でもイヤがるものを今度持つて來たと思ふほかない實に恥かしい、又鉛光山の焼いたのもある、薩川香山の焼いたのもある、それから名古屋でも九谷でも善いのがあるが、兎に角ワケが分らず澤山に出した其中には古臭い野卑なもの多く、其處に善いものが交つて居つて驚嘆の區別が付かぬから貰れない、佛蘭西とか獨逸とか英吉利とかの出品を見ると殆ど日本のものと位置を替へて居る、彼等の陶器は元の日本の陶器の如く高尚優美なものである、只無暗に華麗な形を逆けて何とも言はれぬ宜い形を持つて居る、書いてある繪を見ると殆ど日本人がやつたかと思ふ光琳風の繪、光琳ばかりでなく、元の探幽雪村あたりの枯木寒鴉だの蘆雁だのを書て居る、是は外國ではチカ〳〵流行してると見ふる、さう云ふ高尚な陶器を出して居る所へ本家の日本が見たくないものを一山百文的に交ぜて出したから誰も顧るものがない是は先づ失敗であります、それから銀器ですが、日本品は目方は重い細工は多くは鑑だの牡丹だのである、價はドウかと云ふと高くない、私は紐育のショパニーの店で銀器の價を聞いて見ましたが、日本風の鉢は二百弗、日本品は其半額百弗安い、同じ目方でショパニーの製品は二百弗にも貰れるから不思議である、是はどう云ふ譯かと云ふと、日本品は形が二三十年も前の横濱式で所謂田舎の土臭いと云ふ風でショパニーなどはマルで趣きを異にして居る、ショパニーは年々改良して式も彫刻も誠に高尚優雅に出來て居るから御座敷向きには極て宜い素より銀器は贅澤家の用るものであるから地金の目方から割出した銀器などゝは譯が違ふ、それだから古臭い横濱式の外國向きのものを持つて行つては少しも買はない、象牙細工は手際が上つたとは言はれないが、繪程頭を使つて骨を折つて居る、けれども出品の價はワケも分らぬほど高い、秘閣もアレには頭を悩して居る、それから、賞めべきものは刺繍である、此刺繍は非常に進歩して大喝采を博した、此刺繍の上に硝子を張つたが、外國人は是は絵ではない繪だ、コンな繪は無暗に擦するから汚損する憂がある故に硝子を張らしたのである、さう云ふやうな次第で刺繍は大持てであるけれども貰れない、何ぜなれば屏風一双が五百弗、千弗と云ふ直段であるから簡扇を買ふとは譯が違ふ、併し九月、十月、十一月には紐育、ボストンあたりから人が出て來るそうだから多少貰れますせう、それから羽二重は是は極り切つたもので問屋向きに割引きで仕入れるから迚もハンカチーフのやうに一口賞にはいかぬが、終びには貰れるでせう、又貰れぬ所て格別てない、織物て殘念なのは帶地、錦繍の如き西陣織物である、此等の織物中には色合や縞柄や澤山出て見ても貰氣にならない、それは着物にしては色合が面白くない、緞張掛けには面尺が合はない、卓掛けにもいけない、と云ふと使途がないから途止める、丈も川島などの製造であれば、チャンと緞張は緞張、テーブル掛けはテーブル掛けに出來て居るが斯う云ふものは又價が高くて貰たくも買へないと云ふ始末である、そこで是は何ちか向ふの意氣に投ずるやうに一歩進んで趣向を凝したら良からふと思ふ、それから寝臺掛け枕掛けの刺繍のあるものは是は慣次第でドンン貰れることは極つて居る、織物の惡口は此位にして置きましよう。

茲に於て特來どう云ふものが此度びの博覽會で種が揃げたか、或は貰が持つか、何を結ぶかと云ふ間題になると殺から數である、それは先づ第一雑貨が多い、前に云ふた魚釣針、竹籠、木通籠、柳行李と云ふやうなものは宜い、又團扇、扇の類も充分望みがある、岐阜提灯、雪洞類も望みがあります、それから菓子も面白い、初め出品の時は日本の菓子は絶對的に米國に持つて行くのは馬鹿氣たものだと云つて卑しめた、所がさうでない、喫茶店などで茶を一杯飲ましむると十錢で夫れに煎餅二枚付て居る、西洋婦人、殊に慕路易の女は此煎餅をバリ〳〵食つて喜んで居る、そこで菓子は絶對的出す出さぬの論でない、西洋人は日本人の三倍も食ふと云ふことを確めた、それだから女の氣に入るやうに薄荷でも入れてやつたら日本糖入の菓子は大もてになつてるであらふ、決して菓子は輕んずるものでない、それから象牙細工は別に改良も要らぬ、是より直段を高くせなかつたら幾らでも貰れる、御覧の貰れたのは不思議である、是は何百目の目方であつて細工をするに何人手間が掛る、こうすると慣は安い、地金にしても何の位だと勘定ヤクて貰ふ、それから日本の着物を出すと國辱だなと云ふ議論もあつたがソンナことはない、アレはナカ〳〵大持てである、大統領の娘さんが着物が見たいと言ふので着物を買る所に連れて行つて見せたら結かつて

居つた。とうとうで其家主は「オヤ！氣の利いた男！獻上しませう」と言つて出したから、大喜びをした、アレは着て寝るに違ひない、是は一概に論ずることに出來ない、けれども多少貰れてあらふ。

そこで改良すべきものは上質、陶器、銀器とか云ふものは少し黒人前の人が研究して戴きたい、今度飯光山の如きは既に他の關西の有つて居たが、是は是非充分に研究し盛況を失墜せない樣に、よく奮發を願はねばならない。

餘り話が長くなるから此の邊で措きませうが、博覽會話中には善いことも惡いこともある、成効もあり失敗もある、然るに私が非常に滿足をしたと云ふのは外ではない、日本の國民は將來益々有望であると云ふ爲めである、それは何ぜだと云へば、御覽の如く、此の如く發達した政府の仕事が如何に敏捷に行つたか、無論敏捷の力も、興で居りまして此の發達は當事者の者が物苦心して磨き上げた賜である、僅か三十年間に見れば、此の効果は國民である、と成る能力を持つて居る國民でもあるから先きも同一の速度で進むに違いない、實に末頼しい心持をする、日本人は惡く言へば素早い、賞めて言へば機敏、機敏にしてさうして算盤を持つことも矢張り上手である、此國民の上に築たる日本國、その國力の大進力で進み進みつゝあるのを見て、私は喜悦に堪へません、是だけ進んで來たから五億圓の戰費を及ぼす氣遣はない。此國民の力が無ければアレだけのことは決して出來ない、兵力ばかり强くても國民の力が幼稚貧乏であれば戰爭は出來ない、外國では戰爭は大變强いが彼の貧乏國戰爭をする金は何處から求むると思ふて居る、そこで屢々松爭は軍用金の出處の質問を受けた、私は何時も此戰ひが出來るだけ國民が實力を持つて居るから心配に及ばんと答て居つた、是から先きも國の富を高める力を國民は持つて居る、其例證を擧げると斯うである、若し假りに支那が露西亞と軍をして遼順連勝した者と見てドウであるか、支那の出品に對して亞米利加人は如何なる批評を下しませう、善いと云ふ言葉は少しも言はない、結構であるなとゝは御世辭にも言はぬに違いない、戰ひに勝てば勝つたゞけを賞讃して博覽會の出品は、只御氣の毒と云ふに止むるでせう、一歩進んで伊太利或は濠洲は賞められるか、矢張り賞られない、日本ほど物が揃はぬ、見るとは實力があるから博覽會に於て是だけの成効をなしたと云ふ、此戰爭に勝利を奏したと云ふことが言はれます、私が甚だ喜んだのは大統領が日本の民族には感心すると云ふて居られたことである、其言葉は虛言でない、日本の民族はドコまで進むか底止する所を知らぬ、斯う云ふことをアチラデ見て來ましたが、夫れを御話すると長くなりますからテキサスの方へ來の觀察に往て感じたことを一言附加します、其時驚きましたのは到る處に天然の桑樹が澤山生へて居つたとであります、それから右の觀察を終りまして歸途或る所に住つて居る日本人の長澤と云ふ人の所に立寄りました、此人は今四百

町歩許の葡萄園を持つて年々六千石の葡萄酒を釀造して居ります、ソコに寄りまして色々話をして居る時に長澤が一束の生絲を私に見せました、そこで是はドウしたものかと問ひましたら、是は日本から蠶種紙を取寄せ養蠶をして取つた繭を私の家の下牌に手廣きの時に繰らしたものである、それで今養蠶やれば幾らでも出來る、併し現米利加は工手間が高い、だから人を雇つて居ることは困難である、と云て居りました、そこで是は一番日本から多數の人が來てやれば必ず有望である、向こうでは工手間が高いから國機を澤山使つて盛んに製絲をやるのである、と云ふ樣に對して今より充分負けないやうに攻究して貰かなければならぬ、米は日本の特有物産であるから外の國では日本のやうに出來ない、生絲は日本の特有物産である、と云つて居つた樂天主義は五十年も百年も前の事で、今日では其考へて居つては大間違に社會の進歩に後るゝのみである、優勝劣敗の結果却つて外の國が日本の特有物産を奪ふかも知れぬ、之に付ては外の國が人工を持つてしても機械を持つてしても到底日本のものには及ばぬと云ふやうに發達させなければならぬのです、夫れから又日本の實業家の内には關稅政策即ち外國より輸入する物品に重稅を課して内地の生産を發達せしめようと云ふ考へのものもあるやに聞て居る、マサカ蠶絲業者には一人もあるまい、來る四十二年關稅改正の時には我々は大に霊考へてあるが、實業者は之を當にするような姑息の考を持たず自分の腕と自分の力として大に生産の改良發達を圖らなければならぬ、日本國民は世界の强國と對手として戰ふ者である、不屈不撓の精神を持つて進歩し戰運勝の効果を收めつゝある國民であるから、又他の事に於ても同一の精神を持つて進歩する國民であることは決して疑ひない、と云ふことであります、それで今後此養蠶絲のことに付ては諸君と共に益々奮ひ勉めて此事に敢ふ為めに大發展をなさしめたいと考へるのであります。

外の繭の入るつとひて静かかな

先りまはゆき大和撫子

信　四　生

長野縣製絲業一班（承前）

大日本蠶絲會
通常會員　三　谷　徹

第五、燃　料

由來長野縣は山林に富み燃料に乏しからざりしが、其逐年盛大に到りし製絲業は遂に悉く之れを伐採し盡して今や到る所之れが窮乏を訴へざるの地なし、此を以て燃材の價格は日に昂騰し斯業經濟上殆んど使用に堪ねざるものあり、新潟縣より輸出する重油の用途極めて狹小なりし時代にありては經濟上是れを以て薪材或は石炭等の燃料に換へたりしも、今や其用途益々廣く從つて其價格も著しく騰貴したるを以て之れを使用する能はざるに到れり。

石炭は西城炭として該地方より產出せるものなきにあらずと雖も、其質粗惡にして而も其價格高きが故に經濟上利なならず、故に鐵道に接近せるの地即ち上田、松代、須坂、松本等の如きは之れが便を借りて遠く之れを岩代地方に仰ぎり、蓋し其價格は薪材に比し極めて廉なるものあれども、然れども諏訪地方に於ては廐尻の鍍阪あるが爲其運搬費に巨額を要し其價格を著しく高からしむるものあるが故に薪材を使用するの便且つ益あるに加かずと云へり、故に該地にありては石炭を使用するもの極めて少なし、燃材已に斯の如くに乏しく且つ其價格高を以て該地にありては專ら燃材の消費に意を用い窃めて之れを節約せんとするものゝ如し、試みに見よ彼の業務の終始に報ずる時報の如きも敢て汽笛によらず鐘ね、振鈴を用ひ、蓋し是れ實は工女が概ね寄宿にして、宿泊するを以て、關係も固より之れあるべしと雖も、燃料經濟上に重きを置くの一事は亦以て證と云ずに足る、該地の製絲家が中央鐵道の貨通を窺ひ早天の雲寫も曾ならざるもの豈故なしとせんや、試みに各地に於て調査せる燃料の時價を左に示さん。

松材六尺立方

上田	四円一銭片	
松代	四五、	—
須坂	四〇、	三五〇
松本	—	三七〇
諏訪	—	三六〇
松島	—	三〇〇
諏訪	—	三六〇

第六、用　水

用水は工場所在地に於ける水利の便否によりて各異れり、信陽館、天祐社、白鶴社。七曜星社の如きは渓流を利用し、六工社、六文錢、片倉組、尾澤組等は井水を使用し、東行社、俊明社、木ノ下製絲、三全社、岡谷製絲の如きは河川を引用す、而して水量は四時共豐富にして水質は上なし、由來長野縣に於ける生絲が特殊の光澤を帶ぶるもの蓋し用水の佳良なるもの一大主因なるべきなり、此を以て製絲濾過法の如き改良法を施すもの亦多きを措かざるものなし、如斯にして其材料も砂礫木炭の二種に止まれり、尤も海綿等

使用するの如きも材料は如何に永く使用して殆んど其效用を失はざるに至るも供するに過きずして水質改良に至りては殆んど何等の効果なかるべからざり。

第七、工　女

一、工女の屋入

工女の屋入地方は製絲工場所在地によりて各其趣を異にせも、即ち上田、松代、須坂、伊那地方は概ね工場附近に於て之れを求むるを廉も、諏訪地方にありては製絲業の殷盛なるに比し人口稀の稀薄なるを以て工女を其附近に求めんと欲するも固より得べからざるなり、此を以て多くは之れを他地に仰げり、今其屋入地方を聞くに近くは伊那、筑摩、安曇、遠くは飛彈、甲斐、越中、越後、美濃、三河等よりすと云ふ、此の如く諏訪地方は工女の缺乏甚だしく從つて之れを遠隔の地より求めざるへからざるの止むを得ざるものあるが故に、屋入に當り自然競爭を惹起し、遂に爭奪の弊を結果、到底正當の手段によりては容易に之れを求めざるの狀況なるが爲、或は誘惑、或は法律の行爲を敢てしなりて憚からず、否なれば爲に法律の制裁を受くるも固より辭せざるの覺悟を以て之れに當ると云ふ。

今其屋入狀況の一端を聞くに、各工場共一月に到れは三月に屋入るへき工女の契約を爲さんか爲に特に能弁機敏の現業員を選み之れを屋入地方に派出せしむ、而して其意集地は各工場共概ね同一なるが故に一人の工女に對し數工場より契約を申込むことを敢て少なしとせず、此を以て工女は其競爭を利用し、或は工賃の直上を要求し、或は前金の借用を強請し、自己の希望を滿足せしむるものにあらざれば契約を締結せずと云ふか如き放縱の行爲を敢てするに到れり、而して製絲場にありても亦之れを拒絶すれば却て他に奪はるゝの恐れあるを以て悉く其請を入れて其契約を締結するを通例とす、特に工女若くは其父母の奸黠なるものにありては往々二三の工場に契約を結び以て契約金及前借金を詐取せんと企つるものたきにあらずと云ふ、工女己に斯の如く不正の行爲を敢てするものあるが故に、製絲場も亦之れに倒ゆるかため其屋入後は無暗に勞働を強いて以て其健康如何を顧みず開用を厳にして以て其賃金を減殺せんと企つるに到る、は亦勞の止むべからざるものあり、此を以て工場と工女との關係は各利害を相異にし、從て相愛の如き情誼なきに至るは亦止むを得ざるの二或は四分の三を失ふを以て新工女を募集するの必要を生ずるに至れり、試に工女の永續年數を調べは其二年以上に及ぶものは實に寥々として晨星も啻ならず云ふ、亦以て工女爭奪の劇甚なるを察するに足る、而して其事情已に斯の如きが故に工女募集に要する費用は極めて多く、其少なきも一人に對し二圓多きは五圓以上に及ぶことあり云ふ、此を以て製絲場にありては可及的工女を他に轉せしめざるの策を考へ、解傭の際賃金の幾部分を扣除し徐ろ約するに次回契約成立の曉に之れを支拂を以て、故に若し工女にして事情のため次回の契約に應せざる場合にありては工場は事に托し

て之れを支拂はず、而して工女も亦其次回の契約を拒むに當りて固より之れが損失を豫期せざるなり、抑も此の如く工女が當然支拂を受くべき工賃を抛棄して顧みざるは甚だ奇なるが如きも決して奇なるにあらず、即ち其損失高だは新たに契約せる工場か支拂しべき工賃に比して遙の小なるが爲め之を工場所在地方より募集して自由除外の契約を以て

前口のものは未だ製絲の事を知らざる工女に繰絲せしむる組織にして、生絲の品質は其二を知りて未だ其一を知らざるが如く、何人も遠く工場に比し、繰糸に於ける技術の巧拙は失敗の多少に基づくものなれば、其一を知りて其二を知らざるが如きは、是れ工女の大部分が、其一を知りて其二を知らざるが如く

枝を澤山出して之を刈取るようにするのです、日本の養蚕は すべて支那を受け繼いだのですから、此仕立ようも支那の者が變化したのだと思ひます、而して其大技の數に依て或は四拳式、六拳式、八拳式などの區別がありますが、宅地の周圍や田畑の畦畔にも仕立てたら至極よからふと思ひます、けれども是では四年も五年も桑葉がとれぬ、そんな氣の長い仕立方では困ると云ふ方も亦他にやりようもありませ、とは立木とし、成るべく高くし、訳なく高くなるものは、中間に植た桑を取るのです、而して立木とする桑が大きくなるまでは此中間に何か木の苗を植て立木とする桑とする桑が大きくなるまでは此中間に植た桑を取るのです、而して立木とする桑が大きくなるまでは此中間に何か木の苗を植て立木

廿九	ミグロアクルス、ブラロイス	六月十七日より同十七日	第六回 五 三
三十	バチルス、プロヴォカス	同	同 三 〇
三十一	サルチナ、ルテア	同	同 五 〇
三十二	卒倒菌（三）	六月九日より同十四日	第一日 五 五 第一に同じかつた
三十三	紅化病菌の一種	同	同 五 〇

卒倒菌（二）は鏡検より分離したのである。

卒倒菌（一）は鏡検より分離したのである。

卒倒菌（三）は鏡検より分離したのである。

大腸菌（二）は鏡検より分離したのである。

大腸菌（一）は鏡検より分離したのである。

メガテリウム、ロオヂアノイス、ロオヂアスなどは間違より取寄たのである。

私は此試驗につき多くは言はぬが此成績を觀ても分る。リツム大腸菌、ビオチアノイス、ビオゲナスの如き普通に存する細菌が蠶兒に寄生して病を起すことは確であらう。此の如く種々の細菌が蠶兒に寄生し得れば從來知られぬ細菌に由りて病を發することも固よりあらう。嗟自分は餘り珍らしき細菌を未だ見ることを得ないのを殘念に思ふ。（卒倒菌に關する研究は別に公にする積である）。

日露戰後の經濟界

大日本蠶絲會
技藝委員 橋本重兵衛

本邦の位置は世界の極東に位し船舶の輻湊に便ならざるが、今より四十六年前海外貿易開始以來も尚ほ欧米各國の見る所に依れば單に小島嶼國として重きを措かざりしなり。然るに去る廿七八年に於ける日清戰爭に於て我國の力を世界に顯るに至るや、其後引き續き北清事件ありて英米人士の間に輕からざる信用を博するに至り、然るに其後の經濟界はそも邪邊迄膨脹せらるゝやを推測して並せて之が金融書策に國民の今力を傾注すべきは勿論なり、今茲に日清戰後より現在に至る經濟界の進行と今後に於ける之が膨脹とを想像し見んとす

本邦面積	一四七、六五五方哩
明治廿七年迄の本邦	一三、五二四
清國より占領したる台灣	一六一、一七九
合計現在の面積	

現在の日本國は欧洲各國に比し敢へて小國と云ふ程にもあらず、且つ島國なるに依り海上三哩以内は我が領有なれば其海上の利益は他國に比し多大なるべき割合なり、將來海上の利益を揭ぐるの時季も近きにあらん

欧米各國の面積人口比較

國名	年次	方哩	人口數	一方哩に對する人口數
北米合衆國	一九〇〇年	三、五〇七、六四〇	七六、二一二、〇〇〇	二一、七
英吉利	一九〇一	一一〇、九七九	四一、六〇五、三二三	三四六、四
佛蘭西	一九〇一	二〇〇、〇九四	三八、五五五、五〇〇	一八九、一
獨逸	同	二〇八、八三〇	五六、三五五、〇一〇	二六九、八
露西亞	一九〇一	一、九〇二、二〇二	九四、二一五、四一五	四九、五
伊太利	一九〇一	一一〇、六四六	三二、四四九、七七四	二九、三二
日本	同	一四七、六五五	四二、五〇〇、〇〇〇	二九四、四

（備考）本表は明治廿五年以前の欧洲諸國に於ては第一の大國なり、佛蘭西は第二の大國なり、獨逸は第三の大國なり、露西亞は第四の大國なり、伊太利は第五の大國なり、日本は第六の大國なり、

北米合衆國は獨國の面積上より云へば第一の大國なり、佛蘭西は第二の大國なり、獨逸は第三の大國なり、露西亞は第四の大國なり、伊太利は第五の大國なり、日本は第六の大國なり、

北米合衆國は獨國の面積上より云へば第一の大國なり、佛蘭西は第二の大國なり、獨逸は第三の大國なり、露西亞は第四の大國なり、伊太利は第五の大國なり、日本は第六の大國なり、

數なり、英吉利は本邦は小なるも其國土に於ては

の多きに苦み外國に移住するもの多し、本邦の現在債務は伊太利に比し十分の一弱にして又之を分頭とし見れば十四分の一強なり、日露戰後の將來は內外公債大略最近內に廿億圓に昇ることあるべし、國稅の徴集充分を得ざるの間は債務に據つて擴張を計らざるべからず。

歳出　も佛蘭西第一にして之れ即ち十九世紀中に外國と多く戰ひたるの結果負擔の多きを爲したるものなり、次きに露西亞は鐵實なる歳入を認むの邊なきに拘らず國債政策にして漸く歳出を爲し來りしものなり、佛、獨、白より國債に慣ずるもあれば何時を問はず惹集するを常とせり、分頭割とすれば多數の人民を有しながら尚ほ十五圓六十五錢に當れり、伊太利の如きは其債務は露西亞に比し少數なるも分頭とし見れば廿圓六十八錢に當れり、之と比較するに本邦は日露戰後に於て歳出は五億圓以上の負擔を爲さるべからず、然れども十年後に至り例へば人口五千萬人以上と見て一分頭十圓に過ぎず、國家負擔の膨脹するは從ひ國費多額を要するは言を待たざる所にして戰後速かに歳入を增加せしむることは到底出來得ざるものあれば止むを得ず國債に依らざるべからず。

流通資本額　に於ては第一に北米合衆國にして第二佛蘭西、第三獨逸、第四英吉利なる如く、右の內米、佛、獨は全く其國內に流通せるものなれども、英吉利は之に異り自國に正貨を貯へざるも電信を以て各國より集收せしむることを容易にして、英國は世界の金融集散地なり、故に常に多額の準備なくも差閊へを生ぜず、露西亞は最近に於て兌換制度を實行しつゝあれども其實正價準備は內部と外面とは大に相違あり、伊太利の如きも兌換制度と云ひながら其正貨に缺乏し居ること人の知る所なり、右通貨高を分頭割とすれば第一米、第二佛第三獨、第四英、第五、第六の順、伊は發行紙幣高及び正貨準備等も本邦の如く確實なるものにあらざるべし、然し本邦も流通高を增加せざるべからず、即ち今後の歳出五億圓とすれば其收入に對しても流通高に本邦の如く各國共に歳出より通貨增加しあるなかり、貿易市場の關係は何ひ得ざるの所にして現在の如きも離の資本の不足と失敗とは言へ得たざる所にして現在の如きも離の資本の不足と失敗と終るものの多かり、將來有望なる事業は資金富有なれば必ず失敗を招くことあり、資金富有なる事業は資本の離の不足と失敗とを招くことあり、又政費の微收も之ならずするを得ず然るに伊太利の如きは通貨割合多數なるに依り歳入にも差閊へなく、且つ貿易高に於ても望みあるは之れ即ち通貨の多數なるが爲めなり、我が經濟家中には現在の三億圓の流通資本にても餘裕あるに依り多數を要せずと云ふものあれども我利率の高價なるは諸物品賣買資金高より資本不足なるが爲めなり、若し六億圓の流通資本とならんには海外貿易も盛大となり且つ內地商人の失敗も減退すべし、流通資本不足は一般に影響を與ふるものと云ふべし。

輸出貿易高　の增進する國は嘱望すべきものにして即ち國富を增し國力を强からしめつゝあると同樣なり、之に反し輸出貿易高の減退しつゝある國は將來の貧窮を招きつゝあるものにして國家の漸次退歩しつゝあるものと云ふべきなり、然し

ながら輸入高に於ては國家の衞疆如何に依つて增減するものなり、而し又輸入超過の永年に繼續する國は之れ外國より收益（屬國の收利或は外國（投資金の利子）する所なくば維持し得らるゝものにあらず、故に輸入超過を繼續して尚ほ平然たる國は反つて繁榮し居るものと云ふも過言にあらざるなり、日本の如きも輸入超過を爲せど種々なる方面より之を補ひつゝあり、假令ば漫遊客の利益等は其特筆すべき一なり、然しながら未だ全く補ひ得ざるが故に影響を蒙ることあり、然るに去る十年前と現在の輸出を比較すれば實に驚くべきものあり、即ち一八九二年より一九〇二年の十ケ年間に於て世界中最も增加したるは加奈陀にして之に次ぐものは日本なり即ち九割九分五厘の增加に當れり、北米合衆國は六割七分五厘、獨逸は五割八分三厘、伊太利は五割三分六厘の增加に當れり、佛は二割餘に過ぎず之に反し露西亞は將に退歩することニ分六厘なり該國の將來尙に憐むべきなり。

我が輸出物品中將來有望なるは生絲、羽二重、綿織、絹織、茶、精銅、樺附木、石炭等の以外には海產物にして一班の漁業者は大に計る所あつて可なるべし、即ち海產の捕殖の方法を講じ多額の收益を爲すことを圖り從來不完全なる製法を全廢し、之を完全なる鑵詰、油漬、鹽漬等に改良し漁國及印度方面に向つて輸出するときは兩國の人口七億五千萬人の內山間僻地に住居する宮有なる人民二億とし之に販賣する者とせば一人に對し五厘を見積り實に一百萬圓の販賣額に上る、なり故に一ケ年には三億六千五百萬圓の大販地を有するに至るべし、斯くの如きが故に或は陸產物に增すの利益あるやも計り難し、海產業に對しては政府に於ても特に奬勵保護するものとせば數萬方哩の陸地を增す利益となるの望みあるものとす。

次に又近來各地方に於て金銅又は新鑛物を發見しつゝある ものあり、昨年來より亞細其他の鑛石を發見し當時神戸横濱各港の外商に賣却を引き合ひつゝあり。

現今農產物は內國の食料に當つるに止り輸出は到底望み難し、何となれば年々人口增加して米、麥其他穀穀に至る迄不足を生じ輸入を仰ぐの止むなき塩梅となりつゝあれば也、然るに本年は未曾有の米用豊作にして年來の不景氣を挽回すべき兆を得べきか、而して尙ほ余が嘗て言ひしが如く農產物の豊凶は戰爭の勝敗を卜すべきものにして本邦は麥作、雲霞の間は我軍の勝利は明々瞭々たること一監の如し、之に反し露國は麥作、雲霞の豊作に於て本年の如きは各州一班不作なりと云へども以て微すれば我軍の勝利は明々瞭々たること一監の如し、之に反し露國は麥作、雲霞の豊作に於て本年の如きは各州一班不作なりと云へども以て微すれば我軍の勝利は明々瞭々たること一監の如し、

尙ほ航海事業は大に擴張すべきものにして太平洋中は探て以て我が航路となし、北米、南米、濠洲、太洋洲、印度、清國、西伯利亞及亞弗利加は孰れも我が商勢を以て滿たすの方針を取るを要す而して其航路奬勵金は二千五百萬圓以上三千萬圓も附與したらんには充分なる擴張を見ることを得べければ之に據つて我が產業の發達を資せざるべからず。

日本の運歩せる順序を云へば第一開港後、第二王政復古後、第三日清戰爭後、第四北清事件後、第五に來るべきは日露戰爭後之なり。

次ぎに日清戰爭當時と現在とを比較すれば大に參考とすべき已足るものあらん。

日清戰爭以來の財眼

年次	歲出高	歲入高	合計
明治二十七年	八千六百八十萬圓	二億六千八百萬圓	二億六千八百萬圓
同　二十八年	九千六百萬圓	二億七千四百萬圓	二億七千四百萬圓
平均	九千四百萬圓	二億七千二百萬圓	二億七千二百萬圓

年次	歲出高	歲入高	合計
明治三十七年	二億四千六百萬圓	二億六千四百萬圓	二億六千四百萬圓
同　二十八年	二億二千六百萬圓	二億六千四百萬圓	二億六千四百萬圓
平均	二億二千五百萬圓	二億六千四百萬圓	二億六千四百萬圓

二十七八兩年度平均高を見れば輸出超過となり居れり。

	右岡	右岡
明治三十六年	六千八百萬圓	六千六百萬圓
同　二十七年	七千一百萬圓	七千一百萬圓
平均	七千四百萬圓	七千三百萬圓

（備考）二十七年に比較すれば輸出入の增加は二億四割四分二厘ハリ

租稅の多少より其輕重を定むるものなり、然るに我が國は昨今迄は外國に向つて富有の程度を發表すべき充分なる機關方法を取らざりき、現時に於ては只英國に外債あるのみにて他國とは財政上深き關係を有するなく、且つ英國に於ける外債の額も小數なりしを以て格別杞憂する所なくして可なりし外將來向後多額の外債を募集せざるを得ず、今後は我が公債を實賣する所の市場には必ず我が財務官を出張せしめ置くことは最も必要となり。而して若し我が公債の相場下落の傾向を有する時は其市場に於ける財務官は我が債券取扱銀行に命じて下落せんとする所の公債を自ら買收し以て其暴落を防ぎ相場を維持せしむることに務めざるべからず、過般倫敦市場に於て募集したる公債一億圓は募集する所の策當を得ざりしものなり、從前英國に於ける我が公債高は九千七百萬圓にしてるゝもの僅かに一千萬圓内外に過ぎず之に向つて暴落の當時前述の策を取り置きしならんに前回の如き大失策には陷らざりしものならん、實に之れ失策も甚だしきものと云ふべきなり、然に故に其程度を知り得ざる迄に下落したりき、之に引き換へ露國は常に外債に重きを置くが故に今日戰爭に大失敗を重ねつゝあるも尚ほ多額の公債相場は多大の影響をも蒙らず維持し居れり、若し露國にして日本の爲しつゝあるが如く放任し置きたるものとせば其暴落は實に甚だしきものありしならん、然れども其方法宜しきが故に其相場に崩壞も與ふることなく之を維持し居れり。

元來我が政府は内部に對しては非常なる思慮を用ゆれども外部には甚だ疎忽なるが如く成せらるゝものあり、今後外債に對しては至大の注意を拂ひ現時の如く之を放任せず之が暴落を防ぐの方法手段を講じ其相場を維持しひいては曾て知るべからざりし用意周到に之を行ひ且つ今後は我が財政を以て世界の信用を博することも又以て緊要なることなり、前回の如き時局に當り若し云ひながら其失策や國家の體面に關することは當局者に於ては其敏腕を揮ふて各國の嘲笑を買はざる樣注意せられんことを希ふなり。

將來我が國は行政及び日露戰役の結果陸海軍其他屬地の費用として内外公債十二三億圓を募集するものとし其年ごは單務の費用として支出せざるを得ず、而して將來に於ける政費は四億圓の歲出として計畫せば多分の違算はあらざるべきか、外債は正貨準備とするに止め數回に募集し歲出の不足より生ずるものは内債を以て之を償ひ十年後には全く租稅を以て之に當て債務に依らざるものとす。

今後日露戰役の爲め一時に國費多數となるは止むを得ざるも、國民の負擔を重くし又一方に於ては我國に向つて諸事業を興し利源を開拓し國力を進んで航海業を擴張し太平洋の中央市場たるべき任を全うすること、是れ我が故に自然世界の增加を要し國民の負擔を輕減するの方法なり。

洋の外は一般に我が航路と云さは我が國費の五億圓は更に惡るゝに足らざるものとす、天佑なる哉我國の將來は實に有望極りなきものあるなり、斯かる運命を有する我經濟界は如何なる方法に據て操縦せらるべきものか日露戰後は大々的多忙にして今日より豫想し難き進歩あること到底二十七八年の日清戰後の如きものにあらず、然らば國民一般に將來の膨脹に向つて極力企圖書策に盡瘁するなくんばあるべからず、即ち前記の五業を充分に發達せしむるを目的となすべし、而して此發達を計らんには流通資本の增加に恃ただるべからず外債にして正貨準備金とし常に正貨二億圓を降らしめ、流通資本高は六億圓内外となし總て海外に對する商業を盛大ならしむるの外手段なきものとす、茲に余の觀察せる十年後の利益不利益と想強を陳列すへし。

一、今回の大發展に向つて個人として利益するものは我が同胞五千萬人中僅に三四百萬人なるべきか、我が國富は現在の二百億圓なるもの十年後は四五百億圓となり二倍乃至二倍半の增額となるならん、此發展の利益が分頒割として配布せらるゝものとせば一人に付五六百圓の配當を受くるものなるに、事實は之に異り反つて最も少數の人民にのみ分布せらるゝものとなり終らん、故に現在の富家家に比肩し得べき金滿家續出し或は百萬圓以上千萬圓のものは多數に見ることを得べし、而して假りに三四百萬人は其恩澤に浴するものとせば地租十五圓以上を上納するもの四十九萬六千餘人、十圓以上のもの十二萬四千餘人、五圓以上のもの五十三萬千餘人、五圓以下のもの百十四萬二千餘人合計二百二十八萬三千餘人あり地所所特有者は必ず此關澤を受くるものなり、其他は今後の發展に擁り方針宜しきを得て大利益を得るものと云ふべし。

二、現在流通資本三億圓のものを將來六億圓内外とせざれば歳出五億圓を徴收することを得ず故に流通貨の增加は止を得ざるものとす、然るに茲に貯蓄心なきものにして日給を得るもの一日五七十錢の給料は今後一圓以上となるは至當なり、又同樣大年俸を得るものの如き增給すべけれとも其位置に於ては現在と多分の變化は見ざらん、通貨の增加するに從ひ金位を引き下げ物品は上進するものなり、例へば現在百萬圓の身代となるもの其流通貨額二倍となる時は五十萬圓の實力となるとを知らば十年の將來を計るには又大に苦心せざるべからざるなり。

三、流通資本增加より生ずる影響として金を貸し借くと又公債を貯へ置くとの割合を見れば金數萬圓を年五分利子を以て貸し十年の將來を迎ふれば無利子にて貸したる同樣とならんか、即ち其金高を請取りたる當時は其金額を以てするも現在の半數の實力に過ぎず、物品の購買力は即ち半減となり且得る所の利子も同樣將來半減したるものを受くるとなり、現在に於ける貸金高と比較せば却つて其現在より實力に於て二割以上の元金損失に陥るものとなら、か之れ通貨增減に據て起る損益とす、今後通貨の增加に向つて金は借るに利ありて貸すに利なきものなり、又公債を貯へ置く事は國家に納め置き十年後に至らば年利五分は得るも半額の實力となるは金を貸すと同樣にして尚ほ政府の都

合により多數の公債を募集せらるゝに依り後々公債の數を增加し將來價格昇らんとすれば又募集發行せられ、遂に其上進するを得ず貸金したるより一層割合惡しきに至るべきか如し。

四、絹糸紡績株の將來を見るに工業上缺くべからざる事業なるは言を俟たざるも株主將來の損益に就いて考ふるに該事業は有利の事業と認むべからず、如何となれば年々に得所の利益は年期毎に配當して十年の將來を迎ふるものとせば其機械は年々に改良せらるるにより現在のものは既に廢物同樣のものとなるを以て最新のものを購入せざるへからず、然るに流通資は二倍となり機械の價格も從て上進するを以て機械は價格高く舊機械は之を賣るに廢物として拾賣するに過ぎざればなり。

五、鐵道株は十年の將來有望なるものと認むるものなり、即ち該株は其資本一切機械に投じあるものにして例へば現在數設ある鐵道一哩に付五萬圓にて架設したるものとし（尤も之は全國中有益の線路と云ふべし）今後の鐵道線路敷設に向つては物貨上進し十萬圓を要するの時季あるべし、然らば其鐵道は原價の二倍の價値あることは明かなり、然に現今世人の見る所は配當利子の外其價を見るものにあらずとなす、然れども將來は實價の昇進したるを見込むひの時季到來することあるべし、其時に當つては（金融圓滑より餘有金を生ずる時現在の價格より其實價二倍し、其上國力の優勢より生ずるものと相俟つて現在五十圓株のものの百五十圓となることあるやも知るべからず、現在五十圓のものの將來百五十圓となれば三倍の利益あり、而して之れ倉庫に納め置きて尚ほ斯の如き利あるなれども之を買入れ抵當に差入れ置き僅かの差金にて維持し其利益充分なるを待つて賣却するものとせんか、例へば五十圓の株に向つて十圓を差金として抵當を借し置き常に四十圓の利子を拂ひ、十年の將來に百五十圓となりたる後に賣却すれば即ち十五倍の利益を見たるものと云ふべきなり。

蠶業唱歌

池田幸之助

我が日本の物産の最も貴きものこそは蚕の作ろ絲なれや
そも安政の末のころ　外国と通商の和議に依て外国の
珍らしき品買うして　水の低きに欲く如　流れて遠き人も来
国は次第に繁り来て　貴賤一時に潤ひぬ
上の御恵見みて　桑の力に因るかし
絲の力に因るかし
品は陸下も賞し給　数多の女官を賜まされ
数多の女官を賜まされ　蠶を養ひたまふとぞ
大御心に外ならず　野辺に咲る桜の女も
農夫勢力溢れ　身に悪て養蠶よ
蠶の命を繋ぐなる　世下に報いゆる
ゆるが如く　絲を作ることは　恐れ多きことか
恐れ多き御手からこれ養蠶は我国の
ふまれ　撫で給ふ　蠶の
絲ひし蠶の吐き出し
出る繭　桑の葉　蚕の
蠶の作ろ絲なれや　外国と通商の
和議に依て外国の
珍らしき品買うして
水の低きに欲く如
流れて遠き人も来て
国は次第に繁り来て
貴賤一時に潤ひぬ
上の御恵見みて
絲ひし蠶の吐き出し
出る繭　桑の葉　蚕の
蠶の作ろ絲なれや　外国と通商の
和議に依て外国の
珍らしき品買うして
水の低きに欲く如
流れて遠き人も来て
国は次第に繁り来て
貴賤一時に潤ひぬ
上の御恵見みて
絲ひし蠶の吐き出し
出る繭　桑の葉　蚕の

蠶兒飼育の關係及其飼育の經済方法に關する意見

大日本蠶絲會
技師　委員　荏田國野　村彦太郎

緒言

我が国の蠶絲業は、その発達の最も顕著なるものにして、能く限り戰を避け専ら平和の戰勝者たらんことに国民の全力を傾注せざるべからざるなり。

子は最に蠶絲の良否は製絲方法の如何に關係すること勿論なれども又蠶兒の食料たる桑葉の性質も亦其間に關係からざる趣きを通報せり、依て今回は蠶兒飼育の關係及び其飼育の經済方法に就て聊か私見を述べんと欲す。

抑も蠶絲の收量の多寡、其品質の良否如何は蠶種の性質如何に大關係あることは茲に予が多言を要せざる所なれども、又蠶兒飼育方法の如何が其産出する絹絲の收量及品質に關係することも亦浄べからざる事實なり、何となれば蠶兒なるものは多年飼育の結果に由て死滅し、又は同定蠶種なるものは飼育の結果に由て死滅し、又は同定蠶種なるものは飼育の結果に由て死滅し、又は同定蠶種なるものは

其主因なるべし、何となれば簡易の結果は人力を節するも丁寧の結果は屢々人力を要することを知ればなり、是を以て其方法の簡易にして比較的不丁寧になすも蠶見に被害少なく而かも比較的良果を得べき飼育法を撰擇するに至りしものゝ如し、試みに見よ現時伊國の蠶業の振はざる所以は孰れにあるやを、予を以て之れを觀れば其旁銀が伊國よりも貴きが故なるべし。

獨り伊國の養蠶のみ然るにあらず伊國の米作に於ても亦然り、其除草の僅かに二回に限らゝ所以は其回數の多きを欲せざるにはあらず、又其回數を多くするの利益を認めざるにもあらず、而かも之れをなさゞるは其失費を償却するに足るの利益を認めざればなり。

清涼育法にて蠶見を飼育するときは其蔗出する絹絲の品質上に如何なる關係を有するやに至ては予は茲に斷言し難しと雖も、此育法が温暖育よりも其絲量を増加し又比較的に經濟方法たることは伊國蠶絲業家の一般に唱道する所なり、或蠶絲業家の說によれば日本蔗蠶の短小にして歐州蔗蠶の長大なるは其原因一ならずと雖も寧ろ其飼育の差異が其一主因にして之れか爲めに其繭形にまで是の如く大小の差異を生ぜしものなからんと、予は輕々しく其說を信ずるものにあらず、然れども温暖育法にて蠶見を飼育するときは比較的其絲量を減少せしむるとも其蠶見をして早熟せしむることは事實なるべし、或人の曰く伊國の人民より伊國の一度若くは二度の高温度を要するのは常に歐州蠶種より別氏の一度若くは二度の高温度を要するの事實あるのみならず又其孵化したる蠶見は歐洲蠶見と同一法にて飼育するも比較的早熟するの事實は今日伊國蠶絲業家の一般に承認する所なり。

右の事實より察するも近時本邦に於ては温暖育法の盛んに行はるゝ結果として絲量絲質の優等なる蠶種を撰擇したるが爲めに前述の如き特性を固定せしめたるものゝ如し。

今日の所謂温暖育法は何れの年代に起りしやに審りては茲に斷言し難しと雖も、嘗て我が邦の養蠶の古書に冷氣甚しき時には温室に蠶を飼育し暖かに立て蠶室の冷却を防ぐる事を記載したるを見たり此等の方法を新奇進歩せしめたる結果が今日に行はるゝ如き温暖育法を見るに至りしものゝ如し。

又經濟的の方法にあらずと、今左に温暖育法に關する歐州養蠶家の說を掲げ以て一考を煩らはさんと欲す。

「トロスニー」氏（De Rosny）曰く日本人は最も温暖なる場所に蠶見を飼育し屢々給桑せり是れ全く温暖は蠶見の食欲を増進すればなり、是以て蠶室に風氣の乏しきときは通風の工夫をなし或は大なる團扇を以て冷風を煽動すと、而かも日本人は養蠶良師にあらず寧ろ其方法は費倫ならんと。

「ヨナフス」氏（Vanelous）曰く蠶齡は隨意に長縮せしめ得べきか故に蠶室の温度を増進し且給桑の分量と回數とを增進するに隨て短日にて化蛹すと、而かも是れ便法にあらずと。

「トランクイリ」氏（Tranquilli）曰く蠶見をして常に食桑を貪らしむるは得策にあらず、其清化力を齊正ならしむるには其飼食に間斷あるを要すと。

右に述ぶる所を以てするも歐州に在ては蠶見飼育は高温よ

りも寧ろ低温を可とし隨て蠶見に食桑を貪らしむるを以て得策にあらずと信ずるもゝ如し、試みに見よ現時本邦に於て恐くは温暖育法にて蠶見を飼育するものゝ如し、然れども清涼育法にて蠶見を飼育するときは比較的其絲量を減少せしむるとも其蠶見をして早熟せしむることは事實なるべし、或人の曰く伊國の人民より伊國の一度若くは二度の高温度を要するのは常に歐州蠶種より別氏の一度若くは二度の高温度を要するの事實あるのみならず又其孵化したる蠶見は歐洲蠶見と同一法にて飼育するも比較的早熟するの事實は今日伊國蠶絲業家の一般に承認する所なり。

右の事實より察するも近時本邦に於ては温暖育法の盛んに行はるゝ結果として絲量絲質の優等なる蠶種を撰擇したるが爲めに前述の如き特性を固定せしめたるものゝ如し。

今日の所謂温暖育法は何れの年代に起りしやに審りては茲に斷言し難しと雖も、嘗て我が邦の養蠶の古書に冷氣甚しき時には温室に蠶を飼育し暖かに立て蠶室の冷却を防ぐる事を記載したるを見たり此等の方法を新奇進歩せしめたる結果が今日に行はるゝ如き温暖育法を見るに至りしものゝ如し。

又經濟的の方法にあらずと、今左に温暖育法に關する歐州養蠶家の說を掲げ以て一考を煩らはさんと欲す。

「トロスニー」氏（De Rosny）曰く日本人は最も温暖なる場所に蠶見を飼育し屢々給桑せり是れ全く温暖は蠶見の食欲を増進すればなり、是以て蠶室に風氣の乏しきときは通風の工夫をなし或は大なる團扇を以て冷風を煽動すと、而かも日本人は養蠶良師にあらず寧ろ其方法は費倫ならんと。

「ヨナフス」氏（Vanelous）曰く蠶齡は隨意に長縮せしめ得べきか故に蠶室の温度を増進し且給桑の分量と回數とを增進するに隨て短日にて化蛹すと、而かも是れ便法にあらずと。

「トランクイリ」氏（Tranquilli）曰く蠶見をして常に食桑を貪らしむるは得策にあらず、其清化力を齊正ならしむるには其飼食に間斷あるを要すと。

近時伊國羅馬大學に於ける軟化病（空頭病）の研究によれば該病は全く傳染病にして而かも微細なる傳染病なることは明かなるに至れり、予も亦其說に贊成するものなり、予の研究によれば其病菌は白僵病菌に比して弱く高温度に對しては極めて其抵抗力の强きことを知るに至れり、故に高温度に對しては白僵病菌は極めて低温度にても發育するも高温度に對しては極めて其發育を妨げ、故に高温度に於て蠶病の消毒法を施すときは白僵病菌は比較的低温度にても發育するも高温度に對しては極めて其抵抗力弱く、故に高温度に於て蠶病の消毒法を施すときは極めて簡單なる所以は一は彼の最も畏るべき軟化病の少なきも其一因ならんか歟。

此の如く清涼育法は蠶病豫防の點より論ずるも大に手數を減却し得べし。

斯く論じ來たれば、人或は云はん、温暖育法を施行する所以は其飼育日數を減縮するの目的よりも寧ろ蠶室内の温氣を排除するの點にありと、予は固より伊國の本邦に比して乾燥なることを知るのなり、然れども其温氣を排除するが一大目的なべからんか或は温度を要せざるも石灰を蠶室内に排置するか或は又少しく思慮を費さば温度を要せざるも之を排除するの處置に窮せざるべし、現に歐洲に於ても上蔟間際に室内冷温なるときは殊に結繭に不利の點少からざれば少しく經驗ある養蠶家にありては室内を少しく稍温するか或は石灰を利用するものあればなり。

故に予は云はんと欲す予は絶體的に人工補温法を排斥するものにあらず、又予は「パスガイ」（Pasteur）氏が所謂蠶見は

冷血動物なるが故に外圍溫度にて足れりとし極端說に賛成するものにもあらざるなり、因より今日の家蠶なるものは一旦野生時代を離れて全く人の育養に馴るゝものとせば多少の補溫の必要を予は認むるものなり。

之れを要するに予の所謂清潔育法を主唱するの理由は巢蚕其補溫程度如何の問題にあるなり。例之ば第一齡若しくは第二齡期の如きは蟻蟻に於ても最も大切なる時期にして外界の刺戟に感じ易き時期なれば其必要に應じて前述の如く人工的補溫を施し、其他の蠶齡には可成補溫せざるを以て得策を信ぜし所以なり。

伊人は高溫は蠶兒に害ありて益なしと信ずるもの如し、是を以て伊國にては豆蠶を飼育するもの少なく加之巡回蠶兒の如き病害に犯され易きが故に此危險なる時期に於て利益なる蠶業に轉ずるは寧ろ他の有利なる蠶業に轉ずるに如かざるなり。

試みに伊國の蠶業を見よ北部諸州には最も其隆盛を極むる南部諸州には微々として振はず從て南部に於ては蠶糸の產額の如きも北部に比すれば遙かに下れり、故に南部諸洲には桑樹を栽培するも其桑穰は白桑にあらずして多くは黑桑なり、其目的とする所は蠶兒を飼育するに非ずして多くは果實を食用に供するにあり、是の如く蠶業の北部に盛んにして南部に盛ならざる所以は蓋し一は南部諸州に在ては蠶業よりも他に有利なる事業の存するあるに原因するやも未知るべからずと雖も、一は蠶業其ものが南部よりも北部に寧ろ好適するに原因する故なならん。

翻て本邦の歷史を見よ昔時に在ては西南諸州の蠶業の隆盛なりしことは無ら證明し得べし、而かも今日此等の諸州の蠶業の振はずして轉して東北諸州に蠶業の隆盛を見るに至りし所以も亦蓋し蠶業なるものが南部よりも北部が其好適地なることを悟りしが故なるか歟。

人或は予の說を以て彼我の氣候、風土を擬へざるものとなさん、予は固より伊太利流の清潔育、其他に本邦に輸入せんとの熱志を有するものにあらざるなり、凡そ如何なる良法と雖も他國より自國に輸入し之をして其氣候風土に適應せしむるには多少の折衷を要すべきや勿論なり。

試みに今日歐洲に飼育する蠶兒を見よ何國より之を輸入せしや又其食料たる桑樹は如何、孰れも昔時亞細亞より輸入したるものにして支那にあらざれば印度、日本なり、此の如く亞細亞は蠶桑の原產地たり其好適地たること疑はず、宜べなり今日歐洲に行はるゝ栽培法、養蠶法の支那にあらざれば印度、若くは日本のものに類似するや勿論なり。

其初め此等の諸國より其方法を輸入し以て自國に適應せしめたるものなりしなとは既に歐洲蠶業史の證明する所なり、而かも今日歐洲殊に伊佛諸國にて產出する繭絲は如何、北品質にて出でるか、北に於て最も比して遜色なく、北に於て產地なりと好適地なりと云へるに至ては如何、北に於て產額の如きは一驚を喫せざるを得ざるなり、之れ我よりも其養蠶法に適應しかりと云へるに至ては

變質生絲の原因調査（承前）

大日本蠶絲會
特別會員　農學士　中村雅次郎

第三、細菌に對する事項

該生絲の廚項に於て述へたるか如き分解を來したる絲因は主として細菌と濕氣と溫度とあるならんとの想像を下したるを以て、先決問題として該生絲に寄生せる細菌中に標準生絲に寄生するものと其種類を異にするや否やを確めんか爲めに再生絲の細菌を「ペプトンアガー」を用ひて扁平培養を行ひたるに、其結果通常生絲のものは唯一種の「コロニー」を作りたるに比して該生絲のものは三種の「コロニー」を作り、且つ檢鏡の結果三種共前者と其形狀を異にせるを見たりしか故に、此等の性質等は他日研究を重ねたる後更に報告するところあるへし。

第四、人工的に障害を標準絲に與へて其變化に對する調査

十五「デニール」の生絲二本寃を殺菌せる試驗管に入れ之を四區に分ち、其各を更に四の小區に分ち、第一區に屬する四本の試驗管は「フォルマリン」を以て濕したる布片を以て蔽ひ、更に其上を「フォルマリン」を撒布せる玻璃鐘にて被ひ約十時間室内に放置したる後之を取り出し殘りの三區と共に次の如く處理したり。

第一區「フォルマリン」消毒區

甲　殺菌せる蒸餾水の〇.五立方「センチメートル」を加へて絲を浸したるもの。
乙　同上　一、立方「センチメートル」のもの。
丙　同上　二、立方「センチメートル」のもの。
丁　同上　三、立方「センチメートル」のもの。

第二區　殺菌せる生絲に殺菌蒸餾水を種々の割合に加へたるもの

甲　〇.五立方「センチメートル」の殺菌せる蒸餾水を加へて生絲を洗したるもの。
乙　同上　一、立方「センチメートル」のもの。
丙　同上　二、立方「センチメートル」のもの。
丁　同上　三、立方「センチメートル」のもの。

第三區　殺菌せる生絲に本所繰絲水の殺菌せるものに僅に「ペプトン」を加へたるものを種々に加へたるもの

甲　〇.五立方「センチメートル」を加へて生絲を洗したるもの。
乙　同上　一、立方「センチメートル」のもの。
丙　同上　二、立方「センチメートル」のもの。
丁　同上　三、立方「センチメートル」のもの。

第四區　殺菌せさる生絲に殺菌せる本所繰絲水に少しく「ペプトン」を加へ。其中に前記の調査絲を投し三晝夜孵卵器中に入れ置き生絲の細菌を繁殖せしめたるものを種々の割合に加へたるもの。

甲　〇.五立方「センチメートル」を加へて生絲を洗したるもの。
乙　同上　一、立方「センチメートル」のもの。
丙　同上　二、立方「センチメートル」のもの。
丁　同上　三、立方「センチメートル」のもの。

以上四區共綿にて堅く栓し之れを孵卵器中に三晝夜置きた

る後取り出し、濾紙を以て各生絲の濕氣を吸收せしめたる後再び之を孵卵器中にて乾燥せしめ其色澤を檢したりしに、「フォルマリン」區の者は何れも標準絲（即原料生絲）に比して少しも差異を認めずして反し、他の三區のものは何れも多少飴色に變じ其色澤を害したるを見たり、中にも比較的被害の少かりしは第二區の甲乙にして、最も甚しかりしは第三區の第三區の丙及丁第四區の丁及乙なりとす、然れども三區全體を通じて云ふときは何れも大同小異にして別に著しき懸隔を認むる能はざりし。

次に四區の各及標準絲に十五立方「センチメートル」の蒸餾水を加へ十分間玻璃棒にて攪拌しつゝ沸騰せる湯煎鍋の中にて熱したる後、其浸出液に破き一二の試驗を行ひしに左の如き結果を得たり。

清潤及反應

標準絲及「フォルマリン」區の凡ては何れも透明にして中性の反應を呈す、第二、第三、第四の何れも液は稍多く白濁を生じ不透明となれも、又此三區の各を互々に比較すれば別に大差を見ざりし。今其比較對照せるものを掲ぐれば左の如し。

第一表

第二區
甲　大差なし
乙　同少しく多く濁れり
丙　丁は同より尚多く濁りを生ぜり

第三區
甲　大差なし
乙　同上
丙　大差なし
丁　大差なし

第四區
甲　大差なし
乙　同上
丙　大差なし
丁　大差なし

第二表

第二區
甲　第三區の方稍多く濁りを生ぜり
乙　第三區の方稍多く濁りを生ず
第三區
甲　第三區と第四區とは大差なし
乙　大差なし
第四區
甲　第三區の方少しく多く濁りを生ぜり
乙　大差なし
第二區
丙　大差なし
第三區
丙　大差なし
第四區
丙　大差なし
第二區
丁　大差なし
第三區
丁　大差なし
第四區
丁　大差なし

右結果よりすれば比較的濁りの少かりしは第二區の甲乙にして、同丙之れに次ぎ、他の凡ては大差なかりし。

硫酸銅液及苛性加里を加へたるときの反應

右の浸出液各五立方「センチメートル」を取り之に硫酸銅の溶液一滴加へ、次に苛性加里を加へたるに標準絲（即原料絲）及第一區即「フォルマリン」區の液は何れも着色せざりしが、第二、第三及第四の三區のものは何れも淡赤紫色を呈したり、（此反應の顯はるゝこと本調査絲の場合に比して緩慢なりし）此等の反應を互々に比較すれば左の如し。

第一表

第二區
甲　大差なし
乙　丙の方稍濃し
丙　丁の方稍多く濃し
丁　大差なし

第三區
甲　大差なし
乙　大差なし
丙　大差なし
丁　大差なし

第二表

第二區
甲　第三區の方稍多濃
第三區
甲　大差なし
第四區
甲　大差なし
第二區
乙　三區の方稍多濃
第三區
乙　大差なし
第四區
乙　大差なし

第二區　丙　第三區所區
第三區　丙　大差なし
第四區　丙　大差なし

第二區　丁　大差なし
第三區　丁　大差なし
第四區　丁　大差なし

醋酸及黄色血液鹽を加へたる時の反應

同浸出液の五立方センチメートルを取る之れに三滴づゝ張醋酸を加へたる後黄色血液鹽の溶液を加へ一悪夜置きたりしに、標準絲及フォルマリン區は少しも沈澱を生ぜざりしか、他の三區のものは何れも稍多量の沈澱物を生じたり今左に之を比較せん。

第一表

第二區　甲　大差なし
乙　四の方少
丙　しく多し
丁　丁の方多量

第三區　甲　大差なし
乙　大差なし
丙　大差なし
丁　大差なし

第四區　甲　大差なし
乙　大差なし
丙　大差なし
丁　大差なし

第二表

第二區　甲　第三區の方多し
第三區　甲　第三區の方多し
第四區　甲　大差なし

第二區　乙　第三區の多方し
第三區　乙　大差なし
第四區　乙　大差なし

第二區　丙　第三區の方稍多し
第三區　丙　大差なし
第四區　丙　大差なし

第二區　丁　大差なし
第三區　丁　大差なし
第四區　丁　大差なし

「以上の試驗に對して凡ての反應を呈せざりしは、ホルマリン區にして他は何れも多少の反應を呈す、且つ其反應の程度は何れも本調査絲のものに類似せるを見たり、而して右試驗の結果よりすれば蒸餾水を以て濕氣を與へたるとき、又沸水を以て濕氣を與へたるとき、且調査絲に與へたるとき、細菌も普通生絲の細菌も其生絲に及ぼす影響は大差なきものゝ如し、然れども素より此試驗は前述の如く甚だ小規模に施行したるを以て斯る消極的の結果を得たるならんと信ずるが故に、更に大規模に且つ長時日に亘る試驗を施したる後其結果を見て之を裁決する處あらんとす。

之を要するに生絲は濕氣を存する後之を放置する時は絲質に粗密を來たすものにして、且つ其狀態本調査絲に類似の點多きを以て該生絲も又濕氣と細菌との作用によりて絲質して分解生成物を生じたるが爲めに空中に於ける他細菌又之に附着して遂に斯の如き甚しく惡變したるものゝ如し、去れども此點に關しては精細なる調査を各種の方面よりなしたる上斷定するところあらんとす。（完）

工船の煙に黒き冬木かな　琴山

柘蠶の研究

大日本蠶絲會
技藝委員　理學博士　佐々木　忠次郎

柘蠶（清國四川省產）の飼育試驗は昨年より初め其成蹟の良好なることは既に柘蠶の飼育試驗は小冊を著し世に公にせり、本年も亦昨年製したる柘蠶種を撮り之を四區に分ち每區給食の攪樣を異にし其成蹟如何を試みたり。

1. 甲區の柘蠶には第一齡より第三齡まで柘葉を給與し第四齡には桑葉を給與せり。
2. 乙區の柘蠶には各齡柘葉を給與して桑葉は更に之を給與せず
3. 丙區の柘蠶には第一齡より第四齡に至るまで全然桑葉を給與して柘葉を給與せず
4. 丁區の柘蠶には柘葉のみを給與せり。

第一齡より第三齡今まで桑葉を給與して第四齡には柘葉のみを給與せり。

右四區の柘蠶は本年五月五日より上簇を初めたり、固より柘蠶は三眠蠶なるも各齡は普通の日本蠶兒に比すれば常に長きが故に飼育日數には大差あることなく、從て給桑量に於て殆ど均しきものなり。

甲區の柘蠶には第一齡より第三齡に至るまで柘葉のみを給與し第四齡の初めより頓に柘葉を廢して桑葉のみを給與したるに、敢て之を疑忌することなくして能く食して成繭せり。

乙區の柘蠶には第一齡より第四齡の終りまで柘葉のみを給與し桑葉は更に給與せざりき、是れは此蠶にとつては尋常の飼方なるにより異狀なく、能く食して能く成繭せり。

丙區の柘蠶には第一齡より第四齡に至るまで全然桑葉を給與したるに、柘蠶は柘葉のみを食するの習慣あるに拘はらず亦能く食して能く成繭せり。

丁區の柘蠶には第一齡より第三齡に至るまでは桑葉を給與し、第四齡には全然柘葉のみを給與したり此蠶も亦能く食して能く成繭せり。

是に依て之を觀れば柘蠶なるものは柘葉のみにても又は桑葉のみにても飼育することを得、加之柘葉及び桑葉の給與相半ばするも健全に之を飼育するの難からざるを知れり、故に柘蠶たりとも桑葉を食して成繭するに差支なく、否柘蠶は桑葉を常食とせる蠶兒より變化し來れる者なるや敢て疑を容れざるところなり。

又た農科大學生徒小林及び膳等の兩氏は青熟蠶種を撮り之に柘葉のみを給與し飼育したるに、是れ亦能く食し成繭せり、然らば從來桑葉のみを常食とせる日本蠶種にても柘葉を疑忌せざるは勿論、尚ほ能く成繭する所より考へれば、柘葉は桑葉に均しく蠶兒の飼料となすべき性分を具へたるものと見做すも敢て不可あることなかるべし。

桑樹には桑縮病の大患ありて桑葉は蠶兒に害を生ずるの媒介者たり、然るに柘樹には桑縮病の大患なく柘葉は蠶兒に害を生ずるの媒介者たらざるが故に柘樹には桑縮病の大患なかるべし、若し夫れ蠶兒を飼育するに當て少くとも其四眠前後より柘葉を給與するに至らば本蠶兒の大患たる蛆害を驅逐するに極めて有効ならんと信ずるものなり。

汽罐使用心得

工學士　芳賀憲次郎

第七節　汽罐の修繕（Repairs.）

汽罐の修繕は大に注意を要するものにして往々修繕など稱して反て汽罐の强きを減殺することあり、故に汽罐を修繕せんと欲せば豫め其損傷の如何を察し補修すべき範圍を判斷するを要す、例今ば罐板の一部に損耗を生じたる時に際し同板の他の部に比較的輕少なる損耗ありとせんか若し其損耗甚しき部分のみを修理し置くときは他の輕少なりし損傷の期、年ならずして大きくなり、又修繕を要するに至るべし、此の如きは節約的にあらざるなり。（第七圖參照）

罐板の損耗せるとき又脆くなりたるとき及び罅裂を生じたるときは損傷板の全部を取り換ふべし、第八圖は「コーニシュ」汽罐にして罐板の脆くなりたるより破裂したるものを示す。

鋲を切り去る時に際し近隣の鋲孔を損傷して罅裂を生ぜしむることあり、斯る場合には其損傷部分を切り取りて修繕すべきなり。

修繕に用ゆる鐵板は軟鋼にして張力每平方吋二十四噸乃至二十八噸なるべく、伸長（エロンゲーション）は二十「パルセント」程のものを用ゆるを良とす、罐板を修繕せんとして不完全なる「リベッテング」を爲し反て汽罐の强度を減殺することあり、又罐板の縫接合は同一直線内にあらざるべく、且つ舊接合より强かるべきを要す。

罐胴其他張力を受くべき部分の修繕に副鐵を施すべき場合には「ボールト」を用ふべからず必ず「リベット」を用ふべし、然れども「リベッテング」を施し能はざる部分なるときは此限りにあらず、斯る場合に用ゆる「スタッド」又は「ボールト」は四分の三吋程のものにして螺旋を細かにし鋲の「ピッチ」は二吋を超過すべからず、而して鋲孔は「ドリル」すべし「パンチ」すべからず鋲孔の喰ひ違ひたるものを其儘に「リベット」するは宜しからず、此かる場合にありては孔穿し直して「リベット」の稍や太きものを用ゆ補充すべきなり、孔の違ひ甚しきものは之れを廢すべし

第九圖は汽罐製作及其修繕に必用なる例を示すものにして圖中、「A」は數年間使用を停止せる「ランカシャー」汽罐の縫接合より得たるものなり、勿論其製作者は不熟練にして其製作方法も亦頗る舊式なり鐵板に孔穿したる後ち圓形に彎曲したるを以て其彎曲

るを以て其彎曲する際に鋲孔を破壞したるものなり。

此れを發見せる來歷を記せんに始め縫目に漏洩を發見せしかば檢査官は汽罐の持主に對して「リベット」を去りて罅裂の有無を檢するの必要あるを談じたり、然るに持主は之を關縫せんとし「コーキング」を爲したるも漏洩は遂に止まざりき、故に檢査官は水壓試驗を施すべしとなし最初九十六封度の壓力を加へたるに漏洩全く止みたり、進んで百「ポンド」に至れば縫目は俄然裂れ圖に示す如く孔より孔に亘りて罅裂を生ずるに至りたるなり。

（B）は古罐を修繕せるときに發見せるものにして（A）の場合に說明せるものと等しく鋲孔の差違あるを其儘に「リベット」したるものなり、現今と雖も此種の製作者多し甚だ危險なることなり。

格爐及「フルー」を修繕するに當り「パウリング、フープ」又は「サング」其他强さの補ひとなるべきものを除去し爲めに强さを減殺することあり斯る場合には心して其强さを增すか他に補ひとなるべき裝置を施さるべからず、假令ひば「ガロエ補强環、ストレングシング、フープ」を設くべきが如し、汽罐は修繕を終りたるときに於て水壓試驗を行はざるべからず。

第八節　水壓試驗（Hydraulic test.）

世人動もすれば水壓試驗を以て汽罐の强さを計る唯一の方法なりと信じ試驗せる壓力より稍や低き壓力を使用せば安全なるものゝ如く考ふるものあり大なる誤りと云ふべし、之を實驗に徵するに頗る危殆なる汽罐の案外高水壓に堪へ得るものあり、然るに之を稍や低き蒸氣壓にて使用せんか其甚だ危險なることにして實に水壓試驗を施したる後幾許もなくして遙に低き壓力に於て破裂したる例證少からざるなり、思慮すべきことなりとす。

蓋し水壓試驗を行ふは次に擧ぐる數項の目的に外ならざるなり。

一　縫合部の緊密なるや否やを判定すること
一　偏平面に於ける「ステー」の功果を察すること
一　修繕を加へたるとき其決果如何を判斷すること
一　汽罐の包蔵又は被覆せる其儘に檢査せんとするとき

以上記する如くなるを以て水壓試驗は汽罐の安全を斷定する標準となるにあらず、諸種の試驗を施したる後其補ひに行ふ所の方法なりとす。

新に製作したる汽罐なるときは水壓試驗は使用せんとするとき最大汽壓に其七割五分を增したるものを以てすべく、舊罐なるときは其目的に從て二割五分乃至五割の增加を以て試驗するを通則とす。

水壓試驗を行はんとするときは左の準備を要す。

一　適當なる水壓試驗用「ポンプ」を具へ汽罐に連結すること
一　汽罐の各開孔は密閉すべきこと
一　驗壓器を汽罐及「ポンプ」に具備せしむること
一　汽罐には水を充滿せしむるを要す之を行ふには空氣を悉く排出せしめざるべからず
一　汽罐上部の被覆其他隱蔽せる部分は悉く露出せしめ罐體全部を見易からしむべし

問答

肥料の件に就き質問

山形縣東村山郡中村
大日本蠶絲會員　峰田忠次郎

(一)蠶蛹は桑樹の肥料として功能あるや否や。
(二)製絲に用ひたる湯は桑樹栽培の肥料に可なるや否や、若し功能ありとせは其施用法其他横井博士の御明教を請ふ。

答

大日本蠶絲會
技藝委員　農學博士　横井時敬

右分析表に就きて之を觀るとは蠶蛹は殊に窒素分に富める好肥料たるを知るべし、但乾燥せる蛹の新鮮に優る所以は其水分を失ひたるが爲めに濃厚の度を加へたるに過ぎず、然れとも斯く濃厚となるが故に地方に運搬するには乾燥したるを良とすべく、之が爲めには多少腐敗し腥穢するに意とするに足らざるべきなり。

搾粕の結果は更に蠶糞として、油は勿論肥料として効用あらざるものの故之を搾取するに害なく、若し油の價値に比して搾油の勞費を信ふに足らしめは蠶蛹は搾油後用ふるを可とすべし、搾油の爲めに肥料としての發分それだけ濃厚を加ふるは何れの方面より論するも到益たらざるを得ざるなり。

蠶蛹を用ゆるには其儘に土中に埋むるも不可なく、又た堆肥に混じ腐敗せしめて用ふるも不可なかるべし、場合によりては溜桶に投じ水中にて腐敗せしめ液肥として用ふるも之た一法なるべし。

因に云ふ間者の地方にては蛹は繭の飼料として用ゆる其利益反て肥料として用ふるに優るやの知べからす。

(二)不幸にして此問題に關しては正確なる答をなすを得ざるなり、右湯に關して未た分析をなしたるものあらざればなり、然れとも推理によりて考へれば之が性質は蛹を煮たる分量蒸發せる多寡等によりて相等しからざるべく、殊に濃厚なるものに至ては肥料として多少の効用あるべきこと勿論なるべきなり。

右湯は此の如く多少の効あるべきこと勿論なれとも別に

桑樹の肥料とするには餘りに稀薄にして注肥に要する勞費と偏ふに足らざるべし、然れ共人糞尿などの稀薄用に供すべく液肥を迫る場合の材料にも適當なるべし、堆肥を製するの際に之を注ぐが如き最も良からん、之を要するに右湯は液水に優ること勿論なるが故に風呂の水さへ等閑にせざる程の集約なる農業を營む地方に於ては決して之を等閑に放棄すべきものにあらざるを信ず。

蠶沙施肥の件に就き質問

鳥取縣岩美郡福生村
大日本蠶絲會員　山本權三

蠶沙を其儘水肥中に投じ能く腐熟したる後之を桑園の肥料に供し最も價値あるを覺へたり、然れとも蠶沙中には幾分の蠶病あるべく從て之を施用する桑園の桑葉は病毒蔓延の媒介となるなきを保し難しと思考せらる、依て肥料の効力を妨げずして完全に消毒するの方法ありや、或は消毒するの必要なきや御教示を請ふ。

答

大日本蠶絲會
技藝委員　松永伍作

蠶沙を水肥中に投じ充分腐熟せしめたる後施用すれば病毒の蔓延するが如き虞なかるべし。

煙草栽培地と桑葉との關係に就き質問

島根縣八束郡森山村
大日本蠶絲會員　佐々木竜太郎

煙草栽培地の附近にある桑葉を以て夏秋蠶を飼育するも其蠶兒に被害なきや、若し有害なりとせは煙草栽培地と桑園との距離幾間となして可なるや。

答

大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　石渡繁胤

桑園の附近に煙草栽培地あるも其煙草か桑葉に直接するにあらざる限りは害なきものと思はる、然れとも桑園に煙草を間作し又は其附近に栽培するは極めて危險なりとすべし、何となれは桑葉收穫の際自然桑葉の煙草葉に觸れ煙草葉の破損して液汁を吐出せる桑葉に附着せしむるか又は其桑葉を取るの爲めに桑園に立入りたるもの栽培煙草に觸るゝは勢ひ免れざるところなるべく其手其衣服に附着したる煙草汁は桑葉を汚すことあるは必然なるべし、故に煙草栽培地と桑園との間隔は其距離を一定し難しと雖も右の心得を以て相當の距離を置くの必要あるべし。

稚蠶の强弱鑑定法其他質問

愛知縣八名郡三上村
大日本蠶絲會員　山口莊司

(一)蠶見掃立の際肉眼にて稚蠶の强弱を見定むるの法ありと云ふ、如何なる點に依て識別することを得るや。
(二)當地方にて南三年來放任育(一名安樂育)と稱し、三齡頃迄は普通の飼育法とし爾後上蔟まで床上に二尺許りの臺を設けて枝桑を與へて飼育すと云ふ、此法東西蠶業講習所等に於て試驗せられたるやの否や、其結果等乗示を請ふ。

但此法は上蔟に際し大略透明の頃を見計ひ一齊に上蔟せしめ三日間位非常の高温度にて結繭せしむると云ふ。

答　大日本蠶絲會技藝委員　松永伍作

（一）蠶兒掃立の際蟻蠶の強剤を鑑別するの方法として、從來或る地方に於ける蚕業者の唱ふ處に依れば、赤色を帶びたる蟻蠶を混ずるに盧扇の微かなりと云ひ、或は果動の活潑なるや否やに依りて鑑別し得べしと云ひ、又は蠶卵紙及紙包等より容易に脱落すると否とに依り強剤を知り得べしと云ふが如き、其他尚種々なる說をなす者ありと雖も確に強剤を鑑別なし得る方法とは信じ難きのみならず、數年間右等の說に由り試驗を施すも右に唱ふるが如き成蹟を發見せしことなし、故に蟻蠶を見て確實に其強剤を鑑別するの法なきものと信ぜらる。

（二）蠶兒四齡より枝桑（新梢）にて給與するは長野縣地方にて從來行はるゝ方法なり、又五齡中殆んど餘沙を行はざる方法も山梨縣並に新潟縣下の山間には從來行はるゝ方法にして敢て珍らしき新法にはあらざるもの、如し、而して此飼育は手數は省くことあるべきも安全なる良法と認め難し。

蠶蛆に付質問

奈良縣磯城郡織田村　大日本蠶絲會員　田村多門

（一）余は蠶蛆に付疑きに佐々木先生の御說明を仰ぎたり、其說に「桑樹には桑蠶を寄生す此桑蠶には蠶蛆を寄生するものなれば蠶兒に蛆の寄生するは當然のことなりと信ず」と有に依れば桑蠶の蛆と桑蠶の蛆と其原は同種のものと知らる、果して然れば蠶蛆買上げ其他の蠶蛆驅除豫防法等は其效極めて薄うが如し、否な寧ろ徒勞に屬するものゝ如し、何となれば家蠶の蛆は山野の昆蟲に寄生する蛆（桑蠶の蛆は他の六脚虫にも多く寄生す）の九牛の一毛なれはなり、斯く信じて差支なきや否や。

（二）余が實驗に依れば桑蠶の蛆は重に蠶體の皮膚に卵を產下し孵化して體内に喰ひ入るものにして（近頃清國に蠶體の皮膚に產卵する蛆あるを言ふ即も是なり）家蠶の如く桑葉と共に嚥下するものにあらず、又桑蠶の蛆は二化性又は三化性にして一化性のものは更に無し、然るに家蠶の蛆は重もに一化性にして二化性のものは稀に見る所にして三化性のものに至ては皆無なり、桑蠶の蛆と家蠶の蛆と斯く異種なるは家蠶に寄生後一同にして斯く變種するものと思考して可なるや。

右佐々木先生の御說明を仰ぎ度し

答　大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木忠次郎

家蠶に寄生する蛆は所謂蠶蛆にして一種なり、然るに桑蠶に寄生する蛆には二種あり、甲は蠶蛆にして卵子は葉と共に嚥下するものなり、乙は別種の蛆にして此蛆の成蟲（繭）は桑蠶の皮膚面に產卵するものなり、故に桑蠶の皮膚面に產み付け卵子より孵化し出てる蛆は只た桑蠶のみを侵し

て家蠶には害を加ふることなし、（但し支那地方は例外なり）然れとも桑葉と共に嚥下したる卵子より孵化せる蛆は家蠶の蛆と同種なるが故に、蠶蛆即繭蛆の驅除を勵行せんとする時は蛆害に罹りたる桑蠶を最く之を捕へ之に寄生する蛆を撲殺すること肝要なり。

消毒藥の性質及功果に就き質問

徳島縣麻植郡桑川村　大日本蠶絲會員　宮田益三郎

蠶病其他の消毒に用ゆる各種藥劑即ち液體に在りては鹽化石灰、昇汞、フォルマリン液、石炭酸、生石灰、硫酸銅等、瓦斯體に在りては「フォルムアルデヒード」瓦斯、亞硫酸瓦斯、鹽素瓦斯、「アセトアルデヒード」瓦斯等は如何なる性質を有するものなりや、又微生物の體に接觸すれば如何なる作用に依て生活力を滅殺するものなりや、詳細御教示を請ふ。

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　川島勝次郎

質問の如きは本欄に於て到底滿足なる說明をなし難し、今消毒藥劑が微生物に働く作用の大要を記せば次の如し

鹽化石灰

鹽化石灰とは「カルシムハイポ」と鹽素との化合物にして$CaOCl_2$の分子式を有す、然れども俗稱鹽化石灰と稱するものは前者と異なり一名漂白粉とも稱す、之に酸類を加へて鹽素瓦斯を發生せしむ。（鹽素の項參照）

昇汞及石炭酸

微生物體を構成せる蛋白質を凝固せしむ。

「フォルマリン」、「フォルムアルデヒード」及「アセトアルデヒード」

「フォルマリン」は「フォルムアルデヒード」の水溶液なるが故に其作用同一なり「アセドアルデヒード」も之に近似のものにして其消毒に對する作用は略同一なり、而して其作用は化學構造式より論ずるにあらざれば簡單に說明しがたし。

生石灰

水分を脫却すること、「アルカリー」性強きこと、蛋白質を凝固すること等に歸すべし。

硫酸銅

一種の酸化劑なり。

亞硫酸瓦斯

還元作用に因る。

鹽素瓦斯

酸化作用に因る。

檢蛆器の件に就き質問

廣島縣佐伯小萬村　大日本蠶絲會員　廣瀨定太郎

蛆繭の鑑定に就き現今最も完全なる檢蛆器は何人の製作にして代價は幾何なるや、又一人にて一日幾何の繭を撰別し得べきや、御教示を請ふ。

附丸山令專賣の撰別器は効用如何

答　大日本蠶絲會技藝委員　士屋泰

檢蛆器には構造の異なるもの數種ありと雖實用上望を屬す可きもの極めて稀なり、余が實驗したる器具の中にては廣島縣伊達郡桑折町字北町八十八番地佐藤嘉平氏の考案製作せるものが最も實用に便なるものと認めたり、此器具は使用者熟練すれば一日に壹石内外の穀繭を檢別するは難事にあらざるべし、然れども一回の檢査にて悉く蛆害繭を除去することは能はず、即ち上蔟後十日目頃に一回行ひて死龍繭及び化蛹繭にても出蛾期の迫りたるものを除去し、更に十四五日目頃一回十七八日目頃一回（但し上蔟後二十日頃より發蛾するものとして）都合三回行はゞ殆んど全く蛆害繭を除くことを得可し。

右器具の代金は　円からず製作者に照會せらるる可し。

丸山合專賣の撰別器に付ては未だ曾て實地に使用したることなきを以て回答し難し。

共燃式製絲器械に就き質問

愛知縣寶飯郡國府町
大日本蠶絲會員　近藤進太郎

共燃式器械は「ビリ」類多き理由詳細御説明を請ふ。

答

大日本蠶絲會
技藝委員　石居一郎

共燃式と「ケンネル」式とは器具の異ると共に絲質に大差あり、共燃式は絲質圓滑にして抱合力强く又光澤を有す、此點に於ては「ケンネル」式の遠く及ばざる處なりとす、然れども共燃式に「ビリ」類多きが如きは「ケンネル」式は一條の絲を

郡麻にこがいの道のひらけゆく　信田生

いやまさり行く國の御寶

て撚を掛け磨擦するも共燃式は二條の絲を以て磨擦するが故に匂配並に擦力の異なる場合及繭より節の揚りて集緒器に留まりたるとき等に於て顧を生ずることあり、因て近年共燃式は上部の二環を細き針金を用ひ絲の强く引くとき其力に應じ自由に環の伸縮する裝置に改めたり、而して本間の知きは同一の原繭を同一の工女を以て繰絲せしめ、更に共燃「ケンネル」の構造並に繰絲中の狀態を精査したる上にあらざれば果して如何なる原因に基くかを知るに由なし。

絲況

横濱市場

九月中に於ける横濱生絲市場の光景は其上旬にありては前日末より引續き好調を現はし頗る多數の賣行を見たりしが、中旬に入りては一時稍靜狀を呈したるも、下旬に入り再び非常の活況を現出し、月末に於ては日に一千個以上二千三四百個といふ稀有の大手合を得相場も隨て高直を示し信州上一番物は九百圓臺に回復したるのみならず此稿を草するの際は九百二十五圓の勝賣を見るに至れり、而して市場の大勢は尚活氣を有せるものゝ如く、若し我製絲家にして碧りに高唱へ賣濟りを爲さゞるに於ては尚好調を維持し得べきが如し。

本月中の賣了數は實に三萬三千百十五個にして一ヶ月間に於ける最大の賣了數なりとす、此生絲賣易開始以來未曾有の事なり、此の如き大多數に達したる原因は、生絲賣易開始以來未曾有の事に屬す、而して其十六日に於て來船「モンゴリゲー」號に搭載して横濱埠頭に着したる生絲の量は實に三千百五十一俵にして其價額約三百萬圓に達せり、一俵の俵和に此の如き巨額を積出したることゝ、又未曾有の事なりと云ふ。

抑も本年は世界の强大を以て稱せらるゝ露國と亞洲の野に爭ふ、既に前古未曾有の事なり、而して內農作の豐穰、又未曾有と稱し、製絲產額の多き又未曾有と稱せられ、之が賣行に至て又此の如く未曾有の多數に達せり、此の空前の外觀に當りて國內に於ける產業事情頗々として好調子を呈せるは洵に國家の大幸にして誰か祝賀せざるあらんや。

而して昨今に於ける生絲市場の好調なる原因に就ては世人の推測區々一定ならざるも今其三三を摘記せば

一、製絲家本年の收支は夏秋蠶繭買入れに好果を得、昨今の相場を以て賣應じ相當の利益を見得べき事

二、產額の增加と內地消費額の減少とに依て前途輸出向益々順る多かるべきを氣遣ひ、常に賣濟らざる事

三、時局の爲め人心自ら緊縮し成るべく賣應して資金に換へんとの念一般製絲家を支配し居る事

以上は本邦製絲家として賣行圓滑ならしむる主因にして海外に於ける狀態に基く原因は左の如しと云ふ。

一、歐米共敢て好景氣と稱すべき特別の事情あらざれども昨今の相場は恰も彼れの賣氣に投じ居るものにして即ち買ふて引合ふ程度なる事

二、米國機業者が歐亞一般の衰蠶が良好なるべきを見込み、相場の低落を見越し出來得る限り原料の買入を手控へ居たりしに、作柄豫期の豐收なら乎價額又低落の傾向なきより彼かに賣氣を示したる事

三、米國大統領の改選と機業家一般に前途を懸念し買入を控へ居たるも、何れ當派が勝利を得るとするも貨幣制度の上には何等變革を來さずとの見込立ちしより一

般に安心を爲さしめ前途を見越し買入に着手せし事

右の如く彼我の事情内外の形勢は賣買者双方の意氣を投合せしめ以て稀有の大賣行を現はしたるものなるべしと云ふ、

本月中に於て最も高價に賣行きたるものは相模甘泉社細及び丹波芦田製絲太の九百五十圓にして、其最も低價なるは岩代共同雍折返の七百四十七圓半なりし、今本年一月よりの最高價と前年のそれと對照表示せば左に掲ぐるが如し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治三十七年			明治三十六年			價格の差
月	産地	品名	價格	産地	品名	價格	
一月	島根縣	平田製絲太	一、〇九〇圓	靜岡縣	横須賀製絲細	一、一二五	三五圓
二月	三重縣	度會製絲太	一、〇五五	埼玉縣	埼玉製絲太	一、一二〇	六五
三月	島根縣	東雲館太	一、〇五五	愛媛縣	飯尾製絲太	一、一〇〇	四五
四月	宮城縣	白石製絲太	一、〇〇〇	岐阜縣	金華社細	一、〇六二半	六二半
五月	三重縣	度會製絲太	九七〇	三重縣	堀川製絲細	一、一一〇	一四〇
六月	愛媛縣	河野製絲太	一、〇一〇	長野縣	富田館新太	一、〇九〇	八〇
七月	山梨縣	矢島組太	九五五	愛知縣	三河製絲太	一、〇八〇	一二五
八月	島根縣	東雲館太	九五〇	岐阜縣	金華社細	一、一二五	一七五
九月	神奈川縣 京都府	甘泉社細 芦田製絲太	九五〇	島根縣	山陰製絲太	一、一八〇	二三〇

今左に本年中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十七年九月（自一日至三十日）生絲集散表

	持越	入荷	賣了	地方積戻	繰越
器械	七、二三六半俵	一七、六〇八俵	一五、四三四俵	二五〇俵	九、一六〇俵
座繰	二、九四三	三、九九六	四、七八七	二五	二、一二七
折返	九九五半	三、〇四七	二、八九四	一九	一、一二九
雜絲	一二二	一九四	—	四五	二七一
合計	一一、二九六	二四、八五四	二三、一一五	三三九	一二、六八七

備考

一、表中單位俵は九貫匁を指す。

二、持越とは客月より本月に繰越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る。

三、前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしに依る。

四、繰越以外に商談中のものありと知るべし。

五、賣了中米國に輸出せるものは一萬〇七百十四俵にして歐洲に輸出せるものは三千五百〇五俵なりとす。

但し一俵は十六貫目なり。

尙左に生絲集散日別表を示すべし

明治三十七年九月（自一日至三十日）生絲集散日別表

器械太□　同中△　同細○　座繰×　折返＋

日次	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	新種	最高直 / 最低直	備考
一日	三八三俵	一、二三七俵	一、一二三半俵	八九俵	—	二〇半俵	磐城 / 岩代	白石製絲保 / 共同三馬	＋□	九三〇圓 / 七九五	新規注文達したる風情にて上欄の取引出來したるも直段は變りなし
二日	六四〇	九九一	五九七	四八	—	八	伊豆 / 伊賀	正木製絲 / 南部社	□○	九一〇 / 八六〇	續て商ひ出來し適當品は何分か好直の方なりし
三日	五二八	三〇九	九一七	八一	二、八六五	一一半	甲斐 / 岩代	草蒲社 / 共同二馬	＋□	九二五 / 八三二半	前日同樣變りなけれど適品拂底の爲め捗々しき商談なかりし
四日	五六五	—	—	—	—	—					日曜日
五日	四三三	八一八	三五六	八三	—	—	但馬 / 上野	日下製絲 / 交水社二羽	×□	九一五 / 八五〇	新規注文達したるものゝ如く休日前に比し相場も二圓乃至五圓方高値に出來せり
六日	八九一	四三四	四七五	九	一、〇一八	—	甲斐 / 上野	白嶺社 / 下仁田社金字	×□	九一五 / 八六五	前日同樣變りなく弗々當用口へ賣行きありたり
七日	五五八	六二六	一、〇〇八	八四	—	一九	遠江 / 岩代	天龍川製絲 / 共同三馬	＋○	九三五 / 八〇〇	午後に至り新注文達し相應の商ひ出來せり
八日	一、二一二	一、三五〇	一、三一一	九〇	—	—	相模 / 同	甘泉社優 / 瀬遣社館	×○	九五〇 / 八三五	續て賣行き就中上州南部座繰は買人多く筋に十日より十五圓高にて出來せり
九日	三九四	五一七半	一、五八〇半	一五九	—	一三	羽前 / 岩代	長井組 / 共同二馬	＋□	九二〇 / 八四〇	前日同樣手堅く賣行ありたり
十日	四二七	七四五	一、二七六	七四	五七	一九	近江 / 岩代	天龍川製絲 / 北東社	×○	九四〇 / 八五五	兩三館買氣を揚げ居り相應の商出來し品により何分か好直なりし
十一日	九六三	—	—	—	—	—					日曜日
十二日	八〇五	九一三	九四七	二六	六九八	一〇	甲斐 / 相模	矢島組金優 / 瀬遣社館	×□	九三五 / 八四五	休日前同樣相場變りなく引續き上欄の商ひ出來せり
十三日	一、〇五五	八二〇	八二七	一二三	—	一七	甲斐 / 岩代	炬亮軒 / 東北社館	×□	九二五 / 八六五	引續き相應の手合あり相場も品により何分か高直なりき
十四日	八九六	二六四	八七七半	一六	—	四五半	上野 / 信濃	甘樂社提手 / 清龍館	□×	九三五 / 八七五	相場は變りなけれど一應買入を了りたるものゝ如く電信待の風情なりし
十五日	九一二	三四二	五六一半	七一半	—	二八	甲斐 / 岩代	甲龍軒 / 共同二馬	＋□	九二〇 / 八四五	前日同樣變りなし
十六日	八九七	二五五	三三七	六三	三、一六一	六	下總 / 岩代	市村製絲 / 共同社鵜	＋○	九一五 / 七四七半	諸館に落付模樣にて然たる商談なかりしが本日出帆の米國行生絲の積荷は貿易始まり以來の大多數なりし
十七日	八六九	二八〇	五一〇半	四七	八一三	一〇	美濃 / 岩代	信勝社優 / 東北社丸東	×□	九三五 / 八一五	染みたる商談なく大勢に鈍き成行なりし

十八日	七七〇	—	—	—	—	—					日曜日
十九日	九一五	一、三四三	一七四	三七	—	三〇	同 上野	甘麗 樂 水 社 銀社	×□	九〇五 八八〇	主に折遠の商議ありて上欄の手合ありし
二十日	八九六	六〇五	三八七半	四八	—	一五	甲斐 岩代	共山 同梨 一製 馬絲	+□	九四〇 八五五	上州南部座繰は商ひ出來ざるが飴品は目星き取組なかりし
廿一日	一、〇三六	六三七	六七六	三一	—	一三	信濃 岩代	共五 同洲 鶴館	+□	九二五 七四七半	引續き落付模様にて安直に折合たるもの弗々商ひ出來せり
廿二日	八五八	八四〇半	一、二三四	一一六	—	二四	信濃 岩代	共松 同 葉 二 馬軒	+□	九三五 八三二半	新規注電に接したる向あり相應に手合出來し相場は前日と變りなし
廿三日	一、〇五四	一六二	三八六	九五	—	—	信濃 岩代	八喬 同 姫木 建 蠶館	+□	九四五 八七二半	祭日の爲め休業の向多く前日來の商談口へ出來せしのみなりし
廿四日	九三六	五五三	一、四〇二	九二	—	—	上野 岩代	共礦 同氷 三社 馬郷	+×	九三五 七九五半	弗々商談あり相場は保合なりし
廿五日	五六五	—	—	—	—	—					日曜日
廿六日	一、一二四	二、三二八	六四一	一〇	七六八	—	丹波 岩代	共水 同上 銀共 象同		九二五 七七〇	座繰の外は幾分か引緩み模様なりしに午後甲九十番館信州物に向ひ商談を進め多數の買入をなしたり
廿七日	九一四	九七七	一、二七一	一五九	一、六六七	—	甲斐 上野	交矢 水島 社組 二金 羽棚	×∟	九四五 八六七半	引續き商ひ出來し信州物は二圓中位好直なりし
廿八日	九五四	二、〇二三半	一、五二三	七八	—	一五	美作 信濃	開津 明山 社製 銀絲	□□	九三〇 八七五	座繰其儘引續き多數の商ひ出來し相場手堅く保合居れり
廿九日	一、〇九一	二、〇七一	一、六九七半	一〇一	—	—	甲斐 岩代	共入 同幡 三製 馬絲	+□	九三五 七九二半	新規注文達したる向あり續て多數の手合を得相場も又々高直を示したり
三十日	一、三〇四	一、一八三	一、〇一八半	八五	三、一七二	三五	丹波 岩代	共戸 岡田 二製 馬絲	+□	九五〇 八三〇	續て多數の取組あり適當品は五圓方高直を告げたり
合計	二四、八四五	二二、六二四半	二三、一一五	一、九一五半	一四、二一九	三三九					

尙左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明かならしめん爲月別表を示すべし

明治三十七年生絲集散月別表

月次	持越	入荷	賣了	積戻	持越	輸出 數量	輸出 價額
一月	三二、八〇七	六、五〇〇	一七、〇一一	四九六	二四、二七二	一九、一二七	八、八一九、五五六
二月	二四、二七二	二、八九九	九、三一九	七七八半	一七、一一七	三、五一九	四、八八五、七一六
三月	一七、一一七	三、九三〇	五、二六七	二、九五〇	一三、一五一	四、〇七五	四、〇八四、〇二六
四月	一三、一五一	五、四一七	八、四六八	一、六一二	八、七五二半	四、二六九	四、一一三、五二四
五月	八、七五二半	三、五八九	五、八九四半	一、一三九半	五、五七八半	四、〇九六	三、八一四、五三七
六月	五、五七八半	三、一七六	四、三八四	一、二二一半	三、〇四一	二、四二八	二、四一九、二二九
七月	三、〇四一	一六、〇八四	一〇、六七〇半	六六一	八、二九六	五、〇六六	四、六二七、〇二〇
八月	八、二九六	二二、九六一	一九、一一八半	三一二	一一、二九六	九、四〇一	九、〇七八、七八五
九月	一一、二九六	二四、八四五	二三、一一五	三三九	一二、六八七	一四、二一九	一二、六九九、七七八
計	—	八九、四〇一	一〇三、三一七半	九、五一九半	—	五六、二〇〇	五四、五四二、一七一
三十六年度同上	—	九〇、三八六	八三、四二三	九、〇六一	—	四六、二八八	五〇、五五六、三八七

紐育市場

紐育駐在内田總領事の最近電報を掲ぐれば左の如し。

生絲取引益々增加す多くは當座用、樓展中には尙ほ相場の落付を待つ者あり、器械一番三弗七十三仙より七十五仙（九月十六日報）

羽二重好景氣、生絲は靜なり（十月一日報）

生絲市況格別變りなし（十月七日）

里昂市場（八月二十七日報）

當地今週の市況は先便後格別の變化を見ず、唯々日々小仕來の取引ありて諸邦の產絲共相應に賣行きたり。

目下夏季中の市場としてはまづ相應の景況にして相場も可なり手堅く持堪へ居れり。

賣入買入共今日の不振を能く堪へ近き將來に於ける市場の回復を待ち居るものゝ如し、倩今週歐洲絲の出來直は左の如し。

セヴエース二等十一—十三　四十二法
ピエモン一等十一—十三　四十三法
伊太利條等十一—十三　四十四法
同　一等十三—十五　四十二法
志里一等九—十一　四十—四十一法
同　二等九—十一　三十九法—四十法

米蘭市場は今週取引稍々增加し亦製絲の注文も相應に出たれ共直段の折合はざるが爲に破談の分も夥多ありし。

馬耳塞市場は歐の手合玉極の不振にして爲に氣配も少しく弱氣を示せり。

當市場に於ける亞細亞絲本週の景況は手合靜にして唯支那絲及日本絲のみ少しく買入ありたるのみ、又七里生絲は望口非常に多し。

日本生絲今週の出來直は左の如し。

器械一番十三—十五　四十一半—四十二法七十五
同一番二九—十一　四十二—四十二法二十五
同　一番二十—十二　四十一半—四十一法七十五
掛田一頭馬　三十九法七十五

尙同地駐在山田領事の最近電報を揭ぐれば左の如し。

生絲商況は依然不活潑なりと雖も相場の底堅し。羽二重課稅官廳の仲に關しては巴里・里昂の羽二重關係營業者の各團體に抗議のため目下評論最中なり（九月二十四日報）

生絲商況は機屋需要のため漸々活動の兆あり。歐洲絲取引あり、我絲も少しく需要を增加せり。然れども其相場の氣配歐洲絲強からず、且本邦機絲一番半九分五厘一（アニール）物四十二法乃至四十二法半、今週の羽二重市況は關稅賠償金の影響として賣買著整力とも弱調ひの委細引殆と沓無の狀に下れり。稅關減の標準相場總前六分付き二十三（インナ）四十二法半。（十月一日報）

生絲商況は內外國の需要の益々好氣配にして相場上昇の傾向なり、我機械絲九乃至十一（アニール）物一番半四十二法半乃至四十三法なり。（十月八日報）

上海市場（九月二十四日報）

當地絲況は各國とも先月相應に取入れたる爲め兩週間の影響と休息の染にて今週は各外商何れも見送り居りて値と商議を進めず、且筋違も下落したる爲め繰り出內出來せずして市場に過去アレて市場は至極沈靜に見へたり。翌日して目下出來高は五萬

植物を植る貧めに之を抜き棄つと云ふ有様であるから其數は益減ずるのみである、養蠶家の數、蠶種の産額、收繭の量も年々歳々減少して來る、

桑樹の栽培も不規則極まるものであつて、重なる我が蠶業地を飼る桑樹は田の畔や葡萄園の邊りに一列に植付けてあるべき筈であるが呂中此處彼處に不規則に散植してあるのが多い。

至る所桑樹より利益の多き植物あれば直ちに桑樹を抜き棄てて之を植る有樣である殊に此の傾はつニーメ又は「ウーゼ」の諸州に多く見えるのである其原因は幾勵金の有るにも拘らず蠶繭の價格が人間の手間賃と景氣平均を保つこと能はざるに至つたからである、

「ウーゼ」に於ては桑樹を引抜きて葡萄を栽培し又は地味が適すれば首蓿を作る、桑樹は蠶兒が之を必要とする時分に最も多く人間の手間を要するので當時は之を栽培するものゝ外ん[illegible]ど絶無と云つて宜しい。

「ルムーレン」の如きに至つても亦然り、桑樹は何時の間にか他の果樹と交代せられ、此處三四年も經過せば桑樹栽培は同地方の紀念物として殘るに過ぎざるに至るであらう、嘆ずべき事ではないか。

更に「ニーム」の下流同縣南部の地方を見るに此處又桑樹は絶無と云つて可なり、蠶業地一「エタール」に就て蠶繭の收獲僅かに百「グラム」乃至五百「グラム」に過ぎぬ。

「セザエンヌ」の山國は如何であろうか昔は「金の生る樹」（Arbrel'or）と迄稱せられて嘆美せられた桑樹は實に其形容の通り同地方の一大財部であつたが、今は見る影もなく痩せ衰ひ何處を見ても[illegible]ヒョロヒョロと長れ氣に生き殘りて歴代の昔を空しく偲ばせるに過ぎぬのである。

余は「セヴエンヌ」地方とは大なる關係を有し又「アレー」都の諸戸長役場に就いて千九百年中に深く研究した所があるから余は「セヴエンヌ」地方の蠶絲業衰頽に就いては精しく其原因を承知して居る者である、そこで余は屬ゑ同地方の農事協議會に於て此悲むべき目下の狀態に關して注意を爲し又救助策をも說明した。

昔は年々二萬五六千基の蠶繭を收獲した「セヴエンヌ」地方中に於て最も多く蠶繭の收獲があつた或村の戸長は余に次の樣な手紙を送てよこした。

「拙者の[illegible]は[illegible]の[illegible]に[illegible]し[illegible]て[illegible]我地方の桑樹は長く保存するの方法を示めし[illegible]れざるに於ては「セヴエンヌ」地方は今より三十年の後に於ては[illegible]一顆の蠶繭をも生ずる能はざるに至るべくと憂慮致居候。

小生の愚考致居候。

至一割五分は之を植ゑ代へるの必要ありと認め申候、目下の狀態に於ては桑樹の[illegible]生存期を縮め桑葉の分量は驚くべき比例を以て減少致し來り候。

昔年[illegible]以上の桑葉を産出する[illegible]に過ぎざる有樣に有之候、此減少の比例は將來更に驚くべき[illegible]に至るべしと確信仕候、事茲に至らば農民は去つて都會へ移住するに至るべくと存候。

大惡斯の如し[illegible]何んと憂ふるに除りあることは有るまいか、尤も「ガール」の市參事會は此狀態を認めて居るので、昨千九百三年十月十日の會議で左の意味の決議を爲た。

市參事會は上院及下院に左の通り建議すべし。

十歳以下の桑樹を栽培する土地に對しては其地租を免除し十歳以上即ち收支相償ふの後に至て始めて地租を徴收すること。

此建議の成行如何は別問題であるが桑樹の年々歳々減少することはくどくゝしく繰返す必要はあるまい。

然るに茲に又更に驚くべき現象がある、桑樹が前云つた通り追々減少するにも拘らず、佛國全國で飼育する蠶兒に佛國の桑樹を與へても桑葉に多數の幾餘を生ずると云ふこと事實である。

蠶繭一基に付七六十「サンチーム」の幾勵金があるにも拘らず蠶絲業の衰微とし振はざるのは桑樹栽培の減少に依るのみでない事は此桑葉の幾餘を生ずる事實で分る。

されば蠶業衰頽の原因は何であろうか之れには爭ふべからざる二個の大原因がある。

第一は蠶兒の數が減少したこと

第二は掃立蠶種の減少したこと

此二個の原因が今日佛國蠶絲業衰頽の大原因である

年次	養蠶家の數	掃立オンス數	收繭量
一八八二	一七一〇九六	三四八、六〇三	九七七一、〇七九
一八九一	一八九一、八〇	三三五、六三一	六八八三、五八七
一八九二	一四一、四八七	二二七、一五六	七、六八〇、一六九
一八九三	一四八、九七一	二二五、〇一二	九、九八七、一一〇

| | | |

清國浙江省の蠶絲業（承前）

大日本蠶絲會
通信委員　在清國　前島次郎

原料購求地

現今上海等に於ける製絲場の原料は概ね江蘇省の無錫地方一帶と浙江省の新昌縣并に嵊縣地方一帶に限らるゝの有様なり、是れ蓋し清國製絲家が内地に於て原料を買入るゝの組織既に取引上の機關設備せらるゝを以て其買入容易なるも概ね相場の高きを免れざるなり。

寧ろ從來の集散地を離れ多少の不便は忍びて尚未だ機關の設備あらざる地方に於て買入をなさんが利益の知て優れるを知る可し、殊に内地に於て製絲場を經營せんとする者の最も趣味多しとする所なり、彼の英商怡和洋行が今より四年前拱宸橋各國居留地に於て簡易なる繅蛹室を設けしより爾來例年杭州地方の產繭を買入るゝの狀眞に羨むべきものあり、其買入金く鋤占なるを以て原料は意の如く蒐集せられ、擇擇せられ、假令品質の多少劣るあるも價格は之れを從來の集散地に較べ當に約二三割の低廉なるは余が親しく實見せるところなり、現に三十五年の知きは本省一般の養蠶稀なる凶作に為ず從來の取引地は自然買入の競爭行はれ價格の著しく暴騰せるにも拘はらず當地に在りては尚一割五分の値安を以て取引せられたり。又本年の如きは近年稀なる豐作にして至る處產額の多かりしにも拘はらず昨年以來繭價の好況なるを知て未曾有の相場を表し一時買入に行腦みたるの區情なりしが該地に限り其低廉なる買手の競爭を生じたるの有様にして之を本場に比して約三割の安値なりしは事實なり、是蓋し內地製絲業の大に趣味ありと云ふ所以にして又本省に於ける內地二工場の年を追ふて益々盛大は是く所以亳も怪むに足らざること甚大なるを以て茲に余が謹定せる買入地を紹介し當業者の參考に資せんと欲す。

甲本地買入場　拱宸橋を中心とし養蠶の行はるゝ地方を曰へば東は府下喬司林屏鎭より海寧管下に連なり、西は三撥長橋及留下の各鎭より餘杭及宮陽縣管下に連なり、南は杭州府城巴子門外と接し、北は臨平及塘棲鎭に連なり其周圍は悉く養蠶地にして、遠きも我十里內外に過ぎず、此間水路縱橫に貫通し悉く拱宸橋大運河と連絡す故に若し乾燥室を此地に設立せんか鮮繭忽ちにして蝟集し買入の容易なること今より想像に難からざるなり。

幸に我專管居留地は絲廠と大運河を隔てゝ對岸五六町の處に在り現今は開港場たるの名のみにして草莽々たる乾燕の地一條の道路なく一軒の家屋を見ずと雖も、此の所に簡易なる乾燥室を設け以上養蠶地より蝟集し來る原料を買入せんか〔一〕營利速攻の上に於て非常の利益なること〔二〕價格の低廉なること〔三〕乾繭每百斤に付き黑銀拾貳弗の落地稅を省き得ること等は其御業に際し算に過大なる利益と謂ふ可きなり。

彼の英商怡和洋行の各國居留地を利用したる所以又故なきに非ざるなり。

乙出張買入地　本省從來の取引地たる新昌及縣絲を除き養蠶最も盛大にして產額多く加ふるに繭質の良好なるは余が數年の調査に據れば第一諸暨縣北門或は東南門外一帶、第二嘉興府下烏鎭、第三湖州府德清縣下新市鎭、第四杭州府下海寧州なりと云ふべし、就中有望なるは諸暨縣なりとす、該縣に付ては既に產繭地概說にも述べたる如く本省著名の取引地なる新昌及縣縣の西北に連なり次て有名なる蠶業地なり、從來は太絲の產地に止り曾て鮮繭賣買の行はれざる地なりしが近年上海絲價の好況なりしため其餘波又當地に及ぼし漸く烘灶の增設せらるゝもの多く現今既に十ヶ所の繭灶を見るに至れり、該地は當地を距る我二十七里內外舟行の便あり一夜にして達するを得而して本縣の北門並に東南門外に當る地は是れ將に繭灶を創立すべき地にして本縣中養蠶の最も盛なる處なり、而も繭質の良好なると絲量の多きは蓋し本縣產の特質とも言ふべく更に價格の低廉なると秤の大なるは出張買入所として殊に趣味多き地となすべし。

價格　凡そ製絲經營の大主眼は原料買入にあり而して相場の如何は直に斯業經濟の消長に至大なる關係あるを以て創業者たる者は必ず最も安全なる標準相場を撰び豫算せざるべからず、況んや漫に一時投資者の注意を惹かんがため普通の相場を誇張して見積り其利益を粉飾するが如きは深く余の取らざる所なり、如此は若し一朝海外市場の變動により絲況の沈靜に逢ふか或は不時の凶作に遭遇せば忽ち製絲經濟は破壞せられ一蹶再び起つ能はざるに至るへし、元來原料の價格は品質の良否、買入の便否、買入の便否、養蠶の豊凶、或は絲價の高低により極めて變動し易きものなること及び我製絲家の實驗するところ乃ち、況んや清國の如きも未聞の地に在りては第一交通の便否より、各地經濟事情の異なるに從ひ、第二養蠶の技術其他の損益に關し、第三豊凶如何に關して、第四繭質の高低及び多少に關して、第五每年の價格の安否なる標準價格を求むること如きは極めて難事とする所なり、既往數年間に於て余が實見する處によれば相場の最も高き年は本年にして絕興府下產繭の出品質優等にして百斤の生絲を製するに乾繭四百二十斤を要するのは鮮繭一斤の相場六十七仙より七十仙內外なり、其中等に位するものの即ち乾繭四百五六十斤を以て百斤の生絲を製し得るものは五拾八九仙より六拾一二仙にして平均六十仙內外に取引せられたり、尤も地方によりて一ならず杭州府下餘杭縣の如きは平均一斤の相場五十四仙內外又拱宸橋の如きは四十六七仙內外なりし、之を余が淺清以來の杭州相場最高四十一二仙最低二十七八仙の當時に比するときは實に一倍の高價なりと云ふ可し、就に余が淺清以來五ヶ年間に於ける鮮繭并に乾繭相場を掲ぐれば左の如し。

種別年次	三十六年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年
杭州鮮繭	一斤	四七〇	四三	三五	二八
同　乾繭	百斤	一五〇	一一〇	一五	未詳
餘杭鮮繭	一斤	六〇	五一	四五	三八
同　乾繭	百斤	一八〇	一五五	一三五	未詳

（備考）鮮繭は內地相場にして乾繭は上海相場なり但し年代は從に同じき

而して下の豫算は鮮繭一斤の相場六十錢として計算せり之を既往の最高四十九仙（絹糸相場）内外の相場に比すれば一段の高價にして蚕低き平均を以て買ひ得るの見込あるも豫算の穩實事業の安全を期せんかため準標相場を高定せるなり、故に昨年の如き昇價の年にありては普通上物を買入れ得へく又平年にありては優等繭を買入れ得へし、故に利益は邁進するために危險の憂なく極めて特別の場合を除きては誠に安全なる豫算と云ふへし。

曾て余が將來有望なりと稱する諸暨縣管内に於て某繭行か現に買入れたる相場は次の如くにして其有望なること特た乘涎萬丈の感なき能はざるなり。

地名	社數	買入個數	應相場一斤相場
雞距下街市	二四	一四〇〇〇〇〇	五六
同 草塘	一四	六〇〇〇〇	五三

●絲量は原料の善惡により其た一定し難しと雖も普通發蛾家か一般に唱ふる所は十斤の鮮繭を以て一斤の生絲を得るを上となし、又十二斤の鮮繭を以て一斤の生絲を得るは中なりとせり、即ち鮮繭百匁に對する絲量は十八匁より匁内外の間にあるものなり、而して機械製絲家が乾繭幾百斤を以て百斤の生絲を製し得ると云ふは是れ内地繭行に於て買入れたる未撰別乾繭に對する品質の良否並に評價の標準たるに過ぎざるなり、今此の通例に從ひ本省產繭の優劣を區別すれは其最も優等なるものは乾繭四百斤より四百三四十斤を以て百斤の生絲を得、又中等に位するものは四百四五十斤より四百七八十斤を以て製し得へく、又五百斤内外より五百四五十斤に至るものは下位なりとす、而して六百斤内外を以て百斤の生絲を製し得るものは最劣等なる品質にして本省產として之を見る甚少し、而して其普通に得易きものを求むれは紹興繭にありては四百五六十斤物又杭州產繭に在りては五百斤内外物なりとす、已に述る如く以上乾繭の數は未撰別なるを以て之より玉繭屑皮繭及傷繭等を引去るときは都て絲量の昇價を知り得へし、而して屑繭混入の割合は其品質に從ひ一ならすと雖も從來の實驗に徴すれは一割より二割の間にあり平均一割五分と見て充分なるへし、故に本省產は之を機械により繰絲するものとなし其絲質良好なるものは鮮繭百匁に對する絲量九匁内外にして稍劣れるものは七匁内外なりとす、下の豫算は乾繭四百七十斤を以て百斤の生絲を製造し得るものとし是より屑繭一割五分を引去り殘高三百九十九斤五分を以て百斤の精絲を得るものとせり、故に鮮繭百匁に對する絲量は八匁三分に當れり既に豫算は紹興繭を以て見積りたるものなれは乾繭四百五十斤として計算し稚に進算なさを信ずれとも、又原料の若干は拱宸橋屋智地に於て買入る、場合あるを以て强て四百七十斤として豫算せるものなり。

日本支那機械生絲市價對照表

彼我生絲市價を對照するには獨り生絲の相場のみならず併せて當時に於ける爲替相場を對照せさるへからず、既往に遡り此等細密の調査を爲すは甚た煩雜なれは別表は單に當時の市價を對照せしに止まるも亦以て其一班を窺知するに足らん乎。

月次	日本 最高	日本 最低	日本 最高	日本 最低	日本 最高	日本 最低
	三十五年 支那		三十四年 支那		三十三年 支那	
一月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
二月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
三月	六〇	六〇	—	—	六〇	六〇
四月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
五月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
六月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
七月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
八月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
九月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
十月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
十一月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
十二月	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇

佛國「モンペリー」農業學校蠶業部に於ける蠶兒飼育の概略（承前）

大日本蠶絲會通信委員（在佛國）峰村喜藏

●蠶座　卵量四デシグラムより發生せし蠶兒を長さ内側二尺七寸巾一尺六寸此積尺坪四坪三二の蠶箔一枚にて上蔟せしめしを以て尺坪一坪に蠶兒約百頭の割合なり、掃立より各種を全面に廣げたり、歐羅巴種は二グラムの卵數四百八十粒乃至一千五百粒にして四デシグラムの卵數は四百八十粒乃至六百粒なり、此内發生せざるもの及發生後遺失蠶病蠶等約二割とするときは三百八十四頭乃至四百八十頭なり。

●蠶兒の發育　各蠶共に發育良好にして經過せり、今各種に於ける平均五齡盛蠶一頭の體量を擧ぐれは左の如し

日本種	一匁二分七厘
支那多化種	一匁四分三厘
「ゴバン」種	一匁二分
各種掛合種	一匁二分八厘
歐羅巴種	一匁三分八厘

●支那一化種　○○分通り熟蠶の見えしとき蠶沙の多きは除沙を行ひ比較的少きときは除沙を行はず、蠶兒を可成蠶箔の中央に集め「ゴバン」と稱する「ゴバン」の上に稚蠶を撒布し分に稚蠶を約五寸高さ四寸ほどに積重ねて蠶沙を除去し、未熟蠶には中央に於て少量づゝ給桑を出で此内に蠶を集めしめ、而して桑葉蠶兒の周圍に出で蠶を集めしめ、而して桑葉蠶兒の周圍に出で蠶を集めしめ、而して桑葉蠶兒の周圍に出で

軟なるを以て蔟しとなすに適すと云ふ。

蠶病　第五節中支那一化蠶に少しく軟化病を生じ、上山に際し各種共に少數の膿蠶を出じ、白繭蠶は只た一頭見受けしのみなり。

收繭　各種共上蔟後十一二日目より繭掻きを始め六月十四に至りて悉皆終りを告げたり、此間共に繭綿を取り收繭量を驗し種繭を撰みて一々針を以て種繭を絲にさし製種の準備をなしたり、蟻蚕の害絶えなきを以て種繭用に供するには收繭斯く遲るゝと雖も更らに支障なきものなり。然るに本邦に於ては蟻蚕なる大敵を有し年々之れが爲に害を蒙むること莫大なり。

佐々木博士の調査によつて研究發表せられし蟻蚕防禦編に曰くなしと雖も、未だ実分其効を除くを得ず予は去る明治三十六年山梨縣甲斐地方に於ける蟻蚕の一部を買上げ蟻蚕改良建議せしも、甚遺憾なるかな、予の力弱き為めに採用されざりしを以て、蟻蚕の害を防ぐ為めに、

●繭一粒繰試驗　本年の收繭につき一粒繰り試驗をなせしに何れも更に切斷なく解舒至て良好なりき左表は種々の項目により調査せるものなり。

種類	繭の番號	繭長（寸）	繭幅	第一次百回（ミリグラム）	第二次同	第三次同	第四次同	第五次同	第六次同	第七次同	第八次同	全量	全長	四百「メートル」に對する重量	屑量
歐羅巴種	1	一、一〇	、五五	四五、	五一、	四二、	三四、	二三、	一四、	一〇、		二一九	七〇〇	一二五	二二
	2	一、一〇	、六〇	三一	三一	三三	三一	二六	一九	一一		一八二	七〇〇	一〇四	一六
	3	一、〇〇	、五五	二八	三五	二八	二八	二五	二〇	一五		一七九	七〇〇	一〇二	二三
折合種	1	一、一〇	、六〇	三四	三九	三七	三五	三一	二六	二二	四	二二八	七二〇	一二七	一六
	2	一、〇〇	、五五	四一	三八	三五	二九	二〇	一五			一七八	六〇〇	一一九	三七
	3	一、一〇	、五〇	二八	二九	二九	二八	二二	二二	一九	三	一八〇	七二〇	一〇〇	二〇
「ルバン」種	1	一、二七	、六六	四三	四三	三七	三四	三一	二四	一九	五	二三六	七二〇	一三一	四〇
	2	一、三〇	、七〇	四八	四三	四三	四二	三六	二三	八		二四三	六六〇	一四七	八〇
日本種	1	一、一七	、五二	三六	三六	三二	三二	二七	一五			一七九	五七〇	一二五	二七
	2	一、〇〇	、五〇	三八	四五	三五	二三	五				一四六	四三〇	一三六	一二
	3	、九二	、四八	三四	三六	二六	一八	一四				一二八	五〇〇	一〇二	一五
支那一化蠶	1	一、二二	、五五	二九	二九	二八	二六	二〇				一三二	五〇〇	一〇六	五一
	2	一、一〇	、五〇	二三	二三	二五	二三	六				一〇〇	四四〇	九一	三七
	3	一、一〇	、四六	二六	二六	二二	一二					八六	四〇〇	八六	二四
支那多化蠶	1	、八〇	、四〇	三五	一六	五						四六	二四〇	九三	一
	2	、八〇	、四〇	二〇	一六	一〇						四六	三〇〇	六一	一

每次百回の重量及全量四百「メートル」に對する重量屑量は皆「ミリグラム」を以て示し繰長は「メートル」を以て示す、類節は蔟方の如何により少しく見えしもありしが其調査を欠く。

夏　蠶　育

蠶業部第一室に於て製種の側ら夏蠶を掃立飼育せり、春蠶結了後蠶室蠶具共更に掃除を行はず其儘使用せり、六月十三日十八種、同十四日三種、同二十一日一種を掃立共に二十二種にして掃立法は豫て寒冷紗様の嚢中に產附しある蠶卵より孵化せるものを嚢の兩側及び口部を剪刀にて切開し蟻蛾を拾て箔上粗紙を布きたる上に置き給桑し二日目に至り嚢を除きたり、雌蛾は殆んと病毒なしとの趣にて鏡檢を行はざりし。

一種につき七八蛾分づゝを掃立て卵及蟻共に驗量なし桑葉は春蠶に於て摘採し後ち發生せしものの各芽中の上部二三葉乃至三四葉を扱き取り一日給桑回數一二三齡共に三回、除沙は一眠及二眠の起除沙を行ひ三齡間に二回なりき、春蠶の時と同じく蠶座能く乾燥せり、今其經過を記せは左の如し溫度は氣象表對照せらるべし。

支那多化蠶　六月十三日掃　共に十七種
産卵後十日乃至十一日目にして發生せり

六月十八日	第一齡終る	六日間
六月二十三日	第二齡終る	五日間
六月二十八日	第三齡終る	五日間

支那多化蠶　六月十四日掃　共に三種

六月十九日	第一齡終る	六日間
六月二十四日	第二齡終る	五日間
六月二十九日	第三齡終る	五日間

日本蠶　六月十三日掃　一種

六月十八日	第一齡終る	六日間
六月二十三日	第二齡終る	五日間
六月二十八日	第三齡終る	五日間

支那一化蠶の變化　六月二十一日掃　一種

六月二十七日	第一齡ヶ終る	七日間

五月五日春蠶用摘採後桑芽葉伸暢六月二十五日の調査は左の如し。

一蘗の葉數七八葉より八九葉大形葉長四寸四分葉巾三寸五分（百分中葉量六五、六七葉柄量二、二五莖量三二、〇八）

附　記

●本年の桑價（蠶葉混交）摘桑賣主に於て行ふときは百基（我二十六貫六百六十匁）二法五十仙乃至三法（我が一圓乃至一圓二十錢）摘桑賣主に於て行ふときは百基五法乃至五法五十仙（摘業料百基二法五十仙）

又本邦に於て行はるゝが如く桑樹を見て見積にて賣買を行ふことあり、又市場に桑葉を持出し賣買を行ふことありと云ふ。

●本年の繭價

本年繭市の開始は六月十日にして十四五日より二十日頃尤も盛んにして六月末日に至り略ぼ終りを告ぐ、生繭一基（我が二百六十六匁）二法二十五仙より始まり二法五十仙二法七十五仙位となり後三法の取引ありたり、今之れを我が一貫目に換算するときは左の如し。

生繭一基に付佛貨	同上日本貨	生繭一貫に付佛貨	同上日本貨
二法二十五仙	九十錢	八法四十六仙	三圓三拾八錢四厘
二法五十仙	壹圓	九法四十仙	三圓七十六錢
二法七十五仙	一圓十錢	十法三十三仙	四圓十三錢二厘
三法	一圓二十錢	十一法二十七仙	四圓五十錢八厘

前年は三法八十仙三法九十仙等なりしが本年は右の如く安價なりと云ふ蠶作一般に良好なり。

●育蠶中人夫料

男一日　二法五十仙乃至三法（我一圓乃至壹圓二十錢）

女一日　一法七十五仙（我七十錢）

以上共に食料は自辨とす。

（完）

伊太利に於ける絹工業

里昂駐在帝國領事報

伊國美蘭絹商工業組合の調査に基き同國各地方に於ける絹工業の狀況を表示するに左の如し

製絲業

州名	工場數	鍋釜數 運轉	鍋釜數 休止
ピエモン(Piémont)	一三一	七,八六五	一,〇二四
リギュリー(Ligurie)	二	四三	二一
ロムバルヂイ(Lombardie)	四九〇	三五,四〇七	七九七
ヴエニシー(Vénétie)	一九八	八,五三七	二四四
エミリー(Emilie)	一六	七四二	三二
トスカンヌ(Toscane)	八五	一,七五七	一一六
ウムブリー(Umbrie)	一	九四	二六
マルシュ(Marches)	八六	一,九三五	九七
カンパニー(Campanie)	二	九六	—
カラブル(Calabres)	四六	一,八一八	二六六
シ・シール(Sicile)	八	四五四	一九
合計	一,〇六五	五八,七四八	二,六四二

撚絲業

州名	工場數	錘數 運轉	錘數 休止
ピエモン(Piémont)	六二	一二九,四八四	二五,三三八
リギュリー(Ligurie)	二	四五〇	七二〇
ロムバルヂイ(Lombardie)	二七六	五六三,一九八	二二,九九二
ヴェチシー(Vénétie)	五	一〇,八八〇	—
カンパニー(Campanie)	一	一,二五〇	—
合計	三四六	七〇五,二六二	四九,〇五〇

機業

州名	工場數	手織機 運轉	手織機 休止	力織機 運轉	力織機 休止
ピエモン(Piémont)	一二	二八六	一四	六四七	—
ロムバルヂイ(Lombardie)	一二八	八,七八八	一二五	六,七七九	五
ヴェチシー(Vénétie)	三	一〇五	—	—	—
トスカンヌ(Toscane)	三	四八	—	—	—
マルシュ(Marches)	一	—	二〇	—	—
カンパニー(Campanie)	一七	三一二	—	二八	—
カラブル(Calabres)	一	五	—	—	—
合計	一六五	九,五四四	一五九	七,四五四	五

右統計は絕對的正確なるものにあらずして多少の遺漏誤謬は免れざる所なるべきも伊國絹工業の大勢か窺知するに足るものなりとす

清國四川省の蠶絲業

重慶駐在帝國領事報

清國に於ける輸出品中其重位を占むるは生絲にして恰も我帝國に於て生絲が輸出入高の權衡を左右するの勢力を有すると趣を同うせり、されば清國は我海產物棉絲及雜貨等の得意場なると共に歐米各國に對する生絲貿易に於ては我競爭者の地位に立つものなれば清國の蠶絲業の興廢は延ひて我生絲貿易の盛衰に關するは論を俟たざるなり、從來清國に於ける斯業は幼稚なる生產者の自爲に放任して政府は毫も奬勵改良等の施設を爲さず、唯纔に五六年以來杭州其他一二地方官が農蠶學堂を起し日本より敎師を招聘して生徒を敎育するに過ぎざりしが、北京商務部は過般一片の上奏を奉り大に產物を繁殖して輸出貨物を增加せんことを建議せり、就中蠶絲製茶二業の改新に重を措きその文中に若し再び整理をなさずんば恐らくは日本の生絲、印度、錫蘭の茶は駸々として我を凌して上り而して我恃んて輸出大宗とする所のものは行々其利源を失はむと、又產絲地方にありては外國に於ける養蠶、製絲の方法を研究し或は蠶務學堂を起し廣く傳授をなさしむとの語あり以て清國當局者が蹶然起て競爭場裏に勝を爭はんとするの意向あるを知るべし、然れとも其各省總督巡撫は果して商務部の意を躰し嚴重に之を實施するや否は未知の疑問に屬すれば未だ假に其蠶業の勃興を期するに足らずと雖も、四川總督は近頃管下廳州縣に向ひ蠶絲業の利益を起さむが爲め先づ其一着手として村保溝渠畦陵屋角等一隙の地を遺さず桑樹を栽種し其蠶桑なき地方は官費を以て秧種を購入して、散給し而して今後は各屬地方に於ける栽桑の多少を以て地方官の功過として若し此訓令を施行せざるものありて一度查出せらるゝ時は容捨なく處分すべき旨を嚴達せり、於是乎既に或二三地方官は或は私金を以て桑秧を購入し或は官用地に種秧せんこと等を上申せる者あり、各地方官競ふて此訓令に從ひ多くの桑樹を栽種して論功行賞の資に供せむとするの風あれば四川省中到る所桑株の鬱蒼たるを見るの期も遠きに非さるべし。

抑々四川省は氣候溫暖にして或地方を除くの外終歲降雪結霜せず隨つて栽桑育蠶に恰好の地方なる事は我專門家の唱導する所なるのみならず現に嘉定府、順慶府、潼川府、保寧府等の如きは著名なる養蠶地にして年々巨額の產出あるを以て將來四川に於ける斯業の甚だ有望なるを證すべし、現今四川に於ける一年間の生絲總產出高は之を知るに由なしと雖も、元來四川は蘇州、杭州に亞ぐ有名なる絹織物產地にして成都嘉定、璧山等の如き大機場及各地方に於ける織物緞絲綢綺等に消費する巨額の需用を供給して尙年々當重慶より輸出する高少ならず、卽ち稅關報告に就て既往三年間の輸出高を調査するに左の如し。

		三十六年	三十五年	三十四年
生絲(白)	量	一七六擔	三二擔	四八擔
	價	二七,六八九兩	七,九六三兩	一一,七三二兩
生絲(黃)	量	五,二三四擔	七,〇四二擔	五,五三一擔
	價	一,三〇四,八三六兩	一,五三五,一一一兩	一,一九四,七六八兩
屑絲	量	一,〇五五擔	一,二〇五擔	七九七擔
	價	三二,七八八兩	二四,九四七兩	一五,九四四兩

此外在來の釐金局を經て輸出するものも多少あるべしと雖も、當地稅關を經由して輸出するもの而已にても尙前表の如く每年一百萬兩以上に達するを見れば現今四川に於ける總產出高は非常の巨額に上り居る事疑なき事實なるべし、然るに今又總督は訓令を發して斯業を獎勵し一方には他方人士中にも夙に其利益事業なる事を唱道するあり、已に大足縣の如きは鄕紳等資金を釀出して昨年より一の蠶桑學堂を開き本邦人の敎鞭を執れる杭州邊の養蠶學堂を卒業せし支那人を敎師とし不完全ながらも萬事日本風に倣ひ生徒を敎育し居ると云へは四川の斯業は數年ならずして輸出高に於ても大に增加するは疑なし、加之前述商務部上奏の主意實施せられ各省に於て蠶務學堂を開き漸次學理を應用して栽桑育蠶の方法を改良し以て一般生絲業を奬勵するの曉に至らは其影響を我蠶絲貿易上に及すは必然の勢ならんか。

佛國練羽二重輸入税

在佛國帝國公使及領事報

課稅の決定　練製又は整理の工を加へたる羽二重は關稅法に依り免稅すべきものにあらずと工藝諮問會の解釋に依り既に去る二十九年中行政處分を以て

課稅を免じたるも其分離は一時取消の要と為りて今日まで實行を躊躇せられたることは當時政に接吉したる處や殺當政府の諸會議の議會なを開たす敢遂ふ諸々果に復活して來る十月十五日より練羽二重に對し一基九法の課稅を實行することゝ為せり

課稅の延期　傳聞当局者は本月十二日當業者各關係の請願に依り本月十五日より施行せらるゝ練羽二重に九法を課することを見合せたり

延期の時日　練羽二重課稅の延期は本月十二月末日までなりと云ふ

（十月十二日電報）

（十月十四日電報）

聖路易博覽會に於ける絹絲の世評

日本の生絲（ジャパンガゼット）

聖路易博覽會工業館に於ける日本生絲の出品は從來何れの博覽會にも出品されたるものと為すも最も完全なるものにして、普に翻及び繰糸の總ての必要なる品質及等級のみならず、驚動作と顧はせる製絲工場の完全なる一體を包含せり、又一點の間然す所なき小さき製絲場ありて以て新舊製絲器械の雛形を示せり、絹絲業者は皆日本は該工業中生絲の大生產者たるを知ると雖も生絲の差等を示すべき品質の異同を會得する者稀し、出品生絲を仔細に調査する時は日本の各生絲生產地は他地方になき品質の生絲を生產すると明かにして、此事たるや或特別なる目的の爲めに生絲を撰擇するに方り宜しく考察を要すべき所なり、横濱生絲檢査所の出品は上等にして其作業は勤作の範圍を示せる積き寫の寫眞を以て圖解せられ、必然生絲の學理的檢査に從事せる人々の賛歎すべきものなり、技術の點より之を見れは日本技術家の生產品は世界獨歩にして他の到底及ばざる所なりとす。

絹織及び生絲（シルクジョーナル抄譯）

聖路易博覽會が其陳列せる絹布の品質が優美なる點に於て又觀覽に便利なる點に於て從來の世界博覽會中未だ會て其の比を見ざる所なり、而して露見の飼育より絹布に製造せらるゝに至るまで絹絲業の全經過を實物の標本を以て表示せるは殊に趣味多しとなすと云ひ、

最初に米國に於ける「パターソン」に於ける各絹布製造會社の出品は美を競ひ艶を爭し觀聽を惑てしむることを詳說せり、此內二個の注意を拂ふべきものあり、そは。

「ペンジャミン、イーストウット」會社の絹織製造にして頗優美なる美人に書ける絹手巾を織出すべき最新式花機器械を有して運轉せしめつゝあり、又リボン製織機も能く運轉して徽章を織出せり

手製絹織の中、「ペンシルワニア」の「ヨーク」にあるヨーク絹織物製造會社の陳列せるものは慨美すべきものにして其「モネーバック」絹織は親覽者の何れも賞讃して指かざる所なり、單に製品のみならず運轉中の器械及「モネーバック」絹織を以て製せる三着の衣服をも陳列せり、觀客は絶えず群集して其

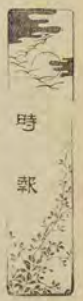
織絲に「モネーバック」と云ふ圖を織り出す裝置の巧妙なるに驚けりと記し。

更に是より外國の部に筆を移し、諸外國の陳列品が何れも人目を惹くに足りて多初なる中に日本の諸品は殊に著しく勇敢にして多初なる菊章國の人民が一方に危機存亡の戰爭に從事するに拘はらず、繁榮に進歩せるを證明するに充分なるものなり、

蓋し已に其活動をやめれば器械は次て生絲の製造を始め、實買せらるゝ美麗なる絹布を見或は之を觀ひ或は之を賞翫せる觀覽者は此等の柔なる繊絲が始めは桑葉中に纏繞する小蟲により製せられ次て人手を經て美麗なる織物となるを目擊し得べしと謂へり。

神州到處蠶業努力歌壓貢富強
蠶食三匂人勿驚昔中將調玉高圖

江藤貞四郎



時報

會務錄事

日本帝國著名製絲家名鑑の獻納

本會に於て米國聖路易博覽會を機とし、米國の當業者は素より全世界の生絲、織物に關係ある方面に送致し、如何に日本の蠶絲業は發達せるか、如何に日本には精良なる生絲を產出するかを知悉せしむる爲日本帝國著家名製絲家名鑑を調製し夫々配付せることは前に記述せし所なるが、之より先き更に美麗なる帙の製作をなし其出來を待て畏くも。　兩陛下の乙夜の覽に供ひ、　皇太子　同妃兩殿下及び常宮周宮殿下の玉覽を辱ふするに至れり、榮譽も亦大なりと謂ふべし、吾人蠶絲業に從ふ者益奮勵國富の計に資し、端洲の荒原に國威を發揚しつゝある軍人に報ゆることなからんを期せざるべからざるなり。

評議員會

十月五日午後二時より麹町區富士見町富士見軒に評議員會を開けり、此會日する者松平會頭、酒勾副會頭を始めとし左記

の十八名なりき。

伊藤富次郎　今西直次郎　石居一郎
八田逸也　林驛作　橋本重兵衛
本多岩次郎　星野長太郎　吉池慶正
高木三郎　土屋泰　角田喜右作
南條吉左衛門　永井米藏　佐野安太郎
北村七郎　鷲藤章　下田伊左衛門

議案は蠶絲業上に關する左記重要の三問題なりとす。

第一、里昂蠶絲商組合よりの照會に係る生絲の缺點矯正の件

里昂蠶絲商組合より本邦輸入生絲に關し缺點を指摘し之が矯正策を要求し來れることは本會々報第百四十七號（本年八月分）に掲載し參考に供せし所なり然るに今又農商務省農務局より右に付本會の意見を徵せらるに依て其各項に就き改良の方法を問ふ

（一）蟲害

里昂領事より其筋に送付し來れる蟲害生絲の標本中に蠶在せし蛻皮を東京蠶業講習所に於て調査せられし所に依れば「カツギ」蟲ならんと云ふ該蟲を豫防驅除するの方法

（二）二本場

二本場は再繰上に困難を與へ損害を被らしむること勝からず之を矯正するの方法

（三）練減

練減の多きも需用者をして不利を被らしむる勝からす之を減少するの方法

第二、前項を實行する手段及農商務省農務局並に里昂蠶絲商組合へ回答の件

前項の改良方法を實行せしむるには如何なる手段を採るべきや

農商務省農務局並に里昂蠶絲組合には前項改良の方法及其採りたる實行の手段を記載し回答せんとす

第三、米、伊、備、瑞、獨五ヶ國の絹業團體に本邦製絲家の商標帖を送付し置き生絲缺點に關する忠告を要望するの件

右に關し吉池幹事逐一説明し、更に練減に就ては目下研究の任に當れる東京蠶業講習所技師農學士中村雅次郎氏、蟲害に就ては同農學士林驛作氏を煩はし研究の經過を聽取したり、是より角田、八田、伊藤、高木、今西諸氏の議論ありしが、結局右は重要問題なるを以て特別委員を設けて審議すべしと云ふ角田氏の動議可決し、委員の選定は會頭に一任することゝなれり、第三問題に就ては本會の經濟の許す範圍内に於て施行するを可とすと云ふ説に歸着し是に要する豫算は次の通常會に提出するとに決せり、此に於て余々會議と閉ぢたり、

缺點生絲調査委員

伊藤富次郎　農學士　今西直次郎
今井五介　農學士　林驛作
角田喜右作　農學士　中村雅次郎
安西德兵衛

役員及び技藝委員の派遣

九月廿五日下野支會に於て大集會を開催する趣を以て技藝委員の派遣を請求せるにより技藝委員土屋泰氏を、同月廿七日西多摩支會に於て第三回品評會褒賞授與式を挙行するに付會頭代理として幹事吉池慶正氏を、十月八日より三日間滋賀川島勝次郎氏を、十月十三日より三日間島根支會に於て品評會を開設するに付審査委員長として技藝委員石渡繁鳳氏を、前記の滋賀、島根、山口の三支會品評會褒賞授與式に會頭代理として參事紫藤章氏を派遣したり、

會員靜動

本年九月中本會に入會せられし者左の如し

○特別會員

東京	川島忠之助	下田菊次郎
同	片岡謙	小室武平
新潟	小布施謙次郎	町田友吉
秋田	小西文之進	石田與三郎
		平岡寶
		下田代次郎
		田中龜之助
		伊津野雄四郎
		富永藤八
		成松新三
		赤星巖
		久留須傳次郎
		鮫島茂
		九十六名

○通常會員

東京	辻龜之助	宮崎
同	吉田信太郎	宮田孝之助
同	田村芳太郎	秋永榮次
同	古屋藤三郎	鐵田智
同	森田直太郎	伊津野雄四郎
同	遠藤孫三郎	富永藤八
同	横田碧	成松新三
大分	松井敬太	赤星巖
同	伊東ヒサ	久留須傳次郎
同	石川友市	鮫島茂
同	河野幸平	計
同	石川忠次郎	九十六名
同	芝尾直人	

右の内にて川島片岡の二氏は吉池慶正氏。小布施氏は林蘭作氏。小西氏は植木定静氏、吉田、田村森田、下田(菊次郎)、小室、町田、石田、平岡、下田(代次郎)田中(龜之助)其野の十一氏は下田伊左衛門氏。田中(憲逸)、川村、大槻の三氏は京都支會。安西、渡邊の二氏は高橋元助氏。小竹氏は今西直次郎氏。飯塚氏は折茂佳平氏。小澤、大久保、豊島、横田、鮫島の五氏は二宮彌松氏。岩間氏及下三氏は山梨支會、田中(惣兵衛)氏以下七氏は滋賀支會。青木氏は祭井稔正氏。新里氏以下二氏は片岡秀之助氏。宮塚氏は清藤孝太郎氏。金氏以下十氏は谷田部七五郎氏。赤沼氏は犬塚嘉太郎氏。安部氏は溝口忠次郎氏。廣本氏は井口淑氏。原田氏は木村幸三氏。松井氏以下八氏は立野貫一氏。簑田氏は貞方嘉吉郎氏。伊津野氏以下三氏は林良太郎氏。久留須氏は村上安嘉氏鶴も紹介せられ。辻、小雲、小川、上村、飯田、大瀧、宮田(榮次)、高木、古口、小林、村松、若松、佐々木、八巻、椋、吉岡、工藤、遠藤、宮田(孝之助)、秋永、の二十一氏は各自に申込まれたり。又同月中死亡せられし者左の如し

○通常會員

埼玉	木村佐次平	宮城
大分	古川四郎	計

大泉惣太夫 三名

本會々員現在數(三十七年九月末日調)

七千四百八十九名

内譯

名譽會員	二十七名
特別會員	三百二名
通常會員	七千百六十名

西多摩支會第二回品評會

西多摩支會に於て第二回品評會を九月二十五日より同二十八日に至る四日間東京府西多摩郡青梅町に開設せり、出品の範圍は一府十四縣に亘り、春蠶種八十七點、秋蠶種三十八點、春蠶繭百三十六點、秋蠶繭四十三點、生絲十點合計三百十四點あり其他數多の參考品ありたり、同二十七日褒賞授與式を擧行し、本會より會頭代理として吉池幹事臨場し、東京府より

島根	安部常助	大分
廣島	廣本三右衛門	同
山口	原田寛治	同
和歌山	豊島泰三	宮崎
德島	武藤要藏	同
同	工藤虎吉	熊本
同	遠藤孫三郎	同
高知	横田碧	同
大分	松井敬太	同
同	伊東ヒサ	同
同	石川友市	鹿兒島
同	河野幸平	同
同	石川忠次郎	計
同	芝尾直人	九十六名

帶刀寅吉
西岡幸三郎
衛藤忠藏
宮田孝之助
秋永榮次
鐵田智
伊津野雄四郎
富永藤八
成松新三
赤星巖
久留須傳次郎
鮫島茂
計
九十六名

下田菊次郎
小室武平
町田友吉
石田與三郎
平岡寶
下田代次郎
田中龜之助
伊津野雄四郎
富永藤八
成松新三
赤星巖
久留須傳次郎
鮫島茂
計
九十六名

神奈川 小川正雄
同 安西德兵衛
同 渡邊文七
同 小竹政治
埼玉 上村辨次郎
同 其野森太郎
同 飯塚英男
同 小澤正誼
千葉 飯田德時
茨城 大瀧明
栃木 宮田榮次
同 高木房治
同 古口常次
静岡 小林彌藏
同 村松熊太郎
同 若松森平
山梨 岩間匡
同 北浦治策
同 早川利弐
同 鈴木種甫
滋賀 田中惣兵衛
同 柴田伊三五郎
同 中島宅藏
同 私立模範蠶種製造場
同 宮川增次郎
滋賀 改進社
同 太田彦太郎
同 國友英吉
岐阜 青木緑
長野 飯塚與吉
同 大久保定次郎
同 佐々木都治
同 八巻恒次郎
同 岩手 新里常吉
同 村田良藏
同 後藤平藏
同 富塚定治
同 金要助
同 秋元富藏
同 岡山運藏
同 武石誠一郎
同 成田元俊
同 千葉慶五郎
同 宮田三郎
同 扇田製絲株式會社
同 西島市五郎
同 菲原賴吉
同 田中政太郎
同 赤沼龜夫
同 熊治郎
島根 椋

もは知事代理として第四課長久保善三郎氏、青梅警察署長、同秘務署長、其の他府會議員、郡會議員、町村長、蠶業新報記者、出品人等なり、今中告文、式辭、祝辭等を乗くれば左の如し。

申告文

大日本蠶絲會四多摩支會第二品評會開設に當り不肖五郎書生蠶長の重任を荷び無誠なる書生蠶業諸君の厚意に依り無事に所定を終了し拙に賞賜授與の式を擧るに至りたるは我も光榮とする所なり

抑今回の出品員域は一府十四縣にして蠶種百二十五圓百七十九本蠶百七十二に達せり

出品全部を合するとは優に百十有餘點にして前に其儲蓄の結果縷述すべきの蠶種六十三圓七十九本絲五合百四十七點を提出せり之を前回に比するに點数に於て劣れるものあるは時の影響亦北海道の不作の結果にして一歩を進めたるの傾向あり然りと雖も蠶種産額を通じて僅かに百有餘點中名稱の異るもの三十三の多きを見る其間殷なる種類を知るべし試に今左に出品の概評を下さん

蠶種に在りては秋蠶に於て殷盛の欲を明示すと雖も病毒今に根絶し至らざるは遺憾とする所なり加之徒らに出品の雲集を美にせんと欲する出品の多きを見るは蠶種の製絲を美にせんと欲するものの為り是れ惜むべき愛なりとす

蠶は養品に乏しからず殊に横綿の製絲に適するもの多き占めたるは秋蠶の進歩顕著なるものある事は欣ぶべきの現象なり然れども中には蠶繭は良大に過き於は小に失するの傾あるものあるのみならず製綿に不其のものあり殺繭乾蠶に使用せざるものあり故其上荷一段の奮勵を要す

生絲には見るに足るものなきに渉ずと雖も絲束賞典に供せらるべきものあり特に横束に細太の差と割合の少からざる事は改良すべきの要點なりとす

明治三十七年九月二十七日

書生蠶長兼東京府技手　生力五郎

受賞人名

蠶種	一等	宮城縣	伊具郡福岡村
同		同	宮城郡
秋蠶種		長野縣	諏訪郡下諏訪町
春蠶繭		東京府	西多摩郡西多摩村
秋蠶繭		東京府	西多摩郡西多摩村
蠶種	二等	東京府	西多摩郡西多摩村
秋蠶種		東京府	西多摩郡西多摩村
生絲		東京府	東多摩郡小河内村
春蠶繭	二等	東京府	東多摩郡日野町
同		同	同
秋蠶種		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
生絲	二等	同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同		同	同
同

同　長野縣　須坂郡信濃下村
同　滋賀縣　阪田郡神田村
同　滋賀縣　東浅井郡竹生村
同　山形縣　東村山郡山邊村
同　東京府　西多摩郡福生村
同　東京府　西多摩郡福生村
同　栃木縣　下都賀郡壬生村
同　東京府　北多摩郡田無村
同　山形縣　最上郡
同　東京府　西多摩郡福生村
同　東京府　西多摩郡福生村
同　東京府　北多摩郡大神村
同　東京府　南多摩郡多摩村
同　東京府　東村山郡大寺村
同　山形縣　最上郡
同　東京府　西多摩郡福生村
同　東京府　西多摩郡福生村
同　東京府　東京府
同　東京府　東京府
同　東京府　東京府

議長　渡邊亮八
副議長　岡本芳男
議員　渡邊亮八　岡本芳男　堀井要作　大橋代藏　茂木五十郎　田原益　宇加地太十郎　關根定吉　田中唐吉　西石榮吉　田中唐吉　渡邊亮　齋藤道太郎　内田文四郎

蠶桑雜觀

松平會頭歡迎會

滿洲の荒原、物海漫頭に暴露の軍を壓撰し國威を宣揚しつゝある者は忠勇無双なる陸海軍なり、米國の都會、世界の博覽會に國華を標爛たらしめつゝある者は精巧にして牙籌に長しなる實業軍なり此實業軍の總指令官として松平本會々頭は米國に駐在せられ測量遺算なく、愈成功を告げ勝利を得るを認め、無事歸朝せられたるを以て、十月五日午後五時より東京市麹町區富士見町富士見軒に歡迎會を開く、此日天此盛會を妨みたりけん、風伯雨師頻に至り強暴を逞ふせるも既定の時刻には或は長野より山梨より、或は群馬より福島より續々として來會せり、此に於て酒匂副會頭の開會の挨拶あり、松平會頭は起て約一時間牢の博覽會談を試みられ、其講話は本誌論業欄に收む）其講話終るや、宴會に移りり、宴席半にして酒匂副會頭は再び起て會頭の一大成功を告げ千里の波濤を侵し無事歸朝せられたるを壽ふく爲、祝盃を舉げることを國られ熱首之に和せり、松平會頭も再び米國蠶絲業の所見を述へ警告を與へらる、拍手雷の如く起る、是より或は戰爭談に或は博覽會談に興長く主客才二分の歡を盡せり、此時浴賀島根の其後議長より指名せし幹事左の如し

今井保一郎　青木寛　齋藤道太郎
鈴木勢次郎　渡邊亮　内田文四郎
代水金太郎

山梨支會總集會

大日本蠶絲會及び大日本農會山梨支會の總集會は十月一日山梨縣會議事堂に於て開會せり、參會者は約二百五十名にて八田逸也氏開會の挨拶に次ぎ、蠶絲會支會は幹事今井保一郎氏より會務の報告あり、農會は書記山本總太郎氏より同じく報告あり、役員の選擧に移るや齋藤道太郎氏は起つて八田逸也氏の重任を希望する旨を演べ尙幹事は八田氏の指名に一任すべき旨を述ぶるや、同氏は此れに對して懇切に辭任の止むを得ざる次第を答へ、且つ他に有爲の適任者を推薦あらんことを述べ茲に於て後任者の人選となり、甲是乙非容易に決定を見ざるを以て瀧口喜遊氏より協議員五名を撰み其人選方を一任すべしとの說を提出するや滿場之に贊成し、議長より青木寛、齋藤道太郎、淺川定六、古屋久昌、古屋正の五氏を指名し、協議員は別室に移りて相談したる後支會長は來年二月開會の春季總會まで其選擧を延期することに決し、之れを議場に報告したるに此れ又滿場の贊成を得、次に幹事は議長より慣重熟考の上追て指名することに宣告あり、此れにて役員の選擧を終り次に瀧口喜藏氏は兩支會を代表して八田氏が多年兩會の爲め提唱誘掖せられたるの功勞を謝し、併せて總會の決議を經て感謝狀を贈呈せんことを發議したるに滿場は拍手して之に贊し、向感謝狀起草委員二名の指名を瀧口氏に委任されたるを以て氏は直に蠶絲會支會より今井保一郎氏を農會支會より淺川定六氏を指名推薦し散會し夫より望仙閣に於て八田氏の慰勞會を開けり。

兩支會は遙に祝電を寄せて共に會頭歸朝の喜を分てり、今來會者の姓名を記せば左の如し。

東京府　井上長太郎　石川鐵太郎　岩淵平介　林鶴作　本多岩次郎　星野長太郎　吉池慶正　横田長太郎　高崎治平　田村芳太郎　土屋泰　永井米藏　中村雅次郎　有働良夫　町田懷　次山篤太郎　酒匂常明　下田伊左衛門　鹽田建男　鈴木清吉　杉田金之助　小池市松　遠谷典二　鈴木慶福　神奈川縣　伊藤宮太郎　今西直次郎　橋本重兵衛　高木三郎　安西鐵兵衛　佐野安太郎　北村七郎　榮藤章　埼玉縣　沼江種三　熊谷興業株式會社　佐藤國藏　荻原鐵太郎　群馬縣　角田喜右衛門　佐藤榮平　岩田太郎　茨城縣　足立吏次郎　三重縣　長野縣　今井五介　岡山縣　福島縣　石井一郎　石田孫太郎　岡山縣　岡山縣　岡山縣

古來より森林の害蟲として忌避せられた栗蟲蘭は廢物利用の名稱の下に輸出物として海外市場に歡迎せらるゝに至り、現今壹ケ年の輸出は約四十萬圓以上に上れり、栃木縣那須郡野村大字三島杏掛角田平氏は三島子爵角田海軍中將等と謀り、昨三十六年より栗繭製造に從事し其の產額甚多なりしが、本年は尚ほ一層業務を擴張し賣本金五千圓の一會社を組織し目下工女百名以上にて製繭に從事しつゝあり、而して原料蘭は其の地は栗樹多くして所領尤も多く、同縣下は勿論長野縣、群馬縣、茨城縣、福島縣、宮城縣、岩手縣等より續々入荷あり日々の製出百斤以上に上ると云ふ、廣物なる栗蟲蘭も化學的作用に依り海外に歡迎せらる國家のため誠に賀すべきなり。

（栃木縣　杏掛　泉通信）

蠶業上の美擧

島根縣仁多郡三成村に於ては婦人蠶業奬勵會主動となり、奉公の精神を以て親ら養蠶をなし、夫により得たる金を恤兵部に寄附するの趣旨を以て郡內の有志婦人に謀りしに、熱誠其擧を贊同せる人員三百八十三名、義捐金額九拾壹圓餘の多きに達せりと云ふ、地方婦人界の好模範なりと而ふべし、今婦人蠶業奬勵會長なる片野喜多子の發せる趣意書を得たれば左に掲げんと。

水年二月このかた世界にたくひもまれなる強雪を相手として寒かさふるにいたりて、ひるはいとはしき事なれどもまた仕ごとの出來得ぬことなれば桑園の盛焚男は萬の國に比ひなき忠男を與へ給へるに、雪降を偽ついあるは單寒、陸下の御慈感によりたることは云ふまでもなき事にこれとまた世人注かれる波の出なす勢においしよりて面嚴と降るうきまに飛びくる丸な胃し其身を埋め

組合名稱	組合事務所位置	組合地區	設置の年月日	組織組長
新潟縣西浦原郡蠶病消毒組合	群馬郡高岡村大字古新田字中村、同郡高岡村大字高岡字中村、同郡高岡村大字高岡字中村、同郡高岡村大字高岡

蠶海涓滴

▲此度こそ は日本兵を木羽微塵とし旅順を救援すと堂々宣言し、三十萬の大兵を率て南下せる黒鳩、忽ち撃破せられ、自分の顔は青鳩、露帝は赤鳩。

▲歐洲第一 の强兵と稱せられし歐露の大軍を撃退し、死傷數萬、鹵獲品山積、致命傷を負はせし日本軍の勇武世界第一、爲に匹儔を見ず嗚呼壯なる哉。

▲日本軍は 一以て十に當り旬日糧食を缺して戰闘搦種に跳驅叱咤し、血と肉を以て大勝を贏ひ得たるを顧みれば、吾人軍隊に感謝する辭なきに苦む。

▲豫定の退 却を以て名譽の榮稱を擔ひたる黒鳩將軍、此度の落ち行く先は奉天か、哈爾賓か、莫斯科か、將た彼徳斯堡か、歸路の長き丈失れ丈名譽。

▲の價値を 高からしめん、吾人は將軍の爲に之を賀す、更に一層の名譽を買はんと欲せば十萬僚士に向て退却し、マカロフと握手するを上策となす。

▲米國に輸 入の蠶絲近年伊佛減退し、支那更に增さず、殆ど日本の獨舞臺なり、米國の日本を庇ふ一に何ぞ厚きや、吾人は其知遇に酬ざるべからず。

▲知遇に酬 るの道は吾人數々之を縷述して蠶海涓滴に饒らし筆端既に禿せるもの數本、其道既に立つ多くを謂はざるべし、唯夫れ實行の二字にあり。

▲米國の養 蠶果して物になるや否やは吾人之を知らず、然れども養蠶を學校の教科書中に編入し、兒童の腦裡に之を樹植せる用意に至ては實に敬服。

▲本邦の如 く養蠶を主要の產業となし、生絲を以て富源の第一となす國に於ては教科書中に之を記載するのみならず、第二の國民をして悉く之が實

▲習をなさ しめ、五千萬人中一人の蠶絲業の事を知ざる者なからしめ、蠶絲をして日本の特有物產たらしむるを要す、當局者の一番猛省を煩すは此處。

▲本年は絲 價低廉なるにも拘らず、市場堀々、毎日一千個以上二千個の生絲が賣了し、生產者をして巫比須顔を僭らしむるは秋蠶の豐作に依れると。

▲秋蠶の貢 獻する所亦多大、今にして秋蠶撲滅說を唱るは天保式の考案のみ、非文明的の枯論のみ、唯桑園の繁茂を圖る刻下の急、又た自ら道あり。

新刊批評

野生絹絲蟲論

農學士 須田金之助著
東京 裳華房發行

吾人の今日探て以て本邦唯一の財源となす蠶絲の生產者たる蠶兒も、素と野生の進化したるものなり、柞蠶、天蠶今や半ば野生の境域より進みつゝ、吾人に一種絹服の資を寄與せんとす、人生の最等絹絲蟲より受くる所の利益蓋し尠少ならず、然れとも吾人が未知の方面に於て幾多の絹絲蟲人生の利用を待つやも測るべからず、故に此方面に對て搜索の步み進め發見の先驅をなすを快とする所なり、

又苟も蠶學に屬する者、家蠶と同族若くは異種に於て絹絲を生產する如何なる蟲類あるかの一般を知るは、比較研究上趣味多きことなりと謂ふべし、然るに從來の著者に飽くと雖も、野生絹絲蟲の記載にありては殆ど遺貝のものを求むべからず、須田農學士之を慨し野生絹絲蟲論を著す、一讀吾人が前述の要求を充たすを喜ぶ、印刷鮮明、體裁も可なり、日下書肆は滔々として際物的の出版即ち職爭熱に浮かされ居る時に當り、眞面目なる學術的の著書を刊行せる書肆の勞を多しと謂ふべき歟。(定價金九拾錢)

群馬縣蠶絲業現況調査書

群馬縣發行

蠶絲業の獎勵如何なる方面に對て步を進むべきや、若し夫れ根本的の調査をなさずして敢て之を奬きんか、常に左抵右觸其方針の浮動するのみならず、往々無益となり有害に終ることあり、群馬縣に於ては玆に觀る處あり、前に蠶絲業調査會を起し蠶絲業の將來を調査して印刷となし、今又現況の調査を輯別に附せり、此調査は啻に同縣蠶業奬勵の方針を確定せるものあるのみならず、他府縣も亦採て以て模範とする多かるべきを信ず、菊版紙數五百餘頁の大冊子にして色刷石版九葉を添付す、吾人は同調查會の勞を多しとなす。

明治三十六年生絲檢査成績報告
同附錄横濱生絲賣買實況調査鈔

生絲檢查所

其名の示すが如く生絲檢查所に於て檢査せられし成績にして、之を按げば日本の生絲は如何なる方面に歩みつゝあるか、又其賣買實況調査は生絲貿易港として世界のオーソリテーたる横濱は生絲の貿易上如何なる発象を呈せるかを知るを得べし。

Semi-annual Statistics
The American silk trade

米國絹業協會にて編纂せる米國絹絲貿易半年報にして、如何に米國は生絲を消費しつゝあるか、其進步の速力一日際然趣味又寡からず、他日之を譯載し一覽に供すべし。

寄贈書目

安蘇郡農會報	第三號	服部昌松君
京都府農會報	臨時增刊	京都府農會
明治三十六年生絲檢査成績報告		生絲檢査所
同上附錄横濱生絲賣買實況調査鈔		同
群馬縣蠶絲業現況調査書		群馬縣內務部
第七回定期總集會報告		岐阜縣郡上郡蠶業談話會
學士會月報	第百九十九號	學士會
大日本農會報	第二百七十八號	大日本農會
大日本山林會報	第二百六十二號	大日本山林會
北海道農會報	第四十五號	北海道農會
島根縣農會報	第七十七號	島根縣農會
滋賀縣農會報	第三十號	滋賀縣農會
岐阜縣農會報	第百四十號	岐阜縣農會
埼玉縣農會報	第四十五號	埼玉縣農會
京都府農會報	第百四十六號	京都府農會
廣島縣農會報	第百十一號	廣島縣農會
山口縣農會報	第十一號	山口縣農會
德島縣農會報	第二十一號	德島縣農會
新潟縣農會報	第二十一號	新潟縣農會
山形縣農會報	第九十四號	山形縣農會
山梨縣農會報	第四十三號	山梨縣農會
岩手縣農會報	第三十五號	岩手縣農會
實業雜誌	第百十一號	福島縣農會
中央農事報	第五十四號	全國農事會
兵庫縣蠶業會報	第四十一號	兵庫縣蠶業會
新潟縣蠶絲會報	第九號 第十號	新潟縣蠶絲會
植物學雜誌	第二百十二號	東京植物學會
蠶業新報	第百三十七號	蠶業新報社
東洋學藝雜誌	第二百七十六號	東京學士會院
染織時報	第二十五號	大日本織物協會
教育公報	第二百八十七號	帝國教育會
工業化學雜誌	第八十號	工業化學會
大日本私立衞生會雜誌	第二百五十六號	大日本私立衞生會
東京教育雜誌	第百七十七號	東京府教育會
氣象集誌	二十三年 第九號	大日本氣象學會
工業雜誌	第二百九十九號 第三百號	工業雜誌社
統計集誌	第二百八十二號	東京統計協會
通商彙纂	自第五十號 至第五十三號	外務省通商局
圖書月報	第二卷第十二號	東京書籍商組合
農事雜報	第七十六號	農事雜誌社
興農雜誌	第百二十二號	東京興農園
農業教育	第三十九號	東京農業教育研究會
京濱實業新報	第二十七號 第二十八號	京濱實業新報社
扶桑館報	第十七號	扶桑館
南海蠶報	第二十九號	南海蠶業同志會
產業新報	第十五號	產業園
大農國	第四十號	帝國農家一致協會
土佐蠶絲時報	第二十二號	土佐蠶絲同志會
工手の母	自第二百三號 至第二百六號	工手の母新聞社

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES BRÛTES PARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(Septembre 1904.)

	Report.	Brought over.	Arrivé.	Arrived.	Vendu.	Sold.	Exporté.	Exported.	Tienwoy.	Sent back.	Ancerter.	Brought forward.
	Piéstures.	Piéstures.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.	Piéd.
Piéstures.	4,070	6,354	9,365	9,365	8,862	8,862			141	141	5,153	5,153
Zogurt.	1,435	1,435	2,498	2,498	2,833	2,833			14	14	1,196	1,196
Kakoshi.	560	560	1,714	1,714	1,628	1,628			11	11	635	635
Ochi-yadd.	60	60	119	119					25	25	153	153
Autres.					13,003	13,003	14,219	14,219	191	191	7,437	7,437
Total.	6,354	7,757	13,676	13,676	7,404	7,404	7,941	7,941	294	294	12,212	12,212
1903.	7,757		12,083									

第七號　國際蠶業社
第六十七號　京都府何鹿蠶業會
第九十五號　横濱商業會議所
第三十八號　北海道蠶業社
中外商業新報　尚絃社
第九月分　東京蠶業社
Bulletin Des Soies et Des Soieries. No. 1432-1435　Bibliotheca Japonica
Semi-Annual Statistics The American Silk Trade. Midsummer, 1904　Silk Association of America
野生蚕絲紡績　蠶學會

人事彙報

▲松平正直氏　本會々頭男爵松平正直氏は米國貿易博覽會に出張中の處海陸無恙歸朝相成たり。

▲芳賀權四郎氏　本會技藝委員なる生絲檢査所技師農學士芳賀權四郎氏は今回正六位に叙し陸軍歩兵中尉に任せられたり。

▲大林雄也氏　本會技藝委員なる農事試驗場技師大林雄也氏は今回正六位に叙せられたり。

▲石居一郎氏　本會技藝委員なる蠶業講習所技師石居一郎氏は今回正七位に叙せられたり。

▲大石明德氏　本會特別會員なる大藏省煙草專賣局技師大石明德氏は今回從七位に叙せられたり。

▲望月關馬氏　本會通常會員なる望月關馬氏は今回宮崎縣農事巡回教師に任せられ年俸六百圓下賜せられたり。

▲島田重太郎氏　本會特別會員なる島田重太郎氏は今回岐阜縣農事巡回教師に任せられたり。

▲尾澤琢郎氏　本會會員なる長野縣諏訪の尾澤琢郎氏は少壯製絲家として有爲の人物なるが、今回米國貿易博覽會視察を兼ね米國の機業及び生絲の狀況を視察するの目的を以て渡米の途に就かれたり。

▲小川八重氏　東京府東京市四谷區東信濃町小川八重氏は群馬縣に於ける製絲工女なるが、此程賞勵局より特例金圓を下賜せられたり。今其賞詞を掲くれは左の如し。

資性溫順齡十一歲ニシテ群馬縣前橋製絲業中澤嘉平ノ工女ニ傭ハレ爾來勤勉怠ラス會ヲ主家産ヲ耗盡シ尋テ屋主及其長男歿シ次男不治ノ症ニ罹ル等不幸ヲ重リ生計倍〻窮蹙ニ陷ルヤ自ラ家政ヲ擔任シ備錢ヲ受ケス艱苦ヲ厭ハス敝衣粗食ニ甘シ髮髮梳ラス風夜稼業ニ勤精シ厚ク老主婦ヲ扶養シ懇ロニ篤疾者ヲ看護シ薪炊漕濯ノ勞一身以テ之レニ當リ亟ニ自己ノ計ヲ樹ラス專誠竭力十七年一日ノ如シ洵ニ奇特トス依テ爲其賞金五拾圓下賜候事

交詢餘錄

○蚕霉のかびかた分興　著者が多年の實驗に鑽み研究の結果を平易に說述せる良書なり蚕の士は郵券貳錢封入の上申込れよ　長野縣東筑摩郡宗賀村　東明館蠶業部

○農蠶書講受　農蠶書籍同種誌御不用の御方は本所附屬農蠶事務總覽所へ讓與を乞ふ　熊本縣飽本郡山本村弘蔵社蠶業講習所長　細谷久一郎

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

Soie.					Prix moyen.				Standard Price.				Maximum du prix. Highest prices.			
Silk.																
ours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back	Exportée. Exported.	Filature. Hosoito. Extra. No. 1		Filature. Futoito Extra. No. 1		Zaguri. Rereels. Extra. No. 1		Kakesa. Orikayeshi. Extra. No. 1		Noms des filateurs Names of filatures.	Prix. Prices.
1	*Piculs.* 215	*Piculs.* 632	*Piculs.* 11	*Piculs.*	yen 900	yen 890	yen 900	yen 885	yen nom	yen 900	yen 870	yen 850	Shiroishiseishikwaisha.	930
2	300	336	5		"	"	"	"	"	"	"	"	Masakiseishijô.	910
3	297	516	6	2865	"	"	"	"	"	"	"	"	Kusanagisha.	925
4	318													
5	244	200			900	890	900	890	nom	900	880	860	Kusakaseishijô.	915
6	501	267		1018	"	"	"	"	"	"	"	"	Hakureisha.	915
7	314	567	11		"	"	"	"	"	"	"	"	Tenringawaseishijô.	935
8	682	737			910	900	910	900	"	920	"	"	Kansensha.	950
9	222	889	7		"	"	915	905	"	"	"	"	Nagaigumi.	920
10	240	718	11	57	"	"	913	"	"	"	"	"	Tenringawaseishijô.	945
11	542													
12	453	533	6	698	920	910	920	910	nom	920	880	860	Yajimagumi.	935
13	593	465	10		"	"	"	"	"	"	"	"	Kurickan.	925
14	504	494	26	3161	"	"	"	"	"	"	"	"	Kamasha.	935

15	513	336	16	813	"	"	"	"	935	925	885	865	Koriuken.	920
16	505	189	3		"	"	915	905	"	"	"	"	Nakamuraseishijô.	915
17	489	287	6		"	"	"	"	"	"	"	"	Shinshosha.	935
18	433													
19	515	98	17		920	910	920	910	935	925	880	860	Reisaisha.	935
20	504	218	8		"	"	915	905	"	"	875	855	Yamanashiseishikwaisha.	940
21	583	380	7		"	"	"	"	"	"	885	855	Goshikan.	925
22	483	694	14		"	"	910	900	"	"	872½	852½	Shieyôken.	935
23	593	217			"	"	"	"	"	"	870	850	Takagikan.	945
24	526	789			"	"	"	"	"	"	"	"	Usaisha.	935
25	318													
26	632	361		768	920	910	910	900	935	925	870	850	Higamikodonizukurisha.	925
27	514	715		1667	"	"	"	"	"	"	"	"	Yajimagumi.	945
28	537	857	8		"	"	"	"	"	"	"	"	Tsuyamaseishikwaisha.	930
29	614	955			"	"	920	910	"	"	875	855	Yawataseishikwaisha.	935
30	733	573	20	3272	"	"	"	"	"	"	"	"	Ashidaseishijô.	950
Total.	13.976	13.003	191	14.219										

1 yen vaut environ fr. 2,50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

COCOONS OF ANTHRAEA YAMAMAI AND ANTHRAEA PERMUJI. (SPRING)

	District.	No. of Silkworm raisers, or families engaged.	No. of Egg-cards hatched.	Quantity.				Value.				Value.		
				Cocoons.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons waste.
Cocoons of anthræa Yamamai.	Ibaraki-ken.	14	*kin.* 51	*koku.* 78	*koku.* 4	*koku.* 4	*koku.* 86	*yen.* 1,734	*yen.* 40	*yen.* 32	*yen.* 1,866	*yen.* 23	*yen.* 10	*yen.* 8
	Nagano-ken.	239	*shô* 240	*grain.* 1,747,500	*grain.* 445,000	*grain.* 680,000	*grain.* 2,872,530	6,116	890	680	7,686	*sen.* 35	*sen.* 20	*sen.* 10
Cocoons of anthræa permuji.	Nagano-ken.	373	522	5,707,200	1,070,000	1,385,000	8,162,200	13,127	1,284	693	15,104	23	12	5

(To be continued.)

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché au mois de Septemble 1904.

Comme continuation du mois précédent, notre marché a été très actif pendant les dix premiers jours, toutes les marchandises ont donné lieu à un contingent satisfaisant de transactions. Pendant la dizaine suivante, le marché a été un peu plus calme ; mais entrant dans la dernière dizaine, notre marché a repris un nouvel essor, les achats journaliers ont alimenté un bon courant d'affaires, on a vendu ournéllement de 1.000 à 2.4000 balles, et les prix ont éprouvé une excellente amélioration : *Shinshu* No. 1 a regagné le prix de yen 900. Au moment où nous écrivons ce bulletin, le prix de cet article est porté même à yen 925 et celui de *Zaguri* de *Nambu* à yen 940. On peut espérer encore une périodé d'activité et une fermeté soutenue.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant le mois de Septembre 1904.

RAW SILK MARKET.

RAW SILK MARKET OF YOKOHAMA.

As it had been at the end of the preceding month, the market in the first ten days of september last remained unchanged. The goods found a ready sale. In the middle ten days, the condition became dull for a while, but it was restored again as soon as the last ten days came. The number of bales amounted from 1.000 to 2.400 every day and the price, consequently, was up. In the case of Shiushiu filature "Ichiban," it was risen to 900 yen—even to 925 yen at the time of writing this sketch. The condition appears to be maintained at a stand-still provided the reelers do not hold out high price and obstruct the bargain.

SPRING COCOONS.

District.	No. of Silk-worm raisers, or families engaged.	No. of Egg cards hatched.	Quantity.					Value.					Average Value.			
			Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.
			koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	yen.	yen.	yen.	yen.	yen.	yen.	yen.	yen.	yen.
Tokyo-fu.	31,491	77,353	50,968	4,826	465	3,895	60,154	2,191,624	82,042	5,390	31,160	2,310,416	43	17	12	8
Kyoto-fu.	27,620	58,245	25,818	3,238	518	2,200	31,774	1,213,446	58,284	9,324	28,600	1,309,654	47	18	18	14
Osaka-fu.	3,755	2,838	1,561	180	48	173	1,962	73,367	3,240	288	2,505	79,400	47	18	6	15
Kanagawa-ken.	41,431	75,535	49,527	5,357	573	5,138	60,795	1,981,080	83,355	4,584	56,518	2,125,537	40	15	8	11
Hiyogo-ken.	40,333	64,105	33,621	2,943	217	3,187	39,968	1,412,082	52,974	2,604	38,244	1,503,904	42	18	12	12
Nagasaki-ken.	9,750	3,434	1,459	166	42	127	1,794	53,983	2,656	420	1,143	58,202	37	16	10	9
Niigata-ken.	45,550	68,512	31,701	3,885	575	3,034	39,195	1,489,947	77,700	8,050	36,408	1,612,105	47	20	14	12
Saitama-ken.	98,067	241,286	126,735	16,397	3,673	15,640	162,445	5,449,035	327,940	51,422	172,040	6,001,007	43	20	14	11
Gunma-ken.	81,883	203,254	130,404	15,372	3,417	15,751	165,144	6,128,988	327,912	34,170	220,514	6,710,684	47	21	10	14
Chiba-ken.	43,370	58,811	39,166	4,064	249	3,678	47,157	1,801,636	73,122	3,485	58,848	1,937,122	45	18	14	16
Ibaraki-ken.	48,907	91,556	48,716	6,056	450	6,526	61,748	1,948,640	90,840	4,500	97,890	2,141,870	40	15	10	15
Tochigi-ken.	18,588	35,373	25,913	2,590	1,455	2,861	32,819	1,140,172	41,440	21,825	28,610	1,232,047	44	46	15	10
Nara-ken.	9,394	9,898	5,654	656	79	539	6,928	260,084	11,808	948	7,546	280,386	46	18	12	14
Miye-ken.	45,144	43,761	25,197	3,144	415	3,050	31,806	1,285,047	53,448	5,395	64,050	1,407,940	51	17	13	21
Aichi-ken.	65,378	75,344	51,515	6,174	581	4,775	63,045	2,027,265	117,306	9,877	85,950	2,840,398	51	19	17	18
Shikinoka-ken.	54,845	65,660	46,903	5,644	496	4,895	57,938	2,392,053	95,948	4,464	63,635	2,556,100	51	17	9	13
Yamanashi-ken.	43,934	107,150	86,698	7,034	848	5,486	100,066	4,421,598	119,578	11,024	71,318	4,623,518	51	17	13	13
Shiga-ken.	30,672	51,539	24,359	2,606	1,888	2,445	31,298	1,096,155	46,908	24,544	34,230	1,201,837	45	18	13	14
Gifu-ken.	68,440	91,290	61,575	8,692	300	7,528	78,095	2,770,875	147,764	3,000	112,920	3,034,559	45	17	10	15
Nagano-ken.	107,318	213,405	123,132	15,985	11,904	12,473	162,694	6,525,996	319,700	166,570	224,514	7,233,770	53	20	15	18
Miyagi-ken.	26,960	66,348	32,803	3,904	365	2,864	40,116	1,578,864	71,892	5,110	37,232	1,693,098	48	18	14	13
Fukushima-ken.	60,210	152,192	76,661	8,935	4,627	5,473	95,695	3,449,745	205,505	69,405	49,257	3,773,917	45	23	15	9
Iwate-ken.	20,125	44,776	19,719	3,253	594	1,822	25,385	906,936	75,301	7,128	16,398	1,005,763	46	17	12	9
Aomori-ken.	3,339	4,863	2,171	311	145	95	2,722	91,182	6,220	2,175	1,330	100,907	42	20	15	14
Yamagata-ken.	38,739	105,561	57,538	8,045	1,752	4,301	71,636	2,819,362	136,765	26,280	47,311	3,029,718	49	17	15	11
Akita-ken.	13,603	20,918	10,240	1,725	330	632	12,927	481,280	36,225	5,610	7,584	530,699	47	21	17	12
Fukui-ken.	27,788	34,786	15,261	1,526	177	1,381	18,345	610,440	18,312	1,947	11,048	641,747	40	12	11	8
Ishikawa-ken.	20,622	23,204	10,587	1,233	121	1,135	13,076	487,002	19,728	1,089	7,945	515,764	46	16	9	7
Toyama-ken.	14,626	16,971	7,552	775	465	658	9,451	234,736	16,275	5,592	7,896	354,499	43	21	12	12
Tottori-ken.	18,934	21,182	13,021	1,804	215	1,783	16,823	651,050	25,256	3,010	35,660	714,976	50	14	14	20
Shimane-ken.	30,679	30,127	14,077	1,716	285	1,965	18,044	661,619	24,024	3,146	31,440	720,229	47	14	11	16
Okayama-ken.	11,268	11,588	7,132	886	97	863	8,978	363,732	15,062	1,455	12,945	393,194	51	17	15	15
Hiroshima-ken.	7,459	7,271	4,682	409	93	430	5,704	224,736	7,984	1,116	6,020	239,856	48	16	12	14
Yamaguchi-ken.	11,969	7,186	4,933	487	61	343	5,824	217,052	8,766	854	6,974	233,646	41	18	14	18
Wakayama-ken.	10,689	12,032	6,347	898	127	624	7,996	342,738	15,266	1,778	12,480	372,262	54	17	14	20
Tokushima-ken.	17,284	9,905	5,879	682	99	611	7,271	317,466	15,688	1,287	11,609	346,048	54	23	13	19
Kagawa-ken.	4,000	2,252	1,578	160	14	134	1,886	77,322	2,880	168	2,010	82,380	49	18	12	15
Ehime-ken.	18,580	15,353	9,871	1,202	143	1,078	12,294	513,292	21,636	1,716	16,170	552,811	52	18	12	15
Kochi-ken.	38,372	24,408	13,086	1,376	216	747	15,429	667,386	20,640	2,162	8,217	698,403	51	15	10	11
Fukuoka-ken.	13,773	8,377	4,785	486	160	293	5,724	210,540	8,202	2,080	3,516	224,338	44	17	13	12
Oita-ken.	23,224	15,760	8,920	1,191	199	1,057	11,367	410,320	19,056	2,388	11,627	443,391	46	16	12	11
Saga-ken.	23,766	6,245	3,228	379	112	223	3,942	142,032	10,612	1,232	2,007	155,883	44	28	11	9
Kumamoto-ken.	30,778	22,020	15,993	1,741	502	720	18,962	895,608	31,446	6,525	9,360	942,940	56	18	13	13
Miyazaki-ken.	15,776	12,137	8,018	1,003	118	543	9,682	360,810	16,048	1,419	8,145	386,419	45	16	12	15
Kagoshima-ken.	20,690	11,075	7,089	869	137	722	8,817	311,916	13,904	1,644	8,664	336,128	44	16	12	12
Okinawa-ken.	785	298	87	47	10	11	155	2,175	705	100	88	3,068	25	15	10	8
Hokkaido.	5,464	6,716	3,272	415	408	263	4,358	137,424	6,640	4,488	3,682	152,234	42	16	11	14
Total.	1,445,312	2,421,900	1,355,239	161,053	38,867	134,172	1,689,431	63,520,408	2,983,191	532,265	1,813,348	68,849,912	47	19	14	14

TOTAL OF COCOONS.

District.	No. of Egg-cards hatched.	Quantity.					Value.					Average Value.			
		Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.	Total.	Cocoons.	Cocoons double.	Cocoons pierced.	Cocoons waste.
		koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	yen	yen	yen	yen	yen	yen.	yen.	yen.	yen.
Tokyo-fu.	113,434	68,327	7,351	627	5,434	81,739	2,678,221	124,809	7,362	41,931	2,852,425	39	17	12	8
Kyoto-fu.	84,409	32,348	4,492	543	2,748	40,131	1,447,821	77,381	9,580	32,433	1,567,218	45	17	18	12
Osaka-fu.	4,318	2,160	261	64	227	2,712	92,327	4,406	448	3,238	100,418	43	17	7	14
Kanagawa-ken.	107,019	66,327	7,303	583	6,542	80,755	2,630,865	117,804	4,649	70,258	2,823,576	40	16	8	11
Hiyogo-ken.	76,256	37,518	3,379	245	3,576	44,718	1,536,434	59,480	2,856	40,578	1,639,352	41	18	12	11
Nagasaki-ken.	4,647	2,140	260	105	176	2,681	75,299	4,254	924	1,486	81,963	35	16	9	8
Niigata-ken.	89,137	39,136	4,796	617	3,690	48,239	1,806,461	96,948	8,589	44,306	1,956,304	46	20	14	12
Saitama-ken.	342,932	169,293	23,022	3,969	19,233	215,508	7,211,634	439,271	54,181	213,800	7,918,883	43	19	14	11
Gumma-ken.	423,948	171,508	22,757	3,464	20,450	218,179	7,807,328	470,100	34,771	281,117	8,593,316	46	21	10	14
Chiba-ken.	92,740	56,768	6,382	389	5,021	68,540	2,546,101	112,180	4,724	74,241	2,737,251	45	18	13	15
Ibaraki-ken.	144,350	77,487	9,748	616	9,256	97,107	3,135,534	144,996	5,994	130,200	3,416,724	40	15	10	14
Tochigi-ken.	50,973	37,369	4,223	1,658	4,027	47,217	1,558,760	64,202	23,663	39,666	1,686,381	42	15	14	10
Nara-ken.	15,471	8,227	1,099	107	715	10,148	351,133	18,453	1,176	10,022	380,797	43	17	11	14
Miye-ken.	74,920	39,012	5,250	515	4,322	49,099	1,778,085	88,016	6,963	80,334	1,952,798	45	17	12	19
Aichi-ken.	107,016	99,333	13,408	1,110	9,022	122,873	4,659,410	258,646	16,456	158,149	5,092,661	47	19	15	18
Shidzuoka-ken.	104,069	63,604	8,286	793	6,303	78,986	3,093,495	143,504	7,856	80,531	3,325,386	49	17	10	13
Yamanashi-ken.	162,059	116,267	10,709	1,314	7,905	135,895	5,687,569	189,403	16,226	93,865	5,992,063	49	18	12	13
Shiga-ken.	105,736	53,237	6,769	2,112	4,714	66,832	2,173,689	117,184	26,998	61,036	2,378,907	41	17	13	13
Gifu-ken.	187,801	103,336	15,519	1,172	11,741	131,768	4,403,829	260,650	12,672	167,689	4,933,840	44	17	11	15
Nagano-ken.	573,665	331,299	45,639	16,281	28,828	422,027	16,424,490	971,304	219,336	462,006	18,077,226	50	21	13	16
Miyagi-ken.	83,537	41,171	6,585	444	3,969	51,169	1,935,580	99,918	6,195	49,387	2,091,080	47	18	14	12
Fukushima-ken.	259,427	140,199	17,380	6,205	8,934	173,718	5,750,504	349,070	87,345	73,484	4,260,403	41	20	14	8
Iwate-ken.	51,355	22,392	3,790	684	2,037	28,903	1,010,038	83,252	7,848	18,419	1,119,557	45	22	11	9
Aomori-ken.	5,543	2,487	361	151	122	3,121	103,842	7,970	2,247	1,629	114,788	42	20	15	13
Yamagata-ken.	119,779	64,204	9,151	1,807	4,724	79,886	3,111,139	154,757	20,084	51,351	3,345,251	48	17	15	11
Akita-ken.	21,981	10,904	1,800	338	652	13,394	495,886	37,512	5,714	7,664	546,776	47	21	17	12
Fukui-ken.	63,426	22,936	2,575	255	2,107	27,872	874,988	42,367	2,571	24,682	941,608	38	16	10	12
Ishikawa-ken.	46,701	19,808	2,381	170	1,721	24,140	841,719	35,855	1,495	12,147	891,217	42	15	9	7
Toyama-ken.	26,141	10,370	1,128	494	919	12,911	429,683	22,385	5,939	10,747	468,145	41	20	12	12
Tottori-ken.	32,341	18,782	2,600	235	2,422	24,039	836,159	35,963	3,370	46,801	921,293	48	14	13	19
Shimane-ken.	30,632	19,701	2,300	353	2,398	24,752	887,031	32,036	4,036	37,389	960,492	45	14	11	16
Okayama-ken.	17,893	11,499	1,594	137	1,355	14,585	529,682	25,199	1,735	19,539	576,155	46	16	13	14
Hiroshima-ken.	9,383	5,906	648	115	516	7,185	272,476	10,026	1,328	6,880	290,710	46	15	12	13
Yamaguchi-ken.	12,995	8,582	770	89	509	9,941	345,854	13,668	1,149	9,034	369,705	40	18	13	18
Wakayama-ken.	16,873	8,574	1,268	137	862	10,841	453,689	22,192	1,896	17,584	493,351	53	18	14	20
Tokushima-ken.	20,720	9,341	1,107	181	1,029	11,658	464,055	24,532	2,264	17,697	508,548	50	22	13	17
Kagawa-ken.	2,916	1,897	191	17	160	2,265	89,388	3,353	198	2,332	95,271	47	18	12	15
Ehime-ken.	25,007	16,450	1,976	184	1,633	20,243	802,174	31,556	2,100	23,986	862,816	49	18	11	15
Kochi-ken.	47,345	21,747	2,371	293	1,196	25,707	1,048,470	34,570	2,853	13,707	1,099,600	48	17	13	12
Fukuoka-ken.	10,953	5,821	634	189	345	6,989	245,924	10,723	2,375	4,154	263,576	42	17	13	12
Oita-ken.	24,734	13,497	1,834	270	1,460	17,061	567,924	26,772	2,884	14,851	612,431	42	15	11	10
Saga-ken.	10,858	5,768	670	180	344	6,962	225,013	14,160	1,932	2,370	243,475	39	21	11	7
Kumamoto-ken.	36,001	25,065	3,086	754	1,232	30,137	1,283,904	54,345	9,434	14,810	1,362,193	51	18	13	12
Miyazaki-ken.	18,931	11,277	1,581	138	745	13,739	473,334	23,592	1,584	9,963	508,443	42	15	12	13
Kagoshima-ken.	16,631	9,941	1,294	471	931	12,337	401,694	18,859	1,932	10,545	433,021	40	15	11	11
Okinawa-ken.	301	89	47	10	11	157	2,203	705	100	88	3,096	25	15	10	8
Hokkaido.	7,946	3,884	526	464	317	5,191	166,680	8,194	5,104	4,276	178,254	41	15	11	13
Total.	3,951,350	2,167,747	269,295	50,769	196,377	2,624,128	94,886,706	4,990,274	657,417	2,597,407	103,131,804	45	19	13	13

District.	Amount of Production of Summer Cocoons.				Amount of Production of Autumn Cocoons.			
	1903	1902	1901	1900	1903	1902	1901	1900
	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.
Tokyo-fu.	106	211	454	865	21,425	16,632	15,954	16,607
Kyoto-fu.	6,194	9,507	7,067	8,492	2,163	1,071	408	319
Osaka-fu.	670	860	774	939	80	25	19	28
Kanagawa-ken.	1,395	1,840	1,151	1,325	18,565	17,138	12,616	13,512
Hyogo-ken.	4,347	7,324	4,863	5,693	403	246	269	265
Nagasaki-ken.	614	582	527	524	273	166	84	55
Niigata-ken.	5,329	4,965	5,691	6,919	3,575	2,296	2,716	2,817
Saitama-ken.	4,817	4,822	4,228	5,009	48,246	38,002	45,474	35,693
Gunma-ken.	2,289	2,007	2,483	4,803	50,746	37,010	46,963	42,287
Chiba-ken.	3,830	3,030	2,697	2,294	17,553	10,182	8,221	6,889
Ibaraki-ken.	6,126	6,304	5,092	6,105	29,233	19,596	17,103	13,337
Tochigi-ken.	3,782	4,132	3,443	3,147	10,616	4,885	3,553	2,738
Nara-ken.	2,496	2,670	1,671	2,587	724	548	728	429
Mie-ken.	10,193	10,157	8,494	8,739	7,100	5,366	4,121	3,101
Aichi-ken.	29,922	24,139	17,981	21,863	29,905	27,236	19,006	24,270
Shizuoka-ken.	6,679	6,769	4,124	19,785	14,389	14,410	11,001	14,275
Yamanashi-ken.	3,504	3,730	2,956	4,173	32,325	28,642	19,106	17,252
Shiga-ken.	30,988	36,323	41,919	47,125	5,446	2,322	3,232	1,652
Gifu-ken.	24,039	32,135	27,000	27,579	29,634	24,508	14,561	12,542
Nagano-ken.	127,521	111,497	122,852	114,923	131,812	108,409	114,974	103,973
Miyagi-ken.	3,217	1,866	786	819	7,836	1,689	1,895	2,581
Fukushima-ken.	35,644	24,946	29,489	28,634	42,378	24,216	18,385	16,018
Iwate-ken.	2,634	719	874	797	854	133	123	32
Aomori-ken.	377	203	278	243	22	3	—	15
Yamagata-ken.	3,401	1,009	1,454	947	4,849	1,233	624	184
Akita-ken.	440	419	401	369	27	12	18	12
Fukui-ken.	9,347	10,568	9,837	11,219	180	12	12	5
Ishikawa-ken.	8,454	8,094	8,259	8,450	2,610	1,664	1,506	1,173
Toyama-ken.	3,172	2,759	2,935	4,869	288	136	174	91
Tottori-ken.	3,958	3,693	2,665	3,106	3,278	1,458	717	890
Shimane-ken.	1,586	1,614	1,295	1,548	5,122	2,751	2,120	1,703
Okayama-ken.	2,865	2,565	2,174	2,135	2,742	1,325	1,099	884
Hiroshima-ken.	387	298	353	358	1,094	664	616	899
Yamaguchi-ken.	1,024	1,031	1,035	1,004	3,093	2,022	595	294
Wakayama-ken.	1,009	1,132	688	578	1,836	1,617	1,312	1,237
Tokushima-ken.	2,318	3,567	2,134	1,910	2,989	679	501	156
Kagawa-ken	153	84	71		226	84	56	44
Ehime-ken.	4,242	4,240	2,663	2,991	3,707	2,590	1,248	874
Kochi-ken.	5,658	4,301	3,688	4,733	4,624	3,912	2,768	1,710
Fukuoka-ken.	924	923	504	541	332	69	60	71
Oita-ken.	3,351	2,791	1,796	2,088	2,343	2,006	744	725
Saga-ken.	2,357	2,299	1,910	1,995	663	730	501	256
Kumamoto-ken.	3,533	4,051	2,312	2,383	7,642	6,025	4,766	3,436
Miyazaki-ken.	1,983	1,782	1,010	992	2,074	1,106	827	847
Kagoshima-ken.	1,803	1,386	1,105	1,253	1,717	1,045	841	484
Okinawa-ken.	2	11	26	57	—		25	59
Hokkaido.	833	417	455	424	—	—	—	—
Total.	378,897	359,772	345,617	377,466	555,800	414,516	381,892	347,631

STATISTICS.

THE TABLE OF COCOONS AND RAW SILK OF JAPAN IN 1903.

(Continued.)

EGG-CARDS HATCHED AND PRODUCTION BY DISTRICTS.

District.	No. of Egg-cards hatched spring summer and autumn.				Amount of Production.				Amount of Production of spring Cocoons.			
	1903	1902	1901	1900	1903	1902	1901	1900	1903	1902	1901	1900
					koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.	koku.
Tokyo-fu.	113,434	110,918	117,972	122,034	81,739	71,639	76,278	83,287	60,154	54,796	59,870	70,814
Kyoto-fu.	84,409	86,223	77,728	99,429	40,131	42,070	38,323	45,861	31,774	31,492	30,848	37,050
Osaka-fu.	4,918	4,710	5,341	5,754	2,712	2,881	3,823	4,933	1,962	1,936	3,030	3,956
Kanagawa-ken.	107,619	98,562	94,283	97,152	80,755	72,869	74,682	79,576	60,795	53,891	60,915	64,739
Hyogo-ken.	76,256	79,121	74,053	75,250	44,718	50,527	45,737	56,384	34,968	42,957	40,605	50,426
Nagasaki-ken.	4,647	3,850	3,536	3,291	2,681	2,284	2,636	2,538	1,794	1,536	2,025	1,959
Niigata-ken.	86,437	83,294	80,414	78,714	48,299	64,724	62,588	58,354	36,195	57,493	54,151	48,618
Saitama-ken.	342,932	325,848	314,319	295,654	215,508	204,467	161,235	202,530	162,445	161,643	141,533	161,828
Gamma-ken.	423,948	422,758	438,745	435,268	218,179	204,713	215,625	272,837	165,144	165,796	166,179	225,767
Chiba-ken.	92,740	82,590	79,469	73,314	68,549	58,634	55,181	55,250	47,157	45,422	44,263	46,067
Ibaraki-ken.	144,359	139,535	126,408	99,245	97,107	108,956	87,716	92,434	61,748	83,066	65,521	72,992
Tochigi-ken.	50,973	49,760	51,192	49,754	47,217	43,203	40,973	37,672	32,819	34,186	33,977	31,787
Nara-ken.	15,471	16,203	16,230	15,325	10,148	9,434	9,464	11,833	6,928	6,246	7,065	8,877
Miye-ken.	74,920	67,531	67,853	63,655	49,099	46,609	45,730	50,696	31,806	31,086	33,115	38,856
Aichi-ken.	167,016	148,829	130,985	129,060	122,873	108,485	90,523	112,456	63,045	57,110	62,533	66,323
Shizuoka-ken.	104,059	98,861	101,783	110,166	78,986	66,828	68,081	101,062	57,938	45,649	52,956	67,602
Yamanashi-ken.	162,159	131,763	149,679	153,797	135,865	83,862	95,142	104,547	100,033	51,490	73,130	83,122
Shiga-ken.	195,736	216,860	213,591	181,315	66,832	79,438	88,030	96,753	31,298	40,793	42,879	47,956
Gifu-ken.	187,801	150,214	147,803	148,147	131,708	124,605	104,839	118,292	78,095	68,423	63,278	78,171
Nagano-ken.	573,065	564,790	559,552	575,139	422,027	426,372	445,671	423,608	362,694	266,366	297,845	264,802
Miyagi-ken.	83,517	85,589	87,492	72,137	51,169	65,059	60,391	60,775	40,116	61,504	57,800	57,975
Fukushima-ken.	259,427	270,349	284,819	276,394	173,718	192,250	184,524	201,613	95,696	143,088	136,650	156,961
Iwate-ken.	51,355	51,265	48,139	47,146	28,903	38,247	30,887	36,949	25,385	37,395	29,890	36,120
Aomori-ken.	5,543	4,230	3,905	3,549	3,121	3,377	2,882	2,434	2,722	3,171	2,604	2,176
Yamagata-ken.	119,779	119,567	112,707	114,685	79,886	94,726	90,342	103,880	71,636	92,484	88,264	102,749
Akita-ken.	21,981	24,060	20,552	20,115	13,394	16,690	14,920	14,309	12,927	16,259	14,501	13,979
Fukui-ken.	63,426	60,550	57,654	55,117	27,872	32,119	29,991	36,641	18,345	21,539	20,142	25,417
Ishikawa-ken.	46,791	41,315	42,160	47,532	24,140	26,545	27,812	31,864	13,076	16,787	18,047	22,241
Toyama-ken.	26,141	25,826	27,272	28,670	12,911	14,352	15,496	20,775	9,451	11,457	12,387	15,815
Tottori-ken.	32,341	28,704	26,803	27,094	24,059	23,012	21,305	24,648	16,823	17,861	17,923	20,652
Shimane-ken.	39,232	28,212	27,567	30,479	24,752	18,336	19,840	23,056	18,044	13,971	16,425	19,835
Okayama-ken.	17,863	17,426	17,393	19,674	14,585	14,425	14,357	17,717	8,978	10,535	11,284	14,698
Hiroshima-ken.	9,383	9,331	10,869	11,060	7,185	6,436	8,293	9,165	5,704	5,474	7,324	7,988
Yamaguchi-ken.	12,995	11,050	8,909	7,706	9,941	8,183	6,698	6,249	5,824	5,130	4,758	4,861
Wakayama-ken.	16,873	17,697	17,235	17,384	10,841	9,503	11,658	12,786	7,996	6,754	9,658	10,971
Tokushima-ken.	20,720	17,914	14,311	15,000	11,658	9,283	7,953	7,088	7,271	5,037	5,318	5,622
Kagawa-ken.	2,916	2,672	2,650	2,532	2,265	1,578	1,700	2,031	1,886	1,440	1,573	1,924
Ehime-ken.	25,607	21,397	19,008	20,134	20,243	15,329	17,089	18,477	12,294	8,490	13,178	14,612
Kochi-ken.	47,345	44,196	37,310	37,223	25,707	15,943	21,770	23,188	15,425	8,630	15,314	16,745
Fukuoka-ken.	10,063	10,280	11,593	11,925	6,980	5,631	8,205	9,050	5,724	4,639	7,701	8,438
Oita-ken.	24,754	22,982	20,717	21,420	17,061	12,730	16,353	18,597	11,367	7,923	13,813	15,784
Saga-ken.	10,858	10,367	9,906	9,554	6,962	7,194	7,437	7,050	3,942	4,165	5,026	4,799
Kumamoto-ken.	36,001	33,168	33,313	29,748	30,137	22,478	28,315	23,945	18,962	12,402	21,237	18,126
Miyazaki-ken.	18,931	15,968	17,087	15,719	13,739	9,536	12,111	11,574	9,682	6,648	10,274	9,735
Kagoshima-ken.	16,631	14,099	14,490	13,204	12,337	9,653	10,647	9,331	8,817	7,222	8,701	7,594
Okinawa-ken.	301	207	869	443	157	153	203	253	155	136	152	137
Hokkaido.	7,946	5,490	6,015	5,550	5,191	3,905	3,465	3,734	4,358	3,488	3,010	3,310
Total.	3,951,350	3,883,654	3,831,211	3,731,967	2,624,128	2,549,224	2,526,181	2,753,903	1,689,431	1,774,936	1,798,672	2,020,806

of each age is more or less longer than the latter, and thus the number of days of the larval period is nearly similar in the two. Accordingly the quantity of the meals they consume is nearly similar in both.

The qualities of the average ten filaments of cocoons taken from the two sorts of silkworms fed throughout with Cudrania, and with Cudrania and mulberry are as follows :—

	Physical nature of the filaments reeled from the cocoons of silkworms fed with Cudrania only.	Physical nature of the filaments reeled from the cocoons of silkworms fed with Cudrania and mulberry.
Aver. length of ten filaments.....	516 aunes (613,08 metre)	527 aunes (627,13 metre)
Aver. weight of ditto at the length of 400 aunes.....	0,147 grms.	0,146 grms.
Aver. titre of ditto.....	1,96 denier	1,96 denier
Aver. number of duvets of ditto.....	1,1	0,5
Aver. number of ruptures of ditto....	0,2	0,3

It is very interesting to observe that the parasitic maggot (Larva of Ugimyia sericariæ, Rond., which does terrible harm to our silkworms) is entirely absent in the Cudrania race fed absolutely with Cudrania triloba, Hance, while that which is fed with the same plant and later with mulberry trees, is more or less infested by this pest. Consequently if we feed the Cudrania race exclusively with Cudrania triloba, Hance, it will be entirely free from the parasite, and the crops will be superior than if fed exclusively or partly with mulberry.

The results obtained from the foregoing experiments may be summarized as follows :—

1st. The Cudrania race of silkworms, which passes only four stages instead of five, has nearly the same length of larval period with our native races, and the consumption of the meals is also similar to the latter.

2nd. The quality and quantity of the filaments reeled from the cocoons of the Cudrania race, are never inferior to our native races.

3rd. If the Cudrania race is fed exclusively with C. triloba, Hance, it is entirely free from the parasitic maggot, which does great harm to our native sikworms.

Explanation of Plate.

Fig. 1. Branch of Cudrania triloba, Hance 1/2.
Fig. 2. Mature sikworm forming a yellowish cocoons 1/1.
Fig. 3. „ „ „ a whitish cocoon. 1/1.
Fig. 4. White cocoon. 1/1.
Fig. 5. Yellow cocoon. 1/1.
Fig. 6. Ditto of varied coloration. 1/1.

leaves of Cudrania were chopped a little larger than in the previous age, and given regularly six times a day. Average length of ten largest worms at the end of this stage was about 2.1 cm. On the 22nd May, the worms began to moult.

3rd stage: On May 22nd, all the worms completed the 2nd moulting. The leaves of Cudrania were chopped still larger than in the previous stage, and given regularly six times a day. The average length of ten largest worms at the end of this age was about 4 cm. Moulting began on the 29th.

4th stage: On the 31st, all the worms accomplished the 3rd moulting or casting. From the beginning of this age, the worms were separated into two groups A and B. To A, the leaves of Cudrania (chopped or entire) as usual, and to B, those of the mulberry (chopped or entire) were given regularly five times a day. On June 6th, the worms of the two groups attained maturity, and commenced to spin cocoons. The average length of ten largest worms fed with mulberry leaves was 7.1 cm., and their average weight 2.6 grms., while that of the same number of the worms fed with Cudrania, was 7.7 cm. and their average weight 3.4 grms.

In each of these two groups of worms, one fed only with Cudrania and the other with Cudrania and mulberry leaves, there appeared two sorts of worms differing in coloration of the body as well as of the cocoons.

The first sort of worms, which are more numerous than the 2nd and which are taken as the materials for my exprinents, is white tinged more or less with a yellowish shade. The markings on the anterior three body segments are light greyish yellow with a pair of dark greyish spots on either side of the median dorsal line of the 2nd segment. A pair of hook shaped markings of a light purplish hue lies on the 5th and 8th segments. The ventral side of the body as well as the legs are light yellow (Fig. 3).

The second sort of worms, which are less numerous than the first is white, with a faint bluish color; but no trace of yellowish shade. The markings on the anterior two body segments are dark grey. The two pairs of spots on the 2nd body segment, are conspicuously black. The 3rd body segment bears no markings. The markings on the 5th and 8th segments are small and indistinct, but are still of a pale purple. The ventral side of the body as well as the legs are not yellowish (Fig. 4.)

The worms of this race, without passing the 4th moulting or casting, which is usually the case in other silkworms, became mature on June 6th, and spun cocoons.

On the 23rd and 24th of June, the moths issued from the cocoons and laid eggs as usual.

The cocoons are long spindle shaped or elongated oval in shape (Fig. 5. 6. 7.) Their length varies from 37 to 43 mm. and their breadth is 15 mm. on the average. The coloration is of two sorts—white and orange yellow.

The whitish cocoons (Fig. 5.) are formed by the worms, which have no trace of yellowish color on the body and legs; and the orange yellow ones, by those having a yellowish color in their body and legs (Fig. 6. 7.). The cocoons are destitute of a contriction or depression at the middle, which is present nearly in all of our native races of silkworms. The wrinkles on the surface of the cocoons are moderate. The tissue of the cocoons is more or less hard and compact, but in some cases, they are soft and thin. The average weight of 20 empty cocoons (pupa removed) formed by the worms fed throughout with Cudrania is 0.2135 grms., while that of 20 empty cocoons formed by the worms fed with mulberry from the beginning of the 4th stage, that is, after the 3rd moulting is 0.2065 grms. Thus the different meals given to the silkworms after the 3rd moulting, does not affect their health as well as their growth to any larger extent, and moreover, we see from the above that the empty cocoons of the worms fed with Cudrania are sensibly heavier than those partly fed with mulberry.

If we compare the duration of the larval period of the Cudrania race of China with that of our native race Awobiki, there is not any great difference between them, although the former becomes mature and commences to spin cocoons already after the 3rd moulting, instead of the 4th, which our native races generally pass through.

The following shows the duration of each age of the two races of silkworms:—

	Cudrania race (fed only with Cudrania, and with it and mulberry)	Awobiki race
1st stage	8 days	7 days
2nd stage	8 "	5 "
3rd stage	9 "	6 "
4th stage	7 "	7 "
5th stage	— "	8 "
	32 days	33 days

From the above table, we see that although the Cudrania race passes through only three moulting, that is, one moulting less than our native races, the duration

CONTRIBUTIONS. OPINIONS.

On the Feeding of Silkworms with the Leaves of Cudrania triloba, Hance.

BY

Prof. C. Sasaki, *Rigakubakushi.*

(WITH A PLATE.)

Some years ago, I tried several times to feed our native silkworms (Race Awobiki) with the leaves of Cudrania triloba, Hance (Figs. 1.) which has been cultivated in the farms of our college since its introduction from China, but my attempts were then unsuccessful, as no cocoons could be procured. My friend, Mr. Minemura, who travelled in the central part of China last year, has collected for me some eggs of silkworms largely cultivated in Si-chuen in China, where the Chinese feed them partly with Cudrania and partly with mulberry leaves.

This year, I have succeeded to rear the Chinese race by the careful aid of my special student, Mr. Y. Tsuji, and was able to procure cocoons. The results obtained by rearing it with Cudrania, are as follows:—

First stage: The larvæ or silkworms of the Cudrania race[1] came forth on May 5th at the temperature of 65°—68° F. They were fed with finely chopped leaves of Cudrania, regularly seven times a day. The average length of ten largest worms at the end of this age was about 1 c.m. Moulting began on May 12th, and ended on 13th.

2nd stage: On May 14th, all the worms completed the 1st moulting. The

1 I have named the Chinese race feeding on Cudrania triloba, Hance, "Cudrania race."